

一 左ノ寄贈品ヲ受納スルコト

(一) 機械學會誌 第四卷第五號 一部 寄贈者 機械學會

(一) スーラバマ鐵道築港(荷蘭文) 同 同 磯村平策君

○規則第二條第三項ニ依リ工學士(電氣)林菊太郎君ノ氏名ヲ會員名簿ニ登録シ會員証ヲ送付シタリ 紹介人 玉木辨太郎君 紹介人 三宅順祐君

○左ノ三君ノ氏名ヲ會員名簿へ登録シ會員証ヲ送付シタリ

准員工學士(建築)河合幾次君 紹介人 辰野金吾君 紹介人 中村達太郎君

准員工學士(建築)田島橋造君 同 同 同 同

准員工學士(火藥)楠瀬熊治君 同 同 同 同

○前報告后去月末日迄ニ規則第八條第三項ニ依リ左記諸君ノ氏名ヲ准會員名簿ニ登録シ會員証ヲ送付シタリ

吉田健藏君 紹介人 藤謙君 西川新太郎君 紹介人 日下部辨二郎君

森井虎太郎君 同 武笠清太郎君 西門善三郎君 同 不破熊雄君

大嶋六郎君 同 同 同 同

正誤 前卷四百四頁一行會員十一名ハ十九名准員廿三名ハ州三名ノ誤 主事

○論說及報告

白耳義國安土府港

工學博士

石黒五十二君

本書ハ昨明治三十三年歐洲巡廻ノ節安土府ニ至リ實見シタルモノト同港技師長セ
 るびーろ(J. A. Perrot)氏ヨリ聞キタル處ノモノト尙ホ其後同氏ノ厚意ニテ送ラレタ
 ル書類及ヒ一千八百九拾八年ノ編輯ニ係ル統計表等ニ就キ其内ヲ拔萃シテ茲ニ掲
 載シタルニ過ズ此書若シ讀者諸君ノ幾分歎參考トナラバ編者ノ幸トスルトコロナ
 リ又タ地名等ノ如キハ英音ヲ用ヒタルモアリ佛音ヲ採リタルモアリ或ハふれみし
 音ノ儘ナルモノモアルヲ以テ其區々タルヲ免レス故ニ歐字ヲモ併記セリ請フ之ヲ
 諒セヨ

○ゑすこー河ノ事

白耳義國安土府市ハ歐洲大陸中ノ第一等ニ位スル港ノ一ニシテ其人口ハ一千八百九拾七年
 十二月三十一日ノ調査ニヨレバ二拾八萬二千八百七拾貳人ナリ之ニ郭外ニ住スル人口ヲ合
 スル時ハ參拾四萬人ナリ而テ其面積ハ壹千九百五拾五へくたる(我壹千九百七拾壹町步余ニ
 シテ内四百參拾へくたる(我四百參拾參町步余)ハ市ノ城郭外ニアル面積ナリ
 安土府市ハゑすこー河ノ右岸ニアリ又タゑすこー河ハ其河幅滿潮ノ時ニハ四百五拾米突(我
 貳百四拾七間半)干潮ノ時ニ於テハ四百米突(我貳百貳拾間)ナリ安土府市ハ海ヲ距ルコト八拾八
 きろめーどる(我貳拾貳里拾四丁余)而テ和蘭陀國ノ境界ヨリ少シク上流ニ位スル(Doel
 ナルケ所ヨリ)下流北海ニ達スル迄七拾きろめーどる(我拾七里貳拾九丁余)間ハ所謂河口ニシ
 テ河ノ形チ入江ノ趣ヲナセリ
 ゑすこー河ヨリ北海ニ通スルニ左ノ四通路アリテ皆航通ニ適ス即チ

ういりんげん (ie Wielingen)

すぶりー (Spleet)

でうろー (Deuroo)

おすとがつと (Oostgat)

ういりんげん (Wielingen) ナル通路ハ交通最モ頻繁ニシテ其區域ハ南ハへつとん (Hetzand) ノ丘及ヒびんねんばあるでまあるくと (Binnen Parendamke) ノ洲ヨリ始マリ海岸ニ沿フテ北ハりぶざんと (Rijzand) トはむべるす (Hompels) トノ洲ニ至ル間ヲ云フ尤モりぶざんとノ内ニハへすすと (Heyst) のつく (Knocke) 等ヲモ含ム

すぶりー (Spleet) ナル通路ハ南りぶざんと (Rijzand) 及ヒはむべるす (Hompels) ヨリ北らわん (Raan) ノ大丘及ヒゑれぶー (Elleboog) 及わるういしたー (Walvischstaat) ニ至ル間ニシテ此通路ハ吃水五めーとる以下の船舶ニアラサレハ航通ナシカタシト雖モ一千八百七拾八年以來漸次深クナリテ一千八百九拾二年ニ於テハ拾八米突乃至貳拾米突ノ深サヲ有スルニ至リタリ斯ノ如キコハ古來未タ曾テアラサルトコロナリト云フ

でうろー (Deuroo) ナル通路ハらすせん (Rassen) すらとらん (Zouteland) がるー (Kalo) 等ノ洲ニヨリテおすとがつと (Oostgat) トノ通路ヲ界シ其入口ノ深淺常ニ異ルヲ以テ交通甚タ不便ナリ大船ハ滿潮半ハ以上ニアラサレバ此通路ニ入ルコヲ得ズ

おすとがつと (Oostgat) ナル通路ハわるせれん (Walcheren) 嶋ノ西南岸ニ沿フテ北方ヨリ來ル船舶ノ通路ニシテかわぶと (Kappduinen) ノ燈臺ノ處ニ於テでうろー (Deuroo) ノ通路ニ合ス

ういりんげん (Wielingen) ノ通路ハ英國海峽ヨリ來ル船舶ニシテ系すこー河ノ河口ニ來リ夫ヨリ北ニるしてんげん (Ruytingen) 及ヒ東方ニでい (Dijk) ノ洲南ニふあいり (Fairy) 及ヒらゑすてい

んでる (Washinder) ヲ通過シテ此通路ニ入ルモノトス

此等ノ航路ハラゑすていんでる (Washinder) うあんでらー (Wandelhar) 及ヒういりんげん (Wieling) (ナル) 一等光力ノ浮燈臺ヲ以テ標示シ且ツゑすこー河ノ中ニモ燈臺ヲ以テ船舶ノ取ルヘキ航路ハ委ク之ヲ標示シ又タふれしんぐ (Fleasuring or Flasing) 上流ニ於テ航海シ得ヘキ通路ハ數多ノ浮標ヲ以テ同シク之ヲ標示シアリゑすこー河ヲ溯ル時ハ水先案内者ハ黒色ノ浮標ヲ左舷ニ赤色ノ浮標ヲ右舷ニシテ進行スルモノトス

○河底浚渫ノ事

ゑすこー河ノ通路保存ハ凡テ政府ノ負担ニシテ灣奥ナル河口ニ於テハ浚渫スルノ必要ナシト云ヘル安土府ノ下流ニ於テハ政府ハゑすこー河通路改良ノ爲メニ常ニ浚渫工事ヲ執行スゑすこー河ノ左岸めるせる (Melsele) ノ附近ニ於テハ左岸河中ニ突出スルヲ以テ退潮ヲ右岸ニ押シ付ケ潮勢ノ一部此處ニ殺ガル、ヲ以テ自然ニ一大堀穿ヲナシ其下流ノ深サヲ害スルヲ少シトセズ故ニめるせる (Melsele) ノ突出シタル部分ヲ取除キ退潮ヲ左岸ニ沿フテ流下セシメ前述ノ不便ヲ除カン爲ニ一工事ヲ起シテ更ニめるせる (Melsele) 及ヒへるう (Perte) ノ間ニ新通路ヲ開ケリ之ヲくらんけるーん (Krankeloon) ノ通路ト稱ス

此工事ハ一千八百九拾四年九月三日ニ着手シ一千八百九拾七年ニ竣工ニ至ル迄ハ絶エズ工事ヲ施行シ唯一千八百九拾四年ヨリ一千八百九拾五年ニ至ル間ノ冬季二ヶ月間丈ケハ工事ヲ休ミタルヲアリシ迄ナリ

此河身改修工事ノ結果トシテ船舶ハ此岸ヨリ對岸ニ渡リ且ツ屈曲シテ航通スルヲ要セサル

トナリ一千八百九拾六年ノ冬ノ初メヨリ左岸ニ沿フテ直行スルヲ得ル様ニナリ加ルニ以前ノ六米突ノ深サハ今日ニ於テハ干潮ノ時ト云ヘル八米突ノ深サヲ有スルヲ得ルニ至レリ

此他くるいしやん(Krusschans)ノ屈曲ノ下流ノ端ヨリりろ(Liio)ナル通路ノ上流ノ端ニ至ル間ニ於テハ一大洲及ヒ小丘等ノ障害物アリタレル此障害物取り除キノ工事ハ一千八百九拾六年九月ヨリ起工シ一千八百九拾七年ノ終リニハ遂ニ最小幅員八拾米突ヲ有スル充分深キ通路ヲ得ルニ至レリ此工事ハ格別ノ困難モナク又タ航通ヲ杜絶スルヲモナクシテ工事ヲ竣工シ尙其後ト云ヘル大ニ改良工事ヲ施シタルヲアリ而シテ此工事ノ竣工後ハ安土府港ヲシテ歐洲最良ノ一港タラシムルニハ單ニ足すコト河ヲシテ常ニ航海ニ適當ナラシムル丈ケノ保存工事ヲ施スノミニテ足レル事トナリタリ然レル政府ハ目下尙安土府及りろ(Liio)間ノ河ノ屈曲ヲ改良シテ一層此通路ヲ利用センコトニ付取調中ナリ

此工事ノ如何ニ關セス安土府港ノきーウおる(Quay-Wall)即チ岸接繫船壁ヲシテ北方ニ延長シ必要ニ應シテ順次此河ト交通ノ出來得ル船溜場ヲ築造スルヲ目下ノ急務ナルヘシ

○曳船ノ事

安土府ニ入港スル船船ハ曳船ヲ雇フト雇ハサルトハ其船長ノ任意ニシテ若シ雇ハントスル時ハ船長ト曳船營業者間ノ契約ニ由リ之ヲ行ヒ而テ其曳船料ハ船長ト曳船營業者間ニ左ノ定規アリ

安土府ヨリふれしんぐ(Flessingue)ニ往又ハ復ノ曳船料ハ略左ノ如シ

船舶噸數

曳船料

船舶噸數

曳船料

貳百噸以下

參百法

貳百壹噸ヨリ參百噸マテ

參百五拾法

參百壹噸ヨリ四百噸マテ

參百七拾五法

四百壹噸ヨリ五百噸マテ

四百貳拾五法

五百壹噸ヨリ一千噸マテ

六百五拾法

一千壹噸ヨリ一千五百噸迄壹千法

一千五百壹噸ヨリ貳千噸迄千貳百五拾法

貳千噸以上ハ其都度ノ契約ニ依リ曳船料ヲ定ムルモノトス

普通ハ前記ノ曳船料ヨリ貳割五分ノ割引ヲナシテ第二流ノ曳船ヲ供スルモノトス而テ其曳船料ハ略前記ノ如クナリト云ヘル其實一定シタルモノニアラズシテ時ト場合ニヨリ隨分少ナカラサル割引ノ行ハルモノト知ルヘシ

一千八百九拾七年中ゑすこー河ニ於ケル曳船ハ左ノ曳船業者之ヲ營業トセリ而テ其曳船ハ凡テ暗車形瀛船ナリ

曳船業者名

使用船名

馬力

せろつと氏(J. Loh)

じよんびさあす(John B. Mas)

百拾馬力

同人

あめりか(America)

百拾馬力

同人

うゐる(Valle)

八拾馬力

同人

のるうゐ(Norway)

八拾馬力

同人

くらんぱ(Klampen)

四拾五馬力

曳船株式會社

ぶれしだんでらういん(President Andrew's) 參百馬力

同社	でいれくとるびりんぐ(DirecteurGerling)參百馬力
同社	ふれしだんかん(President Kind) 貳百馬力
同社	サムソン(Samson) 百四拾馬力
同社	いんふちがーぶ(Infatigable) 百貳拾馬力
同社	いねるせ(Energie) 百貳拾馬力
同社	ゴリアス(Goliath) 百馬力
同社	へるきう(Hercules) 百馬力
同社	ぷろぐレ(Progress) 八拾馬力
同社	しくせ(Succés) 八拾馬力
同社	てな一す(Tenace) 八拾馬力
同社	あろる(Alerte) 八拾馬力
同社	こんきうらん(Concurrent) 七拾五馬力
同社	こすもぼりつ(Cosmopolite) 七拾五馬力
同社	ほねー(Poney) 六拾馬力
白耳義曳船組合	じよんぶる(John Bull) 百七拾五馬力
同組合	わしんぐとん(Washington) 百七拾五馬力
同組合	れをぼると第一世(Leopold I) 五拾馬力
同組合	れをぼると第二世(Leopold II) 五拾馬力

れつちんく商會(Letter, TycketC)	わくちん(Actif)	六拾馬力
同商會	わいん(Aigle)	六拾馬力
同商會	らびん(Rapide)	六拾馬力
同商會	てるもん(Termonde)	五拾馬力
同商會	がたりな(Gatharina)	四拾馬力
同商會	じうる(Jules)	四拾馬力
同商會	ぶおるわー(Vorwarts)	四拾馬力
同商會	でんた(Dentler)	參拾馬力
同商會	れんふお(Renfort)	參拾馬力
同商會	るべる(Rupel)	參拾馬力
同商會	これつ(Golette)	貳拾五馬力
同商會	じよん(Johnny)	貳拾五馬力
同商會	しまる(Scheide)	參拾馬力
同商會	ひろんや(Hirondelle)	參拾馬力
同商會	まね(Mary)	參拾馬力
同商會	こるねりや(Cornelia)	六拾馬力
同商會	がみるせに(Virginie)	六拾馬力
同商會	れちん(Result)	貳拾五馬力

同商會

あどりわん(Adrien)

貳拾五馬力

同商會

てれふーん(Telefoon)

貳拾馬力

同商會

あるでこんだ(Aldegonda)

貳拾馬力

ぐるすどらいてん氏(Verstralen)

ますこつら(Mascotte)

參拾馬力

けん氏(Kaines)

えどもん(Edmond)

參拾馬力

同人

じよん(John)

拾五馬力

ぐるみゆれ氏(Vermeulen)

ぱすぱつら(Passe-partout)

參拾五馬力

舟夫組合株式會社

第一ゆにおん(Union I.)

參拾馬力

同社

第二ゆにおん(Union II.)

貳拾馬力

同社

第三ゆにおん(Union III.)

貳拾馬力

水陸交通ノ連絡

安土府ノ地理上ノ好位置タルハ云フ迄モナク良好ニシテ最大ノ船舶系すこ一河ヲ溯リテ安土府港ノ岸接繋船壁ニ直接横附トナリ其河口ノ港灣ハ世界中最モ良ク保護セラレアルニシテ數多ノ運河ハ内地ニ深ク廣カリ加ルニ鐵道ノ四通八通スルアリテ安土府ハ歐洲ノ各地ト到ル處直接連絡ヲ通スルコトヲ得安土府市ハ此天然的及ヒ人爲的ノ好位置ノ外ニ商業上ノ便益ヲ有シ廉價ナル地稅貿易上ノ便益其他諸種ノ經濟上ノ機關ハ日々改良セラレ又タ曾テ此市ヲ衰滅ニ歸セシメタル戰亂ニ對シテハ今ヤ白耳義國ハ政治上局外中立ノ地位ヲ保ツ

ヲ以テ安土府市ヲシテ全ク其害毒ヲ避ケシメタリ如斯種々ノ特典ハ大陸ニ於テ他ニ殆ンド見ル能ハサル處ニシテ又タ此市ノ繁榮ヲ來ス大原因ト云ハサルヘカラス
要スルニ此市ニ於ケル過去數年間ニ於ケル船舶出入ノ噸數ハ大ニ見ルヘキモノアリテ其比例ハ運河鐵道等内地交通ノ便益ノ開クル割合ト共ニ増進セリ

○水運ノ事

今安土府市ト近傍諸國ノ商工業ノ中心トノ交通ニ關シ水運ノ便利上其通路ノ深サ及ヒ水門ノ幅員等ニ付大略左ニ述ヘントス之ニ依リテ内地ヲ交通スル船舶ノ容積等ヲ知ルコトヲ得ヘシ

ゑすこー河ハ北方ニ於テはんすらゐるこ(Hauswert)ノ運河ヲ經テみらす(Meuse)らん(Rhin)ノ兩河及ヒ和蘭陀南部ノ運河ニ通ス此運河ハ一千八百六拾七年十一月十一日ヨリ開通シ其深サ干潮ノ時六米突ニシテ滿潮ノ時ハ八米突ニ達シ且ツ水門ノ長サ拾五米突ナルヲ以テら
いん河ノ普通ノ船舶ハ何艘ニテモ同時ニ航通スルヲ得此通路ノ開ケサル前ニアリテハラをいんすざれひと(Woensdrecht)ノ堰ニテ止メアリタル東方ゑすこー河ノ支流ヨリ航通シタル
モノナリ第二ノ運河ハみつでるばる(Middelbourg)ヲ經ルわるせれん(Walcheren)ノ運河ニシテ此運河ハ一千八百七拾壹年迄ノ通路タリシすらー(Sloe)ノ通路ニ代用セラレタルナリ

安土府市ハ東方ニ於テハかむびん(Campine)ノ運河及ヒ其支線ニ依リテみらす(Meuse)河ニ通シ而テ此ゑすこー河トみらす河ヲ連絡スル運河ハ其竣工期限ニ依リ三區ニ區分シ第一區ハ一千八百四拾三年ヨリ一千八百四拾四年ノ間ニ開通シ第二ハ一千八百四拾六年ニ於テたる

んはうと (Turnhout) ニ通スル運河ト共ニ開通シ又々第三區ハ一千八百五拾六年ニ於テ竣工シタルモノニシテ第一第二ハ一千八百六拾五年ニ於ケル一大區分トス

一千八百五拾七年及八年ノ兩年ニ於テ分岐線ヲ開鑿シベダあるる一 (Beverloo) ノ平原及ヒはすせると (Hasselt) ニ通スルコトヲ得ルニ至レリ尙ざんじよぶ (S. n. d. d. r. e. canal St. Job-in-'t-Goor) ノ運河ニヨリたるんはーと (Turnhout) ニ通ス此運河ハ二區ニ區分シ第一區ハ一千八百六拾六年ニ於テ竣工シ第二區ハ一千八百七拾四年ニ開通セリ此接續運河ハ白耳義國々境ニ在ルぼしよると (Bochoit) ノ附近ニ於テ一千八百貳拾參年ヨリ一千八百貳拾六年ノ間ニ開通シタルぼあるでゆくあまあすとりひと (Le canal de Bois-le-Duc a Maastricht) ノ運河ニ通シ此運河ヨリまあすとりひとありーと (Maastricht a Liège) ナル一千八百四拾五年ヨリ一千八百五拾年間ニ開通シタル運河ニ通ス而テ此運河ハみゆす河ニ於テりーとニ至ル支線ニ分岐スみゆす運河ヨリゑすこー河ニ至ル航路ハ安土府ヨリゑす (Liège) ニ至ル通路ニシテ水門ハ七米突ノ幅ヲ有シ有効長サハ五拾乃至五拾六米突ナリ

此數多ノ運河ノ深サハゑすと、たるんはーと (Est de Turnhout) ナル分ノ壹米突六百五拾みりヲ除キ他ハ皆貳米突百みりナリ而テ此運河ハ又タぐろべんごんく (Grobendonck) 附近ニ於テぶちとねーと (Petite-Nèthe) ノ小運河ニ依リねーと (Nèthe) 及ヒるる (Rupel) ニ連絡ス

安土府港ハ其南方しやるれろあ (Charleroi) ナル工業地ヲ流ルハさむぶる (Sambre) 河及ヒ佛國北部トハ左ノ諸航路ニ依リ交通スルコトヲ得

第一 するる (Rupel) 河ハ潮ノ干満ニヨリテ差異アリ即チ其深サ壹米突六百乃至五米突

貳百五拾みりナリ

第二

ういるぶるー、(Wildebroeck)運河ハ一千五百六拾一年十月十二日ニ開通シ一千八百三拾年ヨリ一千八百三拾五年ノ間ニ掛ケ幅員ヲ廣メ河底ヲ浚深シテ今ハ其深サ參米突壹百みり又タ水門ノ幅七米突半ニシテ有功長參拾貳米突ナリ

第三

しやるれるわ (Charleroi)ノ運河ハ一千八百三拾貳年ニ開通シ一千八百五拾四年ヨリ一千八百五拾七年ノ間ニ改良工事ヲ施シタリト云ヘル其深サ僅ニ貳米突且ツ其水門モ長拾九米突幅貳米突七百みりナリシニ依リ更ニ改造シテ水門長サ四拾米突八百みり幅五米突貳百みり其深サモ貳米突四百みりヲ有スルニ至レリ

故ニ安土府ヨリしやるれるわニ通スル船舶ハ大ニ其容積ヲ増シ貳米突四百みりノ吃水ヲ有スル船舶ヲシテ自由ニ交通スルヲ得ルニ至レリ現今ハ三百噸ノ船舶モ自由ニ通過スルコトヲ得ルナリ

しやるれるわヨリぶらせるす (Bruxelles)ニ通スル運河ハ一千八百貳拾四年ヨリ一千八百貳拾八年ノ間ニ成工シタルさむぶる Sambre)ナル運河及ヒさむぶるヨリラース (Oise)ニ至ル運河ト相連續ス其深サ貳米突ニシテ水門幅五米突貳百みり而テ其有効長サハ三十七米突四百みり乃至三拾七米突六百みりナリ

しやるれるわノ運河ハ又タなむる (Namur)附近ニ於テさむぶる運河ノ下流ヨリみうす (Meuse)ニ通スルヲ得此通路ニハ深サ貳米突壹百みりヲ有シ入口ノ幅員五米突壹百四拾みりニシテ其有効長サ四拾五米突六百五拾みり乃至四拾七米突貳百六拾みりヲ有スル水門アリ

なむる(Namur)及ヒ佛蘭西國々境間ニ在リテ一千八百七拾年ヨリ一千八百八拾年ノ間ニ改修シタルみうす河ハ其水深貳米突壹百みりヲ有シ水門入口ノ幅拾貳米突有効長壹百米突ノモノニ依リ白耳義國ノ東南地方ヨリ佛國あるでん(Ardenes)ノ水路ニ連絡ス

安土府ハるべる及ヒるうグあん、お、せねがつと(Louvain au Senegat)ナル運河ニ依リるうグあん(Louvain)ニ通路ヲ有シ此運河ハ一千七百五拾貳年ニ開通シ而テ一千七百六拾年ヨリ一千七百六拾參年ニ至ル間及ヒ一千八百參拾六年ヨリ一千八百參拾七年ニ至ル間ノ兩度ニ改良工事加ヘラレタルモノニシテ其深サハ參米突六百みり又タ其水門ノ幅員ハ八米突貳百みり長サハ五拾六米突ナリ

ゑすこー河ノ下流ハ左ノ諸通路ニ依リ佛蘭西國ノ北方ニ通スルコトヲ得

第一 ゑすこー河ノ上流ヨリ直接ニがん(Cand)ヲ經テ佛國ノ國境ニ通ス其最低深サハ貳

米突壹百みりニシテ長サ四拾壹米突六百みり幅六米突半ノ水門アリ佛國ニ入りテハ水深貳米突ニシテ長サ參拾四米突幅五米突貳百みり乃至六米突四百みりノ水門アリ而テおーでなるが(Audenaerde)ノ上流ニ於テハ一千八百五拾八年ヨリ一千八百六拾三年ノ間ノ築設ニ係ルはずいとあくーるとこれ(Bossuyt a Courtrai)ナル運河ニ依リりS(Lys)ニ通ス其深サ貳米突貳百みりニシテ長サ三拾七米突六百五拾みり幅五米突貳百みりノ水門ヲ有ス又タ深サ貳米突幅五米突二百みり長サ參拾八米突半乃至參拾九米突六百みりノ水門ヲ有スルゑすびーる(Happart)及ヒるうべー(Roubaix)ノ兩運河ニ依リてゆる(Deule)ニ通ス

又タわんどわん (Antoing) ニ於テハ一千八百貳拾六年ニ築設サレタルほめれーる (Pommeroeu) ヨリわんどわんニ至ル運河ニ通シ而テ深サ貳米突貳百みり乃至貳米突參百みりニシテ幅五米突貳百みり長四拾米突八百みりノ水門ヲ經テもん (Mons) ヨリこんで (Condé) ニ至ル運河及だんどる (Dendre) ニ通ス

白耳義國ノ國境ヲ過クレハ深サ貳米突ニシテあらす (Arras) 迄通船ニ適スルすかーぶ (Scarpe) 河ノ流路アリ而テこんでニ於テハもんヨリこんでニ至ル運河ニ通ス此運河ハわんどわんノ運河ニ連絡スル迄ハ幅五米突貳百みり有効長參拾七米突半ニシテ深サ僅ニ貳米突ノ水門ニ依ラサルベカラズ之ヲ越ユレハ其他ノ分ハ幅ハ同シク五米突貳百みりナルモ長サハ四拾壹米突余ニシテ水深ハ貳米突貳百みり乃至貳米突四百みりマラトナルナリ

もんヨリこんでニ至ルノ運河ヨリ分岐シテ水深貳米突四百みりヲ有スルさんどる (Centre) ヨリほうでん (Houdeng) ニ通スル運河ノ連絡工事ハゑすこー河ヲシテしやるれろわへ通セシムルノ目的ニシテ遂ニ此目的ヲ達シタルヲ以テ現今ハ常ニ此深ヲ有シ且ツ此間ニアル水門ハ長四拾米突八百みり幅五米突貳百みりナリ前述ノ各運河工事ニ伴ヒ尙改良の工事ヲ施シ居ヒリ即チ其重ナルモノハ四箇ノ水力昇降器ニシテ此工事ニ依テ六拾六米突三百みりノ水位ノ差ヲ自由ニ上下兩方ニ相連結スルコトヲ得ルモノナリほうでんニ据附ケアル水力昇降器ハ既ニ竣工シ他ノ三ヶ所ハ過半其工事ヲ了リ而テさんどるノ運河ハ目下凡其三分ノ二ヲ開

通セリ

此連絡方法ニ依リゑすこー河上部トさむぶる(Sambre)トノ間ニ直接ノ交通ヲ開クルヲ得ルニ至レリ

ゑすこー河ノ上部ヨリハはむ(Ham)ヲ經テさんぐわんたん(Saint-Quentin)及ヒそむめ(Somme)ノ運河ニ通シ又タラーす(Dise)とむぶる間ノ運河ニ依リテ等シクラーす運河ニ通ス此通路ハ至ル處水深貳米突ニシテ水門ハ長參拾四米突幅員ハ五米突貳百みり乃至六米四百みりナリ

さんせ(Sausse)ナル運河ハどらゑー(Douai)ニ於テなむぶる及ヒでゆるノ兩運河ニ通ス

北部ヨリ巴里方面へ至ルノ運河ハ目下計畫中ニシテ工事成ル上ハさんせ(Sausse)ナル運河及ヒそむめ(Somme)ヨリペろね(Peronne)ニ至ル運河ニ接續シはむヲ經テ巴里ニ通スルモノニシテ此運河ノ水深ハ貳米突貳百みり水門ハ長參拾八米突半幅五米突貳百みりナリ

尙此外ゑすこー河ノ上流及ヒみゆす(Meuse)ヲ連結センカタメゑすこー河トさむぶる間どなーん(Donain)ヨリらんぞれし(Landrecies)間さむぶるとみゆす間及ヒらんぞれしトめせーる(Mézières)間トノ諸運河ヲ相通スルノ計畫アリ其水深ハ各貳米突貳百みりニシテ水門ハ長參拾八米突半幅五米突貳百みりヲ有セシメントス

第二 一千八百六拾三年ヨリ一千八百六拾七年ノ間ニ執行シタルだんぞる(Dendre)ナル

運河ニ依リてゐるものと(Ternonde)ヨリあつと(Ath)間は諸船ノ通行ニ適ス其水深ハ
 貳米突壹百みり乃至貳米突參百みりニシテ水門ハ長サ四拾壹米突七百七拾みり
 乃至四拾貳米突六百五拾みり幅五米突貳百みりナリ而テ又タ一千八百六拾八年
 ニ竣工シタルぶらとん(Baton)ヨリあつと(Ath)ニ至ル運河ニ依リテはめれゝる(Pom-
 meruul)ヨリあんとあんに至ル運河及ヒ其連絡運河ニ通スルコトヲ得

第三

りい(Lys)ノ通路ハがん(Gand)ヨリ佛國々境あるめんちゝる(Armentieres)ノ方面ニ至
 ル通路ナリ其深貳米突壹百みりニシテ水門長四拾貳米突幅五米突貳百みりナリ
 りハ河ハ一千八百七拾二年ニ開通シタル支線ニ依テるら(Reuters)ニ通シ又たく
 ーるとれ(Courrai)ヨリはすいと(Bosnyt)ニ至ル運河ヲ經テゑすこー河ニ通ス

此河ハ佛國々境ニ於テでゆるノ運河ヲ經テりーゆ(Lille)及ヒりー(Doai)ニ連
 續ス此通路ハ深サ貳米突ニシテ其水門長ハ參拾八米突七百みり乃至四拾米突四
 拾みり幅五米突貳百みりナリ而テ佛國ニ入りテハ通シテ貳米突ノ深ヲ有シ以テ
 ゑゝる(Aire)及ヒぬーふおあせ(Neufosse)ノ運河ニ通ス

ゑすこー河ハ尙左ノ諸通路ニヨリテ白耳義國西方ノ諸運河ニ通ス

第一 でゆるむ(Durne)運河及ヒ其線ニ依ル通路

第二 がん(Gand)ヨリぶるげ(Bruges)ニ至ル運河ニ依ルノ通路之ナリ此運河がんにヨリ

いニ至ル運河ノ支線ニ合ヌル迄ハ吃水貳米突半乃至貳米突九百みりニシテ此所
 ヨリぶるげニ至ル迄ハ其深サ貳米突貳百みり乃至貳米突半ナリ而テぶるげヨリ

ハふるげ及ヒおすてんど(Ostende)間ノ運河アリ其深サ四米突參百みり乃至四米突半ナリ夫ヨリふらしやんでーる (Plasschendaale) ナル運河ニ分岐シ深サ貳米突貳百五拾みり乃至貳米突半ヲ以テにうぼると (Neuport) ニ達シ而テにうぼるとヨリハ深サ貳米突貳百みりノ通路ヲ以テふあるんす (Fumes) ニ通ス

此運河ハ直接いせる (Yser) ニ通シ而テいふれ (Ypres) ニ達ス其水深ハ壹米突七百みり乃至貳米突貳百五拾みりニシテ其水門ノ有効長サ參拾七米突幅六米突貳百みりナリ

目下工事中ノイふれ (Ypres) ヨリこむみーん (Commines) ニ至ル運河落成 上ハ其水門長四拾五米突半幅五米突貳百みり而テ其水深ハ貳米突ナリ此運河ニ依リりい河ノ流域ニ相連絡スルヲ得ルナリ

るう (Loo) ナル運河ハ壹米突九百みりノ深サヲ有シいせる (Yser) ヨリふあるんすニ通スル運河ニ連絡ス

ふあるんす (Fumes) ヨリだんこるく (Dunkerque) ニ至ル運河及ヒふあるんすヨリべるく (Berques) ニ至ル運河ハにうぼるとナル運河ヲシテは、いふれ (Pas-de-Calais) ノ諸水路ニ連續セシム併シ吃水ハ僅ニ壹米突貳百五拾みり乃至壹米突參百みりヲ有スルノミナレモ向後ハ之ヲ少クモ貳米突ニ改造スルノ計畫ナリ

以上述ヘ來リタル諸通路ハ白耳義國內ニ於テ其延長貳千さろ米突我五百九里九丁余ニ達ス又タ土木局ノ統計ニ依ル時ハ白耳義國內地ノ水路ニヨル運輸中主タル貨物ハ石炭、こーく

す礦石、金屬、壁土、石灰、膠泥、石材、石盤、蠟石、化學的製品、硝子器、木材、農産物、其他諸種ノ産物ニシテ
 一千八百九拾三年ノ一ヶ年間壹千基壹噸ノ計算ニテ左ノ運送アリタルハ明ナリ

ゑすこ一河ノ上部及ヒだんど（てるもんど）ノ下流ノ通路ニ依テ 九〇六、七〇〇噸
 一、四六二、〇〇〇噸
 るべる及ヒ其附近ノ運河ニ依リテ

安土府ノ上流ナル所謂ば一、ゑすこ一河即チ下部ゑすこ一河ニ依テ 一、九一〇、〇〇〇噸

みゆすヨリゑすこ一ニ至ル運河及ヒたるんほ一どノ運河ニ依テ 七九一、〇〇〇噸

安土府ヨリ下ニ於テゑすこ一河ニ依テ交通スル河船ノ搭載量ヲ示サンニ一ヶ年略左ノ如シ

入船 壹百八拾九萬五千四百九拾七噸

出船 壹百六拾貳萬七千四百七拾六噸

合計 參百五拾貳萬貳千九百七拾參噸

白耳義國ニ於ケル水路ハ一千八百貳拾年ヨリ一千八百六拾年ニ至ル間ニ於テ非常ニ増加シ
 左記十ヶ年ノ統計ニ依リ其増加ノ割合ヲ知り得ヘシ然レモ鐵道敷設ノ増進ハ或ル物品ヲシ
 テ不經濟ナリトハ云ヘモ比較的の安全ニシテ速達シ得ヘキ瀛車便ニ依ラシムル傾キヲ生シタ
 ルヲ以テ鐵道敷設ノ増加スルニ及ンテハ水路ノ増加ヲシテ其増加力ヲ甚タ遲鈍ナラシメタ
 リ

現今ニ於テハ水路ヲ延長スルヨリハ寧ロ既設ノ水路ニ改良工事ヲ施コシ到ル處成ルヘク同
 一容積ノ船舶ヲシテ航通セシムルコトニ努メヲレリ

水路延長ノ割合

期間	築設長(米突)	前期ニ比シ増加シタル長
一八二〇年ヨリ一八三〇年ノ間	一、五一八四四四	
一八三〇年ヨリ一八四〇年ノ間	一、七〇七、一二〇	一八八六七六
一八四〇年ヨリ一八五〇年ノ間	一、八一八、五二九	一一一、四〇九
一八五〇年ヨリ一八六〇年ノ間	一、九一九七三一	一〇一、二〇二
一八六〇年ヨリ一八七〇年ノ間	一、九七六、〇一一	五六、二八〇
一八七〇年ヨリ一八八〇年ノ間	二、〇二二、九一九	四六、九〇八
一八八〇年ヨリ一八九〇年ノ間	二、〇三六、七一九	一三、八〇〇
一八九〇年ヨリ一八九三年ノ間	二、二〇五、一〇三	一六八、三八四

鐵道ノ事

水運ニ就テハ前記ノ通ニシテ少ナカラサル便益ヲ安土府ニ與タルト同時ニ又タ一方ニ於テハ近時大ニ鐵道ヲ布設シ以テ安土府ト白耳義國內地ヘハ勿論外ハ和蘭、獨乙ノ中部あるさすろれいん (Alsace-Lorraine)、瑞西、伊太利、佛國ノ東部地方及ヒ同ク北部地方ヘ直接ニ大ナル交通ノ便ヲ開ケリ

安土府ト白耳義國ノ北部及ヒ獨乙國中央部ヘ左ノ三大鐵道ヲ以テ連絡ヲナセリ即チ

- 一 安土府ヨリぐらぶばえ (Gladbach) ニ至ル鐵道線路
- 二 安土府ヨリはつせると (Hasselt) 及ヒさいすと (Saït) (Mastricht) ヲ經過シテゑらしやべる

(Aix-la-Chapelle)ニ至ルノ鐵道線

三 安土府ヨリまろーん (Maires) りーげ (Liege) びるるびる (Verviers) へるへすたる (Herbesthal) 及ヒぶれーるぐ (Bleyberg) ヲ經過シテころーん (Cologne) ニ至ルノ鐵道線路

ぶらせるす (Bruxelles) ヨリなむる及ヒるくせむびるぐ (Luxembourg) ニ至ル直接線路ハ安土府トすてるべにひ (StePenich) ヲ經テあるちするれいん (Alsace-Lorraine) 瑞西及ヒ伊太利ニ至ル線路ト相互ノ交通ヲ有ス

又タ東部鐵道ト佛國北部トノ接続ハるくせむびるぐなむるはいのー (Hainaut) 及ヒふらんごるおくしでんたる (Flandreoccidentale) 地方ノ鐵道數線ニ依リらんぐら (Longwy) さんめどー (Montmédy) ぶらぶ (Givet) めのる (Anor) もーぶーじ (Mauouge) ぶあれんしゃん (Valenciennes) ぶらぶ (Douai) りいゆ (Lille) あるめんちーる (Armentieres) はせぶるく (Hazebrouck) 及ヒだんこるく (Dunkerque) ノ方面ニ於テ之レカ連絡ヲナスコヲ得ルナリ

白耳義國北部鐵道ハるせんぞーる (Rosendaal) ちるぶるぐ (Tilbourg) 及ヒめらんちほうあん (Bindhoven) 方面ニ於テ和蘭國ノ鐵道ニ連絡ス

安土府港ハ地勢上其位置はーぶる (Lavré) ヨリモ却テ佛國ノ北部あるさするれいん及ヒ獨乙國ニ接近スルヲ以テ佛國ノ東部及ヒ瑞西國ニ對シテハ競争ノ位置ニアルモノ、如ク尙ホ延テぶれめん (Bremen) 及ヒはむばるぐ (Hambourg) ニ於ケル獨乙國ノ大部分ニ對シテモ等シク其距離短キカ故はーぶるトノ如ク競争ヲナスコヲ得ヘク今一層進ンテハ和蘭ノ諸港トモ相對スルコヲ得ルノ好位置ト云ハサルヘカラス

一千八百八拾貳年六月開通シタルさんごたー (Saint-Gothard) ノ鐵道用隧道ハ安土府港商業ノ發達ニ非常ナル影響ヲ與ヘタルモノニシテ此隧道ノ開通ハばー (Bale) ヒゆりヒ (Zurich) 瑞西ノ北部及ヒセのあ (Genes) みらん (Milan) ノ市街等トノ間ニ便易ナル通路ヲ開キ瑞西ヲ經テ歐洲東西諸國間北部ト及ヒ伊太利間ニ少ナカラサル運輸接續ノ便ヲ開始シタリ

一千八百七拾貳年ニ開通シタルもんせに (Mont-Cenis) ノ隧道ハ其開通ノ當時ニ於テ既ニ白耳義國をくせむばるぐ (Luxembourg) 及ヒあるがす (Alsace) ノ諸鐵道ヲシテ歐洲東部トノ間ニ接續運輸ヲナセシト少ナカラサリシカ尙さんごたーノ開通以後ハばー (Bale) ヨリセにーぶ (Geneve) ニ至ル迂路ヲ省キタルヲ以テおすてん (Ostende) 及ヒ安土府ヨリぶりんで (Brindisi) ニ至ル直接運輸ヲ盛ナラシメタルト非常ニシテ其結果安土府ハ歐洲大陸西部ノ諸港ニ比シみらん (Milan) ニハ最モ接近シタル港トナリタリ

今佛國北部ノ諸港ト及ヒ白耳義國北部ノ港トみらん間ノ距離ヲ比較セハ左ノ如シ
佛國ノ部

もんせにヲ經テかれ (Calais) みらん (Milan) 間 一三五四さろ米突(我三百四拾五里)

全上 ぶろーぎう (Boulogne) みらん (Milan) 間 一三一一さろ米突(我三百三拾里)

白耳義國ノ部

さんごたーヲ經テおすてん (Ostende) みらん間 一二五八さろ米突我三百貳拾里)

全上 安土府みらん間 一二七八さろ米突我三百里)

故ニ安土府ハぶろーぎうニ比シ百參拾參さろ米突(略我參拾四里)短距離トナリ又タかれ港ヨ

リスル線路ニ比スルキハ百七拾六きろ米突略我四拾五里ノ短縮を見ルガ故運送上經費ノ點ニ於テハ少ナカラサル相違アルハ明ナリ

奧國ハ一千八百六拾四年ニ於テあるふす(Aless)ヲ横斷スルぶれな(Brenner)ノ線路ヲ開キテ運輸ヲ行ヒ來リシモ尙世界的運輸上敗ヲ取ランコトヲ恐レ進テあゝるべく(Arlberg)一千八百八拾三年ニ開通スノ隧道ヲ開鑿シ奧國ちろる(Tyrol)及ヒ瑞西ノ東部北部ヲ連絡シ歐洲西部ヨリとりゑすと(Trieste)及ヒヅゑにす(Venise)ヲ一方面トシテいな(Vienne)ぶたへすと(Buda-pesth)及ヒこんすたんちのーぶる(Constantinople)ヲ他ノ一方面トシテ來ル交通ノタメ前記ノ諸市街ヘ直通連絡ヲ開キタリ

佛國ニ於テハさんごたーノ隧道開通ノ結果獨乙及ヒ白耳義國內諸港ヘ少ナカラサル利益ヲ吸收セラレタルヲ以テ佛國ト利害ヲ共ニスル伊太利及ヒ瑞西ト交渉シ更ニしむぶろん(Simpson)ノ隧道ヲ開鑿シさんごたー線ト競争ヲナサンコトヲ努メ居レリ

此しむぶろん(Simpson)開通ノ曉ニハ佛國中英國海峽ニ面スル諸港トみらん間ノ距離ヲ短縮スルコト左ノ如シ

かれ(Calais)みらん(Milan)間

一、二、三、八、きろ米突(略我三百拾五里)

ぶろーざら(Boulogne)みらん(Milan)間

一、一、九、五、きろ米突(略我三百六里)

然レモ安土府ハかれニ對シ六拾きろ米突略我拾五里又タぶろーざらニ對シ拾七きろ米突略我四里半ノ差ヲ生スヘキ優勢ノ地位ニアルヲ以テ此工事竣成スト云ヘモ貨物運送費ハ比較的佛國鐵道會社ニ於テハ高價ナラサルヘカラサルヲ以テ安土府ニ於テハ競争上恐ル、ニ足

ラサルモノト云フヘシ
 現今英國及ヒ安土府間ニ於ケル日々ノ交通ハ前記さんごたーヲ經テ伊太利ノ產物ヲ運送ス
 ルヲ甚々多シ

其他歐洲北部ヨリ印度支那日本等ノ東洋ヘノ輸送ハ現今ぶりんでせノ通路ニ依リ又々英國
 ヨリ前記東洋諸國ヘノ郵便物ハおすてんどばーる(Bilbao)さんごたーヲ經テぶりんでせニ至ル
 フ常通路トセリ

今英國及ヒ米國ト歐洲ヲ經テ印度間ニ於ケル商業ニ關係アル歐洲各國ノ諸港ヨリぶりんで
 せニ至ル距離ヲ比較センニ一千八百八拾二年ノもにとるわんだすとりゑる(Le Moniteur Indus-
 triel)ノ記スル處ニヨレバ左ノ如シ

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 安土府ヨリさんごたーヲ經テぶりんでせニ至ル距離 | 一九五四きろ米突 |
| おすてんどばーるヨリさんごたーヲ經テぶりんでせニ至ル距離 | 二、〇三〇きろ米突 |
| だんこるくヨリ全上 | 二、〇九〇きろ米突 |
| ぶろーぎらヨリ全上 | 二、〇九八きろ米突 |
| ぶれめんヨリぶれなヲ經テぶりんでせニ至ル距離 | 二、一〇八きろ米突 |
| かれヨリさんごたーヲ經テ全上 | 二、一一一きろ米突 |
| はーぶるヨリもんせにヲ經テ全上 | 二、一三七きろ米突 |
| はむばるくヨリぶれなヲ經テ全上 | 二、一六二きろ米突 |
| るべつさヨリぶれなヲ經テ全上 | 二、一八八きろ米突 |

此比較表ニ依ルトキハ安土府ハ最好位置ニアルモノト云ハサルベカラズ
 今白耳義國ニ於ケル鐵道線路ノ増加ノ割合ヲ水路増加ノ統計ト等シク左記ノ如ク每十ヶ年
 間ノ統計ヲ掲ケ之ヲ示サントス

期 間	起 工 線 路		合 計(米突)	十ヶ年毎ノ増加
	政府事業(米突)	會社事業(米突)		
一八四〇年十二月卅一日	三三、八〇三	三、三〇〇	三六、一〇三	—
一八五〇年全上	六四、二一九	二七、〇〇〇	八九、二一九	五二、一五六
一八六〇年全上	七四、六〇六	九八、〇七〇	一七二、六七六	八三、一五七
一八七〇年全上	八六、六八二	二、〇三八、三三〇	二、八九六、九九二	一、二六七、六六六
一八八〇年全上	二七九、五四	一、三〇、三九二	四、一、九〇六	一、二四九、二四四
一八九〇年全上	三、三〇九、〇〇〇	一、二六一、〇〇〇	四、四七〇、〇〇〇	三五八、〇九四
一八九五年全上	三、三三一、〇〇〇	一、四八一、〇〇〇	四、八三三、〇〇〇	三三三、〇〇〇

此表ニ依ルトキハ一千八百六拾年以後ニ於テ増加力著シク増加シ而テ其工事ハ多ク會社工
 事ニアリ

茲すこ一河ノ入河税ノ廢止及ヒ安土府ヨリ中央獨乙及ヒ瑞西國ヘノ鐵道連絡ノ續々竣工シ
 タルモ實ニ此期間ニアルモノニシテ尙普佛戰爭ノ役及ヒもんせに墜道ノ開通(一千八百七拾
 一年以後ハ一層鐵道工事ノ隆盛ヲ來シ白耳義政府ハ自ラはの(Handau)炭山地方ノ線路(一

八七一年)ぐらんぞでゆけーる(Grand-Ducal)ノ接續線(一八七二年)ナルぐらんぞるくせむびるぐ
 (Grand-Luxembourg)線(一八七三年)安土府ヨリ和蘭國々境ニ至ル線路(一八八〇年)ふらんぞる(Blan
 dres)線ノ一部(一八七八年)安土府ヨリがんでい(Grand)及ヒがんでい(Grand-Ecluse)ニ至ル線路及ヒ
 白耳義國中央線(一八九七年)等ノ諸鐵道線路ノ工事ヲ竣成スルニ至レリ此工事タルヤ會社事
 業ヲ廢シ一手ニ工事ヲ施シタルヲ以テ時日及ヒ經費等ノ上ニ於テ少ナカラサル利益ヲ得且
 ツ運送費ヲ一定スルヲ得タルヲ以テ商業上ニ大ナル便益ヲ與ヘタルナリ

安土府港臨海工事ノ設備

安土府港ハゑすこー河ニ沿フテ築キタル岸接繫船壁、船溜所等ノ設備ヲ有シゑすこー河ニ沿
 ヒタル岸接繫船壁ノ延長ハ參千五百米突(即チ我參拾貳丁余)而テ荷物揚場用ノ上屋ノ面積ハ
 九萬八千五百平方米突(略我參萬坪)ナリ其幅員ハ市街地家屋建築地境ニ至ル迄略壹百米突
 (我五拾五間)ナリ然リ而テ構内ニハ數多ノ鐵道ヲ敷設シ其延長貳萬四千米突(略我七里)以上貨
 物ノ取扱ニハ起重力千五百基乃至貳千基ヲ有スル運轉自在ナル水力起重機ヲ用ヒ其數八十
 三箇アリ右起重機其他三十八箇堅軸轆轤(きやぶすたん)ヲ運轉セシムル爲メ中央原動水力場
 ヲ設ケ此處ニハ常ニ充分ノ水力ヲ蓄ヘ岸接繫船壁ニ沿ヘル煉瓦構造ノ暗渠内ニ埋設シア
 ル鐵管ヲ以テ各所ニ水力ヲ傳送シ得ル裝置アリ又タ傳送管中ノ水壓ハ常ニ四十七氣壓以
 上ノ壓力ヲ有ス此原動水力場ニハ各貳百五拾馬力ノ聯成冷汽機貳箇ヲ備ヘ以テ其用ニ供セ
 リ

岸接繫船壁ニ沿ヘル水深ハ干潮ノ時八米突我貳拾六尺四寸ニシテ滿潮ノ時ハ拾貳米突貳百
 〇米(我四拾尺余)ノ深サヲ有シ潮ノ干滿ノ差ハ四米突貳百〇米(我拾三尺八寸余)ナリ平均滿潮
 ノ時地盤面ヨリ水面ニ至ル深サハ貳米突六百〇米(我八尺五寸余)ナリ
 一千八百九拾八年ニ於テ白耳義國政府ハ現在ノ岸接繫船壁ヲ南部即チ急ス此一河上流ニ貳
 千米突(我千百間)延長スルコトニ決シ此工事ハ三拾六ヶ月即チ滿三ヶ年間ヲ要スル見込ナルヲ
 以テ一千九百壹年ノ始ニ竣工スヘキ豫定ナリシモ工事中多少ノ障害アリシタメ壹ヶ年間ハ
 竣工遲滞スルナラント信ス

此新工事タルヤ其進行ニ隨ヒ一般ノ設備ヲナスノ目的ナリ又タ沿岸内ヲ悉ク埋築シ之レニ
 モ同シク倉庫等百般ノ設備ヲナスト否トハ今尙研究中ナリト云ヘモ兎ニ角近世ニ於ケル一
 大進歩工事ノ模範ヲ施サントスルモノナリ

安土府港ノ船溜所ハ蓋潮の構造ノ船溜所ニシテ其内部ノ水位ハ急ス此一河滿潮水位以下參
 百〇米(我壹尺)ヨリ下ラサル水位ヲ保チ船溜所ノ總數ハ八箇又タ水門ニ依リテ急ス此一河
 ニ通ス其一ハ幅員拾八米突我五拾九尺四寸ヲ有シ他ノ一ハ貳拾四米突八百〇米(我八拾壹尺
 八寸余)ノ入口ヲ有ス(第三ハ目下築造中)而テ開門ノ深サハ干潮ニ於テ各貳米突八百四拾〇米
 (我九尺三寸七步余)及ヒ參米突參百八拾〇米(我拾壹尺壹寸五步余)ヲ有スルヲ以テ滿潮ノ際ニ
 ハ畧六米突九百〇米(我七步余)及ヒ七米突六百三拾〇米(我拾壹尺壹寸五步余)ヲ有スルヲ以テ滿潮ノ際ニ
 三十分ニ於テ開キ滿潮後一時三十分ニ於テ之ヲ閉ツ故ニ凡テ三時間ハ船舶出入ノタメ開放
 シ置クコトヲ得

かてんでーカ (Kattendijk) ノ水門開閉ハ水壓力ニ依リ四個ノきやぶすたんヲ以テ(水門ノ兩壁ニ各貳個宛ヲ拮附ケアリ)取り扱ヒ而テ此きやぶすたん即チ豎軸機軸ハ水門開閉ニ臨ミ鎖ヲ使用シテ二噸ノ曳引力ヲ有シ又タ船舶ノ出入ニ用ヒントスル時ハ五噸ノ力ヲ得ルヲカタカラズ

舊船溜所ノ水門モ水壓力ニ依リ開閉スルノ裝置ナリ又タ同敷之ヲ船舶出入ノ用ニ供スルヲ得而テ其北方ナル壁端ニハ舢船用トシテ壹噸ノ力ヲ有スルきやぶすたん一個ヲ備フかてんでーきノ水門ト舊船溜所トノ間ニ於ケル水門壁上ニモ二箇ノきやぶすたんヲ備ヘ其曳引力ハ貳噸若シクハ必要ニ應シ之ヲ五噸迄ニ使用スルヲ得

前記船溜所ノ總面積ハ六拾四へくと一る三分我六拾五丁步而テ岸接繫船壁ノ總延長ハ壹萬七百六拾米突我貳里半余内貳千六百米突我千四百三拾間丈ハ傾斜岸ナリ

此船溜所ノ内亞細亞船溜所ト稱スル分ハみゆず河及名すこー河ヲ連絡スルかむびん(Campine)ノ運河ニ通シ又タ内航船々溜所ニモ連絡ス此内航船々溜所ハ其長四百五拾米突我貳百四拾七間半ニシテ幅員ハ四拾米突我貳拾貳間ナリ而テ其岸壁ハ石造ノ傾斜壁ナリ

又タ前記船溜所ノ一ナル亞米利加船溜所ト稱スル分ハ石油揚ケ卸シ専用トシ此所ニハ七千八百萬りつごる(畧我四拾三萬貳千四百石)ヲ入ルニ足ル設備アリ而テ安全ヲ保タンカタメ此附近ニハ電燈ノ外用ユルヲ禁シ尙石油槽ノ周圍ニハ高壹米突ノ煉瓦塼ヲ築ケリ

如此石油槽ノアル周圍ニハ多少ノ空地ヲ設ケ尙其外ニ堤防ヲ築造シテ之ヲ圍繞シアルカ故萬一油槽ノ破壊スルヲアルモ石油ハ其構内ニ止マリ他ノ船溜所ニ流出シテ發火スル等ノ憂

ナカラシムモノトス之レニ加フルニ亞米利加船溜所トれふゑふる (Lebvre) ナル船溜所トノ
間ニアル橋上ニハ鐵ノ隔壁アリテ毎夕之ヲ閉鎖シ石油ヲシテ他ノ船渠ニ移ラシメサルヲ
努ム

船溜所沿岸ニハ數多ノ上屋倉庫等ヲ設ケアリ其面積ハ拾貳萬六千五百平方米突我三萬八千
貳百六拾六坪余ヲ有シ尙其他ニモ貨物貯藏所ノ設アリ

船溜所ノ周圍ニハ到ル處數條ノ鐵道ヲ敷設シ其延長四萬七千米突我略拾貳里以上又々數多
ノ水壓起重機ヲ備フ即チ

四拾九箇ノ運轉自在ナル起重機 內貳拾七箇ハ貳噸貳拾貳箇ハ一噸半

百貳拾噸ノ起重柱 壹箇

四拾噸ノ固定起重機 貳箇

拾噸全上 壹箇

貳拾噸全上 壹箇

五噸ノ人動起重機 壹箇

かむびんナル船溜所ノ南方ニアル岸接繫船壁上ニハ石炭荷役用ノタメこーるちつぶ (Coal-
er) ト稱スル機械ヲ備ヘ附ケリ此機械ハ貳拾五噸積ノ貨車ヲ拾貳米突ノ高サニ上ルヲ得
是レ水壓力ニ依リテ運轉シ壹時間ニ拾車ヲ積入ル、コトヲ得ルナリ而テ其費用ハ壹噸ニ付
略貳拾仙ト仮定シテ可ナリ此機械ハ英國ニラカする (Newcastle) ノあーむすとろんぐ會社ノ製
作品ナリ

之レニ用ユル原動水力ハ別ニ機關ノ設アリテ各百五拾馬力ノ機關三臺ヲ備フ此機械場ニ於テハ尙此外ニ水門開閉用ノ拾貳箇ノきやぶすたん船溜所ノ回轉橋及ヒかてんでー^(Katten)水門ノ上流ニアル運轉橋ニ使用スル水壓力ヲモ供給スルナリ

船溜所ノ近傍ニハ六箇ノ修船渠アリ内一箇ハ長百五拾九米突幅貳拾四米突八百みり迄ノ大船ヲ入渠セシムルコトヲ得但シかてんでー^(Katten)水門ハ長百五十五米突ノ船舶ヲ出入セシムルニ足ル^(ミ)他ノ二箇ハ幅拾米突ト拾貳米突ニシテ長サハ四拾八米突ニ六拾九米突ナリ他ノ三箇ハ稍大ナルモノニシテ内壹箇ノ如キハ長百參拾壹米突幅拾五米突ヲ有ス

此修船渠ヨリ水ヲ排スルニハ各貳百五拾馬力ヲ有スル二箇ノ機關ヲ以テ八箇ノ唧筒ヲ運轉スルナリ

市ノ南部ニ於テ舢舨積卸シノタメ三箇ノ船溜所アリ其面積四へくたゝる壹分我壹萬貳千四百坪ヲ有シ其周圍ニハ長リ壹千八百米突我九百九拾間ノ岸接繫船壁アリ其中央ナル船溜所ハ幅員拾參米突ヲ有スル水門ニ依リテゑすこゝ河ニ通シ其開門敷ハ干潮ニテ貳米突ノ深サヲ有スルカ故干潮ノ時ト云へトモ吃水壹米突八百みりノ船舶ヲシテ入所セシムルニ適ス此水門ニアル鐵製開門ノ開閉ハ一噸力ノ人動きやぶすたんヲ以テ此用ニ供シ而テ同きやぶすたんヲ以テ船舶ノ水門等ヲ通過セシムル用ニモ供ス

此水門ノ入口ニ設ケアル回轉橋ハ水壓力ニ依リ開閉シ又タ船溜所沿岸ニハ鐵道ヲ布設シ以テあんだゑすし^(Anvers-sud)ナル停車場ニ連絡ス此間ノ鐵道延長略貳千米突我千百間ナリ

○船渠内及ヒ水路ノ浚渫ノ事

船渠内及ヒ水路ノ深サヲ維持センカタメ市ハ一ツノ浚渫船ヲ有シテ一ケ年間ニ凡ソ拾壹萬七千立方米突(我壹萬九千四百六拾五坪余)ノ土砂ヲ浚渫ス此船ニハ又タ唧筒ノ備附アリテ火災ノ變ニ具フ此浚ヒ揚ケタル土砂ハ之ヲ運搬船ニ積ミ瀉裝曳船ヲ以テ運搬スルヲ常トセリ此浚渫船ハ五六時間ニシテ貳百五拾立方米突我四拾壹立坪半ヲ搭載スヘキ運搬船壹艘ニ滿載ス尙目下他ニ一艘ノ浚渫船ヲ築造中ナリ

水路ニ泥砂ノ埋没スル量ハ一ケ年平均深壹米四百みり(我五尺七寸余)水門ノ通路ハ平均九百五拾みり(我三尺壹寸余)而テ船溜所内ニ於テハ僅ニ百みり(我三寸三步)ナリ

○船溜所内ニ於ケル曳船之事

船溜所内ノ曳船ハ安土府港ニ於テ八箇ノ瀉船ヲ以テ之レニ供ス其内貳船ハ冬期ニ於テ船溜所内ノ結氷破碎ノタメ特ニ構造シアルモノナリ即チ後部ニばらすじ即チ假重ヲ置キ船首ヲシテ水面ニ昇ラシメ曳船ノ重力ヲ以テ水ヲ破碎セントスル裝置ナリ又タ他ノ船ハ大唧筒ノ備附アリテ火災又ハ船中不時ナル浸水ノ時ノ防禦ニ供セリ

○船溜所内ニ於ケル曳船ノ事

市ハ曳船ノ原動力ヲ供スル迄ニシテ之ヨリ生スル損害ハ船舶又ハ其他ノ建設物ナルトヲ問ハズ一切之ヲ負擔セサルモノトス

此用ニ供スル曳船ハ朝ヨリ蒸汽ヲ用意シ規定ノ時間内曳船ノ任務ヲナス即チ

四月一日ヨリ九月卅日ニ至ル間

午前六時ヨリ午後七時迄

十月一日ヨリ三月卅一日ニ至ル間 午前七時ヨリ午後六時迄
曳船料ハ左ノ五種ノ料率ヲ適用ス

曳カルヘキ船舶ノ容積		甲種	乙種	丙種	丁種	戊種
八拾五噸迄		二法	四法	六法	八法	一法
八拾五噸ヨリ百七拾壹噸マテ		五	七	九	一一	二
百七拾貳噸ヨリ參百四拾貳噸マテ		八	一〇	一二	一五	四
參百四拾參噸ヨリ五百拾四噸マテ		一一	一四	一六	二〇	六
五百拾五噸ヨリ六百八拾五噸マテ		一四	一八	二〇	二五	九
六百八拾六噸ヨリ八百五拾六噸マテ		一七	二三	二五	三〇	一二
八百五拾七噸ヨリ一千貳拾七噸マテ		二〇	二五	三〇	三五	一五
一千貳拾八噸ヨリ一千百九拾九噸マテ		二三	二八	三五	四〇	一八
一千貳百噸ヨリ一千參百七拾噸マテ		二六	三二	四〇	四五	二二
一千參百七拾壹噸ヨリ一千五百四拾壹噸マテ		二九	三四	四五	五〇	二四
一千五百四拾貳噸ヨリ一千七百拾貳噸マテ		三三	三七	五〇	五五	二七
一千七百拾貳噸以上		三五	四〇	五五	六〇	三〇

此料率中甲種ヨリ丁種迄ノ四種類ノ分ハ曳船ヲ要スル船舶ノ發著ノ場所ニ依リ彼是適用スルモノトス即チ左表ノ如シ

曳船ヲ要スル船舶著達ヶ所	舊小船溜所	舊大船溜所	かてんでーき(Katendji)船溜所	ぼあ(Boa)船溜所	かむびん(Campine)船溜所	亞細亞船溜所
	戊	甲	乙	丙	丁	丁
	甲	戊	甲	乙	丙	丙
	乙	甲	戊	甲	乙	乙
	丙	乙	甲	戊	甲	甲
	丁	丙	乙	甲	戊	乙
	丁	丙	乙	甲	戊	戊

戊種ノ料率ハ左ノ場合ニ適用ス即チ

一 同一船溜所内ニ於テ轉置ノ場合

二 左ノ曳船ノ場合

海岸水門壁頭ヨリ舊船溜所内迄ノ往又ハ復

かてんでーき船溜所口ヨリ同船溜所内望ミノヶ所迄ノ往又ハ復

かむびん(Campine)運河ヲ通行スル船舶ニシテ新水門トかてんでーき船溜所口ノ間ニ於ケル

曳船料ハ政府ト安土府市トノ間ニ左ノ通り規定セリ

空船 半法

積載噸數拾噸以下ノ片 半法

同拾噸ヨリ五拾噸マテ 壹法

論説及報告

同五拾壹噸ヨリ壹百噸マテ 壹法半

同壹百壹噸ヨリ壹百五拾噸マテ 貳法

同壹百五拾壹噸ヨリ貳百噸マテ 貳法半

同貳百壹噸ヨリ貳百五拾噸及ヒ其以上 參法

若シ規定時間外ニ曳船ヲ要スルキハ其旨ヲ港務長ニ通シ別ニ貳拾五法ヲ仕拂フモノトス

○點燈ノ事

系すこゝ河沿岸ノ岸接繫船壁及ヒ船溜所ニ於ケル點火ハ普通ノ瓦斯燈海岸水門ノ二ヶ所ニ於ケル水路ニハ電燈ヲ用ヒテ夜間船舶出入ノ便ニ供セリ此電燈ハ六あむべーやノ八箇ノ弧光燈ニシテ其原動ニハたるびんヲ用ユ

夜間ノ荷役ニハるしげんらいど(Lucigen Light)ヲれつどすたーらいん會社ノ如ク用ヒ又タハさつぐ(Ses)ト稱スル燈火ヲ其使用者ノ費用ヲ以テ點火スルモノニシテ此等ノ燈火裝置ハ船溜所ノ一局部丈ハ市ヨリ備フルト云ヘル其他ハ北獨乙ろいど會社ろいす商會ノ如ク各自ノ設立ニ係ルモノナリ

近時船溜所中二ヶ所ノ岸接繫船壁上ニハ市自ラ二箇ノ電燈ヲ供スルコトセリ即チあんどれぼ(Entrepot)及ヒちんらん(St-Laurent)ノ壁上ニ設ケアルモノ是ナリあんどれぼ壁上ニハ五あむべーやノ弧光電燈四箇アリテ荷役ノ時船橋ニ附着セシムルコトヲモ得ルナリさんらん壁上ニモ同シク五あむべーやノ弧光電燈四箇アリテ其原動力ハ前記ノたるびんニ依ル而テラ

んぶハ貳箇宛せりすニ繋ケリ
 市ハ必要若シクハ船主ノ需ニ應シテ港内各所ニ電燈ヲ設備シ得ルノ途ヲ有ス而テ其用ヲ了
 ラバ一時之ヲ一ヶ所ニ集メ置キ他日他所ニ必要ヲ生シタル時之ヲ移動シ其用ニ供スルヲ
 得ルナリ

○停車場ノ事

安土府市ニハ數多ノ停車場アリ内ニヶ所ハ旅客用ニ供シ即チあんぐゑすゑす(Anvers-Est)及
 ヒわんぐゑす、しうど(Anvers-Sud)ノ兩停車場之ナリ而テ前者ハ中央停車場ニシテ後者ハ市ノ
 南端ニアリテ旅客ノ乗降ト同時ニ又タ貨物運送ヲモナスノ停車場ニシテゑすこー河沿岸ノ
 岸接繋船壁中上部ノ三區域内ニ於ケル貨物ノ運搬ヲ主トシテ取扱ヒ尙其他ニ貨物停車場ト
 シテハがる、ぶりんまばー(Gare Principale)及ヒがる、すのいべんばるぐ(Gare de Suivenberg)ノ二
 ケ所アリ

わんぐゑすゑす(Anvers-Est)ナル停車場ハ目下改築中ニシテ其設計ニ依ル時ハ鐵道九線ヲ布
 設シ而テ軌條面ヨリ三百みりノ高ヲ有シ幅員ハ六米突我拾九尺八寸乃至八米突我貳拾六尺
 四寸ナル停車場ヲ各線別ニ設クルノ計畫ナリ其南端ニ至リテハ鐵道減シテ六線トナリ内二
 線ハぶらせるす線ニシテ二線ハ和蘭線他ノ二線ハ瀛關車及ヒ鐵道工事用運搬線トス停車場
 構内ニ於ケル數線ノ鐵道延長ハ貳拾七さろ米突我六里半余ナリ

普通鐵道踏切即チ地平踏切ヲ廢センカ爲メ鐵道線路及ヒ停車場全体ヲ地盤面ヨリ六米突我
 拾九尺八寸ノ高所ニ設置セリ然ルニわんぐゑすゑす(Anvers-Bassins)及ヒわんぐゑす、しう

わ (Anvers-Sud) ノ両停車場ハ岸接繫船壁及ヒ之レニ伴フ建設物ノタメ此設計ヲ實行スルヲ得ザリシハ遺憾ト云フヘシ

べるせむ (Berchem) ト稱スル三角形ノ土地ニハ發電所ヲ設ケゑすと停車場ノ用ニ供シ尙此外ニ拾六箇ノ昇降器ヲ運轉スル原動力場ノ設アリ内二箇ハぶらんたん (Ranft) 街ニ於ケル貨車ノ昇降ニ用ユ又タ昇降器ハ概シテ水壓力ニ依リ運轉スルノ裝置ナレモ通風用等ノ作用ハ總テ電氣力ナリ

鐵道線路ノ下層ニハ穴倉ヲ設ケ此所ニ蒸氣流竈ヲ据附ケ以テ低壓ノ蒸氣ヲ客車ニ供給シ防塞ノ用ニ供シ又タ點火用ノ電氣ハ同シク地下ノ穴倉ニ蓄電池ヲ設ケ弧光電燈及ヒ白熱燈ヲ之ヨリ點火ス

汽關車小屋ハ同シク前記ノ三角形ノ場所ニ設ケアリテ長サ八拾八米突畧我四拾八間半幅六拾七米突畧我三拾七間ノ建物ナリ此建築物内ニハ六箇ノ煉瓦柱ヲ築キばーすとらんぐ式ノ三大梁ト其他ノ重量ヲ支ユルノ用ニ供ス其總重量ハ壹千三百六拾噸ナリ如斯構造法ヲ用ユル時ハ數箇ノ柱ヲ要セサルノ便宜アレバナリ又タ此停車場建築ニ要シタル鋼鐵材ノ總量ハ畧一千噸以上ナリト云フ

がるぶりんしばーる、わんづゑるす、ばさんろかーる第一號 (Gare Principale Anvers-Bassins, Local No.1) ナル停車場ハ到着貨車ノ一時ノ停車及ヒ貨車ノ分類ヲナス所ニシテ此停車場ニ於テハ船溜所ノ繫船壁及ヒ倉庫往復ノ貨車ヲ集合シ又タ鐵道布設ナキ繫船壁上ニ陸揚ケシタル貨物及ヒ倉庫ヨリ來タル貨物ノ種ミ卸シヲナス所トス而テ此所ニ於ケル荷役ハ長貳百米突我百拾

間幅七十米突畧我拾三間ヲ有スル上屋内ニ於テナシ尙此内ニハ長サ拾貳米突ノ横行鐵道貳條アリ

又タ此荷役場内ニハ幅員八米突ノ荷捌場アリテ其外部ニハ之レニ併行シテ數條ノ鐵道ヲ布設シアリ而テ又タ壁上ニハ起重力一千基ヨリ貳千基ヲ有スル起重機貳拾八箇ヲ備ヘ以テ貨物積卸ノ便ニ供ス

鐵道布設構内ニハ拾參箇ノ豎軸轆轤即チきやぶすたん及ヒ拾貳箇ノ滑車ノ備アリテ貨車運轉ノ便ヲ助クルモノトス

停車場構内ニシテ屋根ノナキ局部ニハ起重力一千基乃至貳千基ノ起重機拾壹個同シク五千基ノモノ四個同シク壹万基ノモノ壹個合テ起重機拾六臺ト外ニきやぶすたん貳拾貳箇ノ設備アリ而テ各主タル停車場ニハ必ス機關ノ設備ヲナシ唧筒ノ運轉電燈用ノ發電其他ノ用ニ供セリ

又タ此所ヨリ各船溜所迄スこと河ノ繫船壁ヘハ勿論其他ほあ(Bo.)ナル停車場及ヒらいんヘモ達シ得ルノ鐵道連絡アリ

がる、あんどゑるす、ばさん、ろゝ、かる第二號 (Gare Anvers-Bassins, local No.2)ナル停車場ハ貨車ノ集散ヲナシ主トシテ緩行貨物列車ノ發着ヲ取扱ヒ安土府附近所謂地方列車ノ運轉ヲナシ又タ和蘭陀行ノ緩行貨物列車ノ取扱モナセリ

急行列車ハ發着共ニ長サ百六拾五米突我九拾間余幅員參拾八米突我貳拾間余ヲ有スル上屋内ニ於テ取扱ヒ又タ此上屋ノ中央ヲ横斷シテ拾壹米突ノ横行鐵道ト及ヒ長八米突ノ積卸用

荷捌場貳ヶ所アリテ荷役ノ用ニ供シ其事務所ハ上屋ノ一端ニ建設シアルナリ
尙此停車場ニ於テハ左ノ設備アリ

一 機械工場即チ此工場ニ於テハ安土府内ノ三大停車場内ニアル諸機械及ヒ機關車等
ノ修繕ヲナス其工場ノ面積ハ七百五拾平方米突我貳百貳拾七坪ニシテ構内ノ點
火ニハ總テ電氣燈ヲ用ユ

二 十線路ヲ有スル車輛舎アリ其面積ハ貳千貳百五拾平方米突我六百八拾坪ニシテ
三十臺乃至五拾臺ノ機關車ヲ入ル、トヲ得

三 わんぐゑる、ゑすとナル停車場構内ニ備アル唧筒ヨリ配水シ來ル貯水池アリ若シ此
水路中ニ破損ヲ生シ送水シ能ハサル時ハ舊唧筒ニ依リ直接貯水池へ送水スルヲ
得又タ萬一わんぐゑる、ゑすと構内ニアル唧筒ニ故障アルキハ此舊唧筒ヲ以テ同停
車場へ給水スルヲモ得ルナリ

わんぐゑる、ばさんナル停車場ニ於ケル出入ノ車輛ノ數ハ毎日平均參千輛ヲ下ラスト云フ
がる、ぶおるましよんだんぐゑる、すじゆれんぼるぐ(Gare de formation d'Anvers-Zurenborg)ナル停
車場地盛ノタメ安土府ヲ去ル貳拾きろ米突我五里余ナルかるむぶとらと(Calmphout)ヨリ土
砂ヲ運搬シ埋築ノ用ニ供セリ其量ハ壹百拾萬立方米突我拾八萬參千立坪余ニシテ工事ノ都
合ニ依リ總埋築ヲ二區ニ分チテ施行セリ又タ此工事中ハ毎日拾噸積ノ運搬車四拾五臺ヲ連
結スル列車ヲ拾參回宛運轉シ一日ニ四千立方米突我六百六拾五立坪余ヲ運搬シ埋築シタリ
トノコナリ而テ其費用ハ壹立方米突ニ付壹法拾仙ニ當レリ此停車場構内南部ニ於ケルヶ所

即チ發車場構内ニハ延長貳拾五きろ米突(我六里拾三丁余)ノ鐵道ヲ有シ北部ニ於ケルケ所即チ着車場構内ニハ延長貳拾八きろ米突(我七里余)ノ鐵道ヲ有ス内拾六きろ米突丈ケハ今尙工事中ナリ此停車場ノ工事全ク竣工ノ上ハ此構内ニ於テ車輛分類ノ運轉自由ナルヘキヲ以テ

ハ地方的運送及ヒ接續運送用ノ停車場タルニ過キササルニ至ルベシ而テ此停車場ニテハ日々三千八百臺ノ車輛ヲ取扱フコトヲ得ヘシ

Belge)即チ白耳義國中央線ノ鐵道發着場ニシテ現ニ政府ノ有ナリト云ヘトモ其希望少ニシテ不完全ノ感アリ之ヲ充分ナラシムルニハ尙貳拾八萬立方米突(我四千貳百三拾余坪)ノ地盛ヲナシ構内ノ擴張ヲ要ス

が、おーばわ(Gare aux Bois)ナル停車場ハ主トシテ木材及ヒぐわの(鳥糞)ノ積卸シ場ナリシモ現今ハ他ノ商品ヲモ取扱フコトトセリ而テ此停車場構内ニハ延長八きろ米突即チ我貳里余ノ鐵道布設アリ

が、でゆ、さー、でゆ、らいん(Gare du quai du Rhin)ナル停車場ヘらいんナル繫船壁ニ於テ積卸ヲ扱フ貨物ノ集散所ニシテ加フルニ太西洋航海ノ汽船會社用ニモ供ス

がるだんぐゑるす、ばさん及ヒ其附屬線ニ於ケル諸停車場ノ面積ハ凡五拾へくたー(我五拾丁步余)ニシテ延長四拾七きろ米突(我拾貳里)ノ鐵道ヲ有シ主要線ヲ用ヒズシテ七千臺ノ車輛ヲ停置スルヲ得

がる。だんぐゑるす、しうさ(Gare d'Anvers-Sud)ナル停車場ハ前ニモ述ヘタル如クゑるすこゝ河沿岸ノ繫船壁中上部ノ三區域内ニ於ケル貨物運搬用ノタメナルモノニシテ其面積ハ貳拾へくた一(我貳拾町步余)ヲ有スルモ尙不足ヲ告クルヲ以テ南方既設ノ繫船壁端ヨリ南方ニ貳千米突我壹千百間ノ延長工事ヲ目下施行中ナリ現今ト云ヘル此停車場ニテハ一日千貳百臺ノ車輛ヲ取扱ヒ居レリ

繫船壁上ニアル鐵道及ヒ此停車場ヨリ船溜所ニ連絡スル鐵道ハ此停車場構内ヲ出ルト直ニ二線ニ分レ船溜所入口ニ在ル水門ノ両端ヲ通シテ再ヒゑるすこゝ街ニ於テ相合ス故ニ船舶出入ノタメ水門ノ傍ニアル鐵道橋ノ開放シアル時ト云ヘル此鐵道ノ通行ヲ妨ケルコトナシ此停車場構内ニハ長貳百拾米突我百拾五間半幅七拾六米突七百みり(我四拾貳間余)ノ上屋アリテ貨物ノ積ミ卸シニ便ナラシム且ツ此所ニハ水壓力使用ノ設備アリ而テ又タ此しうとナル停車場ハ主トシテ貨物集散ノタメナリト云ヘトモ其他ニ尙乘客ノ取扱ヲモナス尤モ乘客用單獨ノ停車場ハ此構内ニ目下建築中ナリ此停車場ヨリ發スル線路ハ二線ニシテ一ツハダヨ一、でいゆ (Vieux-Dieu)ニ至リテあんぐゑるすぶらせるす線ニ合シ他ノ一ツハぶ一、む線ニ合シ而テ終ニハあんぐゑるすどうゑるナル佛國ノ北部行ノ線ニ合ス而テ此停車場構内ニハ現今延長拾貳きろ米突(略我三里)ノ鐵道線路アリ目下尙工事中ノモノヲ加フレハ合セテ貳拾七きろ米突(我略七里)ノ線路ヲ有スルニ至ルベシゑるすこゝ河沿岸繫船壁上ニ敷設シアル鐵道線路ノ延長ハ貳拾四きろ米突(我六里余)ニシテ拾參へくた一(我拾參町余)ノ面積ヲ圍繞ス

ベ一、かうゑる(Station du Pays de Wae)ナル停車場ハ安土府市ノ對岸ニアリテ市トノ連絡ハ汽船ニ

依ル此停車場構内ニハ延長五拾きろ米突我拾貳里半余ノ鐵道アリ而テ白耳義政府ハ再ヒ此鐵道ヲ政府事業トシ線路ノ幅員ヲ壹米突半ニ擴張スルヲニ決シタルヲ以テ技師ダあん、でん、わびーる氏ハ一千八百九拾八年六月二十七日ト二十八日ノ夜間六時間ニ之ヲ改造セリ
あんダゑるす、ばつさんナル停車場内ニアル水壓力ニ關スル設備ハ左ノ如シ

直立形蒸気々罐

貳箇

七拾五馬力ノ高壓水平蒸気機關

貳箇

五拾氣壓ノ蓄力器

壹箇

壹噸ノ起重機

貳拾壹箇

壹噸半ノ全上

拾七箇

貳噸ノ全上

參箇

五噸ノ全上

四箇

拾噸ノ全上

壹箇

二箇成及三箇成ノ堅軸轆轤(四百基ノ曳引力アルモノ)

貳箇

港ノ經營

○管理

港ノ管理及ヒ支配ハ安土府市會ニ屬ス市會ハ選出セラレタル三拾九名ノ市會議員ヲ以テ組織シ市長之カ議長タリ

市長及ヒ市參事員ノ團體ハ一ノ管理會ヲ組織ス

市長ハ國王ノ任命ニヨリ又タ五名ノ市參事員ハ市會ノ選出ニ依ル

前記ノ團體ハ市會ノ議ニ附スヘキ一切ノ事項ヲ審議立案ス而テ市會ノ決議ニシテ市ノ權限及ヒ資力ノ許ス範圍内ニアルモノハ其事項ノ輕重ニ從ヒ地方縣會常置委員若シクハ國王ノ認許ヲ經テ之ヲ施行ス

商務擔當市參事員ハ港ニ屬スル一切ノ經營物ノ管理及ヒ港ノ行政事務ヲ掌リ港務局長港務官及ヒ屬員ヲ指揮監督ス

工務擔當市參事員ハ技術ニ關スル業務ヲ掌リ市ノ技師長ヲシテ之レカ部長ノ任ニ當ラシム又タ船溜所及ヒ其附屬諸機關并ニ港ノ經營ニ必要ナル職員及ヒ器具機械ノ管理モ其所掌ニ屬ス

灣内ノ警察事務燈臺浮標水先案内繫船壁上軌道ノ經營及ヒ稅關ノ事務ハ政府ノ管轄ニ屬ス各部ノ聯絡ヲ通シ諸般ノ事務ヲ敏活ナラシムル目的ヲ以テ特別評議委員會ヲ設ケ官吏五名市吏員貳名ヲ以テ之ヲ組織ス

此評議委員會ハ安土府地方ノ鐵道運輸部長同荷物課長土木鐵道監督署長水先案内所長兼スすこ一河灣水上警察署事務取扱稅關長及ヒ港務局長ヲ以テ組織ス

此委員會ハ毎月一回會議ヲ開キ商務擔當市參事員之カ議長トナル若シ商務擔當市參事員差支アル場合ニハ工務擔當市參事員之レニ代ルモノトス

安土府港ハ二箇ノ各別ナル部分ヨリ成ル即チ

一 北方ナル開港場及ヒ其附屬物ハ總テ市ノ所有ニシテ舊船溜所ヲ除クノ外ハ一切市

費ノミヲ以テ建設シタルモノナリ

此船溜所ハ市ノ經營ニ屬シ而テ其收入ハ市ノ有ニ歸ス

市ノ所掌中ニ屬スル船溜所及ヒ其附屬諸機關ノ保存改良及ヒ擴張船溜所ノ上屋倉庫ノ建設經營及ヒ穀物石油其他ノ貨物ニ對スル特種ノ設備起重機其他運搬ニ關スル機械ノ築造及ヒ利用船溜所内ノ曳船ニ關スル事務船舶ばらすトノ搭載及ヒ陸揚船溜所及ヒ沿岸ニ於ケル諸般ノ規則及ヒ行政事務ハ市之ヲ司ル

二 左記ノ規約ニ基キ政府ノ築造ニ係ル茲スこ一河ノ沿岸及ヒ南方ニ於ケル小船舶ノ船溜所

○茲スこ一河沿岸ノ岸接繫船壁及ヒ南方ニ於ケル小船舶船溜所ノ築造乃ヒ營業

ニ關スル規約

一千八百七拾年政府ハ海事ニ關スル一切ノ設備ヲ含有スル新開港區ヲ創設スル目的ヲ以テ南方ノ城塞及ヒ其附屬ノ地ヲごくごるすどるすべるぐ (Dr. Strousberg) ニ讓與スルノ規約ヲ成シ次テ白耳義不動産會社之ヲ繼續スル事トナリタルヲ以テ大藏大臣ハ此會社ト更ニ一千八百七拾四年一月十日ニ於テ一ツノ新規約ヲ締結セリ此新規約ハ茲スこ一河沿岸々接繫船壁ノ再築及經營ニ關シ大藏大臣ト安土府市トノ間ニ一千八百七拾四年一月十六日ニ成立セル規約ト共ニ立法府タル議會ニ提出セラレタリ

一千八百七拾四年一月十日ノ規約ニヨレバ南方城塞ノ土地ヲ讓リ受ケタル會社ハ其土地ノ

前面をすこゝ河沿岸々接繋船壁ヲ建設シ且ツ小船船ノ船溜所ヲ築造スルノ義務アルト共ニ其船溜所及ヒ南方ノ繋船壁ヲ利用シ且ツ保税倉庫ヲ建設スルノ權利ヲ有ス
此ノ如キ權利ノ附與ハ從來北方ノ船溜所ノ營業ヲ獨占セル安土府市ノ特權ニ對シ競争ヲ生スルヲ以テ市ノ激烈ナル反對ヲ喚起セリ

他ノ方面ニ於テ政府ハぐゑるるも(Roi Guillaume)王ノ讓與ノ証書アルニ拘ラズ市ノ前面ニ於ケルをすこゝ河沿岸ノ岸接繋船壁ノ所有權取戻ヲ請求セリ然レモ立法府タル議會ニ於テ審議中關係者間ニ示談成立シ前述ノ諸規約ハ漸次改正増補セラレ遂ニ一千八百七拾四年四月十七日ノ法律ヲ見ルニ到レリ

此法律ニ依テ承認セラレタル諸規約ハ概ネ左ニ約言スル所ノ如シ

南部安土府株式會社

南方ノ舊城塞地ニ建設スヘキ新開港區ハ白耳義不動産會社ト安土府市トノ協同ニ依テ之ヲ創立シ其負擔損益ヲ平等ニ分割ス

此目的ヲ以テ南部安土府株式會社ノ名目ノ下ニ一ツノ株式會社ヲ創立ス其資本金ハ貳千五百萬法ニシテ之ヲ五萬個ノ優先株及ヒ通常株式ニ分テ一株ノ額面ヲ五百法トス尙此外ニ五萬個ノ權利株アリ

會社ハ政府ニ對シ五百法拂込ノ通常株九千株即チ四百五拾萬法及ヒ權利株九千株ヲ保存シ置キ一千八百七拾四年一月十日ノ規約ニ由リをすこゝ河上流ニ於テ政府ノ架設スヘキ橋梁ノ費額ニ應シテ之ヲ政府ニ引キ渡スベキモノトス

南部安土府會社ノ實行スヘキ工事ハ舊城塞ノ取り除キ及ヒ新開港區域内ノ地均シ工事ニ限ルモノトス

會社ハ南方停車場ノ敷地トシテ十三ヘクタール(我十三町步余)ノ地均シ、タル土地ヲ無代價ニテ政府ニ上納スルモノトス

會社ハ爾後小船船溜所及ヒ南方ノ岸接繫船壁ヲ經營シ且ツ保稅倉庫ヲ建設スルノ權利ヲ有セズ

會社ノ事業ハ單ニ不動產的ノモノトス

一千八百九十年以來市ハ會社ノ株式中他ノ一半ヲ買収シ其結果會社ノ土地及ヒ不動產ハ市ノ所有ニ歸セリ

政府ノ爲スヘキ工事

政府ハ新測量線ニ從ヒ南ヨリ北ニ至ル處スこ一河ノ沿岸ニ沿テ延長約三千五百米突(我壹千九百貳拾五間)ノ岸接繫船壁ヲ築造スルモノトス

政府ハ又タ南部ノ地ニ於ケル小船船用ノ船溜所及ヒ閘門建設ノ費用ヲ負擔ス而テ政府ハ船溜所ノ水面及ヒ南方ノ城塞ノ前ニ築造シタル新繫船壁ノ延長ニ亘リ幅員四拾五米突(畧我貳拾五間)ノ地帶ニ對シ壹平方米突ニ付參拾法ノ割合即チ約參百萬法ヲ南部會社ニ支拂フモノトス

政府ハ南方停車場ヲ建設シ又タ小船船溜所及ヒゑすこ一河沿岸繫船壁ノ業務ニ必要ナル軌道並ニ新停車場ト官線及ヒふらんざる (Flanthes) 線トノ聯絡線ヲモ其費用ヲ以テ築造スル

モノトス

政府ハ又タ悉ス此一河上流ニ橋梁ヲ架設シ其費ヲ負擔ス而テ此橋梁ニハ車道歩道及ヒ單線若クハ複線ノ鐵道ヲ建設シ人車ノ通行ニ對シ通行料ヲ免除スルモノトス

市ノ爲スヘキ工事

政府ハ一千八百十九年々ゐるろむ (Roi Guillaume) 王ノ勅令ニ依テ市ニ交附セラレタル部分ト改築ノ結果トシテ河床若クハ尙現存セル溝渠上ニ築造セラルベキ部分トニ論ナク悉ス此一河ノ新岸接繫船壁ノ管理ヲ安土府ノ市政ニ委任ス但シ其所有權ハ依然政府ノモノトス繫船壁ノ一部分地均シ工事ヲ終ハリ必要ナル敷石ヲ布設シテ全ク改築ヲ竣リタル時ハ其都度政府ハ之ヲ市ニ引渡シ市ハ市ノ費用ヲ以テ船舶積載貨物ノ積卸シニ必要ナル一切ノ機械ヲ据附ケ且ツ貨物ヲ入ルヘキ上屋及ヒ倉庫ヲ設ケ汽船ノ發着場ニハ旅客待合所ヲ設置スルモノトス

安土府市ハ北方ニ於ケル海水上ノ設備ニ對スル所有權ヲ有スルト共ニ又タ此等ノ設備ヲ經營スルノ權ヲ保有シ是ヨリ生スル收入ヲ取得ス

收入ノ配分

諸般ノ工事及設備竣工ノ後總設備費ノ計算ハ關係者間ノ合意ヲ以テ決定スルモノトス市ハ配分スヘキ一切ノ收入ニ付特別會計ヲ設クルモノトス

諸種ノ總收入即チ繫船壁土地及他ノ附屬物ヨリ生スル直接間接ノ收入ハ總テ左ノ割合ヲ以テ配分スルモノトス

市ハ管理及ヒ監督ノ費用ヲ先ツ引キ去リ外ニ拾五萬法ヲ取得シ警察費維持費改築費道路費及ヒ其他ノ出費ニ宛ツルモノトス

殘額ハ政府及ヒ市ノ間ニ各負擔シタル設備費ノ割合ニ應シテ配分スルモノトス

小船舶船溜所ノ水面及ヒ南方繫船壁ノ延長ニ亘リ幅員四拾五米突ノ地帶ヲ政府ニ取リ上ケタル爲メ之レニ對シ拂渡スヘキ金額ハ南方ノ繫船壁並ニ小船舶船溜所及ヒ其繫船壁ヨリ生スル收入中政府ノ有ニ歸スベキ分ヨリ南部安土府株式會社ニ支拂フモノトス

此金額ノ元利皆濟ニ至ル迄市ハ一千八百七拾四年一月十六日ノ規約ノ支配ノ下ニアル此海事設備ノ部分ニ對シ特別會計ヲ設クルモノトス

（因ニ云 一千八百九拾三年以降政府ハ市ト共ニ總設備費ノ計算ヲ協定シ互ニ同意スルニ至レリ而テ市ノ管理及ヒ行政ニ要スル費用ハ特定費拾五萬法ノ外總収益ノ百分ノ四拾五、八五ト定メラレタリ又タ市ノ所得ニ歸スヘキ純益ハ總設備費中市ノ支出シタル金額ノ割合ヲ以テ百分ノ六、四八トナル此外政府ハ一河沿岸ノ繫船壁監守費ノ半額即チ九萬法ヲ仕拂フコトヲ承諾セリ）

規則及稅率

管理ニ關スル一切ノ規則及ヒ稅率ハ政府ノ許可ヲ受クルヲ要ス而テ政府ハ商業上ノ利益ノ爲ニ一種若クハ數種ノ稅率ノ低減ヲ要求スルノ權利ヲ保有ス

政府若シ一種若クハ數種ノ稅率ノ低減ヲ要求シ之ヲ實行スル場合ニアリテ市ノ同意ヲ得サルハ一萬一此種ノ稅率ヨリ生スル收入ノ減少アレバ政府ハ此稅率ヨリ生スル收入中市カ受

クヘキ部分ニ對シ其差額ヲ市ニ交附スベシ此賠償ハ最近五ヶ年ノ收入ヲ參考トシ其最多額ヲ標準トシ計算スルモノトス

契約ノ解除

繫船壁ノ全部使用開始後四拾年ヲ經過セハ政府ト市トノ間ニ成立セル契約ハ一方ノ申出ニ由リ年度完結ノ期ニ於テ解除シ得ルモノトス但シ少クトモ六ヶ月以前ニ其意思ヲ豫告スルコトヲ要ス

一千八百九拾五年五月八日ノ規約

悉すこ一河ノ南方ニ向ヒ新岸接繫船壁ヲ築造スル事ニ關シ政府ト安土府トハ新規約ヲ締結シ其經營及ヒ收入ノ配分法ヲ規定スルヲ左ノ如シ

第一條

政府ハ其費用ヲ以テ内部繫船壁ノ上流ニ於テ悉すこ一河ニ沿ヒ更ニ約貳千米突我壹千(百間)ノ新岸接繫船壁ヲ築造スルモノトス

政府ハ此規約書ニ附屬スル圖面中薄紅色ニ彩色シタル區域内ニアル土地買收費ヲ負擔スルモノトス

政府ハ前記圖面中青色ニ彩色シタル區域内ニアル土地ヲ繫船壁敷地ニ編入スルニ要スル費用ノ半額ヲ負擔スルモノトス

市ハ政府ノ土地買收ト共ニ市ノ費用ノミヲ以テ圖中黃色ニ彩色シタル區域内奥行壹百米突我五拾五間ノ土地ヲ買收スルコトヲ認許ス

此規約ニヨリ政府及ヒ市ノ買收ニ係ル土地ハ總テ安土府ノ領内ニ編入スヘキ

第二條

法律案ヲ立法府ニ提出スヘキコトヲ政府ハ茲ニ誓言スルモノナリ

新繫船壁ノ築造進行シ敷地ノ地均シ竣工スルニ從ヒ順次之ヲ市ニ引キ渡シ共同利益ノ爲メ保管セシムルモノトス而テ市ハ繫船壁及ヒ道路ノ全幅ニ亘リ敷石及ヒ下水工事ヲ施行シ又タ船舶搭載貨物ノ揚卸ニ要スル諸機械、上屋、倉庫等ノ設備ヲナシ漸次必要ニ應シテ旅客待合所等ヲ建築スルモノトス但シ此等ノ設備ニ要スル費用ハ市ノ負擔ニシテ其設計ハ凡テ政府ノ認許ヲ受クヘシ政府ハ此規約書附屬ノ圖面中青色ニ彩色シタル區域内ニアル土地ヲ繫船壁敷地ニ編入スルニ必要ナル費用ノ半額ヲ負擔スルモノトス然レトモ其負擔額ハ拾五萬法ヲ超過スルヲ得ス

市ハ政府ノ承認ヲ經スシテ公共地域内ニ於テ上屋若シクハ一切ノ建物ヲ築造スルコトヲ得ズ

繫船壁及ヒ其附屬物ニ對シテハ通常經費ノ爲メ徵稅スルモノ、外一切ノ課稅ヲ免除スルモノトス

第三條

工事竣工ノ上ハ市ノ管理ニ歸シタル繫船壁及ヒ其附屬敷地ノ圖面貳通ヲ調製シ之ニ道路敷ニ充ツル敷地ノ部分ヲ明記シテ保管シ置クヘシ而テ此道路ハ市道ニ編入スルモノトス

第四條

河底ノ浚渫及ヒ繫船壁ノ大修繕若クハ一部改築ノ費用ハ政府ノ負擔トス然レモ維持及ヒ復舊ノ小修繕ニ關スル總テノ費用ハ市ノ負擔ニ屬スルモノトス

第五條 政府ハ市會ノ諮問ヲ經タル設計ニヨリ鐵道ヲ敷設シ單獨ニ之ガ使用料ヲ徵ス而テ其保存取替及ヒ經營ニ要スル總テノ費用ハ政府ノ負擔トス
市ハ政府ノ承認ナクシテ市ニ交附セラレタル土地ニ馬車鐵道ヲ敷設スルコトヲ得ス

第六條 一千八百七拾四年四月十七日ノ法律ヲ以テ確定セラレタル同年一月十六日附ケノ規約中第六條乃至第九條ノ條項ハ新ニ政府築造ノ任ニ當リ市之カ諸機關ノ設備ヲ完成スヘキモノハ之ヲ新繫船壁ニ適用スルモノトス而テ其解釋ハ前記一千八百七拾四年一月十六日ノ規約ニアル計算規定ノ精神ニ基クモノトス又タ市ノ負擔タル警察、道路敷石ノ維持及ヒ修繕等ニ要スル費用其他道路ニ係ル諸費並ニ一切ノ出費ニ充ツル年額ハ此新繫船壁使用開始後ハ繫船壁ノ長サ壹米突ニ付四拾法ヲ増額スルモノトス

第七條 新繫船壁ハ一千八百七拾四年六月十六日ノ規約第十壹條ノ規定ニ依リ處理ス而テ現規約ハ右規約ト同時ニ消滅スルコトヲ得ルモノトス

第八條 市カ船渠ノ築造ヲ決定シタル場合ニハ新繫船壁ノ上流ニ於ケル上端ニ之ヲ築設スルモノトス

第九條 此規約ハ六ヶ月以内ニ立法府ノ協賛ヲ得サレバ無効トス

航海法及ヒ稅率

○船積ヲ測ル方法

白耳義國ニ於テ一千八百八拾四年ニ實行シタル船舶測定法ハ單ニ經驗法ニシテ即チ左ノ如シ

甲板ニ於ケル船首骨船尾骨間ノ長サ及ヒ此長サノ四點ニ於テ測リタル幅員及ヒ深サノ各平均數ヲ得テ此數ヲ相乘シテ其積數之九分ノ四ヲ採ルモノトス

斯ノ如クシテ得タル數字ハ白耳義國稅關ニ於テ使用スル一立方米突半ヲ以テ一噸トスル規定ニ基キタル噸數ナリトス然レモ今日ニ於テハ各國共ニ一定ノ噸數測定方法ヲ用ユ即チむわそむ (Lesystème Moorsom) 法之ナリ白耳義國ハ一千八百六拾六年迄すこ一河通航權買入ノ條約ニ調印セル各國ノ承諾ヲ經テ此法ヲ用ユルコト同意シ此むわそむ法及ヒ船内炭量ヲ測ル法ヲ一定シ一千八百八拾四年一月一日ヨリ之ヲ實施セリ然ルニむわそむ法ノ一噸ハ舊白耳義國ノ測定法ニ依ルモノ、壹立方米突七五二ニ當リ舊法ノモノヨリモ大ナルカ故此新舊兩法ノ間ニ大差ヲ生シタルヲ以テ此變更率ヲ定ムル爲ニ委員ヲ選定シ遂ニ政府及ヒ市會ノ協贊ヲ得テ新舊ノ率ヲ一、一六八ト定メラル即チ舊法ノ壹千噸ハむわそむ法ノ八百五拾六噸ト定メラレタリ故ニ舊ノ稅率ニ一、一六八ヲ乘スレバ新法即チむわそむ法ニ依ルノ稅率ヲ得ルモノトス

○入船報告

安土府へ入港ノ船舶ハふらしんぐ (Flessingue) ヲ通過スル時電信ヲ以テ安土府ニ報知シ荷役ノ便ヲ計リ置クモノトス

○ 檢疫

檢疫へごゑる(Dock)ニ於テ行フモノトス然レモ船舶ノ發航地ニ傳染病流行ノ疑アル時又ハ船内ニ傳染病患者アリタル時ノ外ハ之ヲ行フコトナシ而テ此檢疫及ヒ停船隔離施行ニ關スル費用ヲ徴スルコトナシ

○ 税關

船長ハリス(Lieut)ニ設ケアル税關事務所ニ積荷目錄ヲ差出シ其申告ヲナスモノトス
税關官吏ハ之レニ乗船シテ着港ノ上安土府税關ニ右書類ヲ引キ繼キ諸手續終レバ船舶繫船壁ニ繫キ直チニ荷役ヲ始ムルコトヲ得

○ 水先案内

船舶ノ水先案内ハ強制的ニシテ白耳義國水先案内者ト和蘭陀國水先案内者ト相互ニ之ヲ施行ス但シ水先案内者ヲ要セサルモノ左ノ如シ

一 軍艦 二 航海俱樂部ニ屬スル遊船 三 吃水拾九でし米突我六尺貳寸七步以下ニシ

テばらすとヲ積載スル船舶 四 河川航通ノ船舶 五 自ラ運搬ヲナサ、ル曳船

六 鮮鯨其他ノ漁船 七 鮮魚若クハ捕魚ノ運搬ヲナス船舶

水先案内料ハゑすこ一河ノ航通權讓與ニ關シ一千八百六拾三年五月十二日ニ於テ白耳義和蘭陀ノ兩國間ニ締結シタル條約ノ規定ニ依リ定ムルモノナリ而テ此規定ニ依レバゑすこ一河ニ於ケル水先案内料ハみゆす河々口ニ於テ徴収スルモノヨリ高價ナルヲ得ズ

此案内料ハ夏期冬期ニ區別シ船舶ノ吃水ニ依リ何レノ國籍ヲ問ハス一様ノ率ニヨリ徴収ス

夏期ハ四月一日ヨリ九月三十日迄冬期ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス
 此率ハ帆船ナルト若クハ曳船ニ曳カルト又ハ汽船ナルトニ依リ變更ス然レモ規則ニ示定
 シタル或ル特種ノ場合ニハ割引スルコアリ又タ避難ヲナス場合ニ於テ入出スル船舶ノ水先
 案内料ハ税率ノ五割引トス
 氷結甚シキ時又ハばらすど少量ニシテ操縦自由ナラサル時又ハ船具若クハ舵等ニ損害アリ
 テ仮令航海ノ安全ヲ害スルコナキモ水先案内ノ危険ヲ増ス時ハ凡テ五割増トス
 甲表即チ海峡 (Passes) ヨリふらしんぐ灣ニ至ル水先料

吃水 (でま) 米 (突ノ位)	夏 期				冬 期			
	帆船	被曳船	汽船	帆船	被曳船	汽船	帆船	被曳船
一五	法 一五・二四 仙	法 一四・一八 仙	法 一三・三三 仙	法 二〇・三三 仙	法 一九・〇五 仙	法 一七・七八 仙	法 一八・六三 仙	法 一七・七八 仙
一六	一六・〇八	一五・〇三	一三・九七	二二・二六	一九・八九	一八・六三	一八・六三	一八・六三
一七	一六・九三	一五・八七	一四・八一	二三・〇一	二〇・七四	一九・二六	一九・二六	一九・二六
一八	一八・六二	一七・三五	一六・三〇	二三・七〇	二二・三三	二〇・七四	二〇・七四	二〇・七四
一九	二〇・三三	一九・〇五	一七・七六	二五・四〇	二三・九二	二二・三三	二二・三三	二二・三三
二〇	二二・〇四	二〇・七六	一九・二六	二七・九四	二六・〇四	二四・五五	二四・五五	二四・五五
二一	二三・七五	二二・四八	二〇・七四	三〇・四八	二八・五七	二六・六七	二六・六七	二六・六七
二二	二五・四六	二四・二〇	二二・三三	三三・〇一	三〇・九〇	二八・九〇	二八・九〇	二八・九〇
二三	二七・一七	二五・九一	二三・三三	三五・五六	三三・四四	三一・二二	三一・二二	三一・二二

四二	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三三	三三	三二	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四
九九・八九	九二・四三	八四・六六	七九・五八	七五・三四	七二・二一	六六・八八	六二・六五	五八・四二	五四・二八	四九・九五	四五・七一	四二・三三	三八・九四	三六・四〇	三三・八六	三二・三三	二八・七六	
九三・七六	八五・七二	七九・三七	七四・七二	七〇・六九	六六・六七	六二・六五	五八・八四	五四・八一	五〇・七九	四六・七七	四二・九六	三九・五八	三六・六一	三三・〇七	三二・七五	二九・四二	二七・〇九	
八七・四二	八〇・〇〇	七四・〇七	六九・六三	六六・〇三	六二・三三	五八・四一	五四・八一	五二・三三	四七・四二	四七・六〇	四〇・〇〇	三七・〇四	三四・〇七	三二・七五	二九・六三	二七・五二	二五・一九	
一三〇・三七	一二〇・二二	一一〇・〇五	一〇三・二八	九六・五二	九一・四三	八六・三五	八二・二七	七六・一九	七二・二二	六六・〇三	六〇・九五	五五・八七	五〇・七九	四七・四一	四四・〇二	四〇・六三	三八・一〇	
一三三・三三	一二八・〇〇	一二三・一八	九六・三三	九〇・五八	八五・七一	八一・〇六	七九・一九	七二・五三	六六・六七	六二・八〇	五七・一四	五二・四九	四七・六二	四四・四四	四二・二七	三八・一〇	三五・七七	
一一四・〇七	一〇五・一九	九六・三三	九〇・三七	八四・四四	八〇・〇〇	七五・五六	七二・二二	六六・六七	六二・三三	五七・六八	五三・三三	四八・八九	四四・四四	四二・四八	三八・五二	三五・五五	三三・四四	

四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五三	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九
一〇八・三六	一〇九・六三	一一〇・九〇	一一一・一七	一一二・四四	一一三・七一	一一四・〇三	一一五・三〇	一一六・五七	一一七・八四	一一八・一一	一一九・三八	一二〇・六五	一二一・九二	一二二・一九	一二三・四六	一二四・七三	一二五・〇〇	一二六・二七	一二七・五四
一〇一・五九	一〇二・八六	一〇三・一三	一〇四・四〇	一〇五・六七	一〇六・九四	一〇七・二一	一〇八・四八	一〇九・七五	一一〇・〇二	一一一・二九	一一二・五六	一一三・八三	一一四・一〇	一一五・三七	一一六・六四	一一七・九一	一一八・一八	一一九・四五	一二〇・七二
九四・八一	九五・〇八	九六・三五	九七・六二	九八・八九	九九・一六	一〇〇・四三	一〇一・七〇	一〇二・九七	一〇三・二四	一〇四・五一	一〇五・七八	一〇六・〇五	一〇七・三二	一〇八・五九	一〇九・八六	一一〇・一三	一一一・四〇	一一二・六七	一一三・九四
一四〇・五三	一四一・八〇	一四二・〇七	一四三・三四	一四四・六一	一四五・八八	一四六・一五	一四七・四二	一四八・六九	一四九・九六	一五〇・二三	一五一・五〇	一五二・七七	一五三・〇四	一五四・三一	一五五・五八	一五六・八五	一五七・一二	一五八・三九	一五九・六六
一三一・八五	一三二・一二	一三三・三九	一三四・六六	一三五・九三	一三六・二〇	一三七・四七	一三八・七四	一三九・〇一	一四〇・二八	一四一・五五	一四二・八二	一四三・〇九	一四四・三六	一四五・六三	一四六・九〇	一四七・一七	一四八・四四	一四九・七一	一五〇・九八
二二二・九六	二二三・二三	二二四・五〇	二二五・七七	二二六・〇四	二二七・三一	二二八・五八	二二九・八五	二三〇・一二	二三一・三九	二三二・六六	二三三・九三	二三四・二〇	二三五・四七	二三六・七四	二三七・〇一	二三八・二八	二三九・五五	三〇〇・八二	三〇一・〇九
四四一・九六	四四二・二三	四四三・五〇	四四四・七七	四四五・〇四	四四六・三一	四四七・五八	四四八・八五	四四九・一二	四五〇・三九	四五一・六六	四五二・九三	四五三・二〇	四五四・四七	四五五・七四	四五六・〇一	四五七・二八	四五八・五五	四五九・八二	四六〇・〇九

論說及報告

乙表即チふらしんぐ灣ヨリ海ニ至ル水先料

吃水 (<small>でし米 突ノ位</small>)	夏 期				冬 期			
	帆船	被曳船	汽船	被曳船	帆船	被曳船	汽船	被曳船
一五	法 一・〇 船 一・〇	法 一・〇 船 一・〇	法 九・七 船 一・〇	法 三・七 船 一・〇	法 三・五 船 一・〇	法 三・七 船 一・〇	法 二・八 船 一・〇	法 一・八 船 一・〇
一六	一・八	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一七	二・七	一・八	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
一八	三・五	二・七	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
一九	四・三	三・五	二・七	二・七	一・六	一・五	一・五	一・四
二〇	五・二	四・一	三・三	三・三	一・七	一・六	一・六	一・五
二一	六・〇	五・〇	四・一	四・一	一・八	一・七	一・七	一・六
二二	六・九	五・八	四・一	四・一	一・八	一・七	一・七	一・六
二三	七・八	六・七	五・〇	五・〇	一・九	一・八	一・八	一・七
二四	八・七	七・六	五・九	五・九	二・〇	一・九	一・九	一・八
二五	九・六	八・五	六・八	六・八	二・一	二・〇	二・〇	一・九
二六	一〇・五	九・四	七・七	七・七	二・二	二・一	二・一	二・〇
二七	一一・四	一〇・三	八・六	八・六	二・三	二・二	二・二	二・一
二八	一二・三	一一・二	九・五	九・五	二・四	二・三	二・三	二・二
二九	一三・二	一二・一	一〇・四	一〇・四	二・五	二・四	二・四	二・三
三〇	一四・一	一三・〇	一一・三	一一・三	二・六	二・五	二・五	二・四
三一	一五・〇	一四・九	一二・二	一二・二	二・七	二・六	二・六	二・五
三二	一五・九	一四・八	一三・一	一三・一	二・八	二・七	二・七	二・六
三三	一六・八	一五・七	一四・〇	一四・〇	二・九	二・八	二・八	二・七
三四	一七・七	一六・六	一四・九	一四・九	三・〇	二・九	二・九	二・八
三五	一八・六	一七・五	一五・八	一五・八	三・一	三・〇	三・〇	二・九
三六	一九・五	一八・四	一六・七	一六・七	三・二	三・一	三・一	三・〇
三七	二〇・四	一九・三	一七・六	一七・六	三・三	三・二	三・二	三・一
三八	二一・三	二〇・二	一八・五	一八・五	三・四	三・三	三・三	三・二
三九	二二・二	二一・一	一九・四	一九・四	三・五	三・四	三・四	三・三
四〇	二三・一	二二・〇	二〇・三	二〇・三	三・六	三・五	三・五	三・四
四一	二四・〇	二三・九	二一・二	二一・二	三・七	三・六	三・六	三・五
四二	二四・九	二四・八	二二・一	二二・一	三・八	三・七	三・七	三・六
四三	二五・八	二四・七	二三・〇	二三・〇	三・九	三・八	三・八	三・七
四四	二六・七	二五・六	二三・九	二三・九	四・〇	三・九	三・九	三・八
四五	二七・六	二六・五	二四・八	二四・八	四・一	四・〇	四・〇	三・九
四六	二八・五	二七・四	二五・七	二五・七	四・二	四・一	四・一	四・〇
四七	二九・四	二八・三	二六・六	二六・六	四・三	四・二	四・二	四・一
四八	三〇・三	二九・二	二七・五	二七・五	四・四	四・三	四・三	四・二
四九	三一・二	三〇・一	二八・四	二八・四	四・五	四・四	四・四	四・三
五〇	三二・一	三一・〇	二九・三	二九・三	四・六	四・五	四・五	四・四
五〇以上	三三・〇	三二・九	三〇・二	三〇・二	四・七	四・六	四・六	四・五

六〇	四三・二	三六・八	三〇・七	二五・〇	二〇・二	一五・五	一〇・八
以上でし米突毎ニ	二五・四〇	二二・七五	二〇・三三	一八・八六	一七・三六	一五・八六	一四・三六

四	四	四	四	四	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三三	三二	三〇	二九	二八	二七
六二・八〇	五九・二六	五六・七一	五四・一八	五一・六四	四九・一〇	四六・五七	四四・〇二	四二・四八	三八・九四	三七・二〇	三五・五七	三三・八六	三二・一七	三〇・四八	二八・七九	二七・〇九	二五・四〇
五七・九九	五五・六六	五三・二二	五〇・七九	四八・四七	四六・一四	四三・六〇	四二・二七	三八・九四	三六・六一	三四・九二	三三・四四	三二・七五	三〇・二六	二八・五七	二七・〇九	二五・四〇	二三・九二
五四・一八	五一・八五	四九・七四	四七・四一	四五・二九	四二・九六	四〇・八五	三八・五二	三六・一九	三四・〇七	三三・五九	三二・二一	二九・六三	二八・一五	二六・六七	二五・一九	二三・七〇	二二・三二
七二・八〇	六七・七二	六四・三四	六〇・九五	五七・五七	五四・一八	五一・六四	四九・二〇	四六・五六	四四・〇二	四二・二七	三八・九四	三七・二五	三五・五六	三三・八六	三二・一七	三〇・四八	二八・七九
六八・三六	六六・四九	六〇・三三	五七・一四	五三・九七	五〇・七九	四八・四七	四六・一四	四三・六〇	四一・二七	三八・九四	三六・六一	三四・九二	三三・四四	三一・七五	三〇・二六	二八・五七	二七・〇九
六三・七〇	五九・二六	五六・三〇	五三・三三	五〇・三七	四七・四一	四五・二九	四二・九六	四〇・八五	三八・五二	三六・一九	三四・〇七	三三・五九	三二・二一	二九・六三	二八・一五	二六・六七	二五・四〇

論說及報告

丙表即チムらしんぐヨリ安土府ニ至ル水先料(歸路モ亦同シ)

以上でし米突毎ニ	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五
	二〇・三三	三〇四・七六	二八四・四四	二六四・三三	二四三・八一	二二三・四九	二〇三・七七	一八六・二四	一六九・三二	一五二・三八	一三五・四五	一二一・九〇	一〇八・三六	九四・八一	八四・六六	七六・一九
	一九・〇五	二八五・七一	二六六・六七	二四七・六一	二二八・五七	二〇九・五二	一九〇・四八	一七四・六〇	一五八・五三	一四二・八六	一二六・九八	一一一・五九	九八・八九	八八・八九	七九・三七	七二・五三
	一七・七八	二六六・六七	二四八・八九	二三二・一一	二二三・三五	一九五・五六	一七七・七八	一六二・九六	一四八・一八	一三三・三三	一一八・五二	一〇六・六七	九四・八一	八二・九六	七四・〇七	六六・六七
	二〇・三三	三三五・〇八	三〇四・七六	二八四・四四	二六四・三三	二四三・八一	二二三・四九	二〇三・二七	一八六・二四	一六九・三二	一五二・三八	一二一・九〇	一〇八・三六	九四・八一	八四・六六	七六・一九
	一九・〇五	三〇四・七六	二八五・七一	二六六・六七	二四七・六一	二二八・五七	二〇九・五二	一九〇・四八	一七四・六〇	一五八・五三	一四二・八六	一二六・九八	一一一・五九	九八・八九	八八・八九	七九・三七
	一七・七八	二八四・四四	二六六・六七	二四八・八九	二三二・一一	二二三・三五	一九五・五六	一七七・七八	一六二・九六	一四八・一八	一三三・三三	一一八・五二	一〇六・六七	九四・八一	八二・九六	七四・〇七

論說及報告

											吃水 (突ノ位)						
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五		
											帆		夏				
六〇	五八	五四	五一	四九	四六	四四	四一	三八	三五	三二	三〇	二九		二七	二六	二四 _法	船
											被曳船		汽				
五六	五四	五一	四八	四六	四三	四一	三八	三五	三三	三〇	二八	二七		二五	二四	二二 _法	船
											汽		冬				
五二	五〇	四八	四五	四三	四〇	三八	三六	三三	三一	二八	二七	二五		二四	二二	二一 _法	船
											帆		汽				
六四	六二	六〇	五八	五四	五一	四九	四六	四四	四一	三八	三五	三二		三一	三〇	二九 _法	船
											被曳船		汽				
六〇	五八	五六	五四	五一	四八	四六	四三	四一	三八	三五	三三	三〇		二九	二八	二七 _法	船
											汽		船				
五六	五五	五二	五〇	四八	四五	四三	四〇	三八	三六	三三	三一	二八		二七	二六	二五 _法	

四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一
一三〇	一二六	一一八	一一四	一〇八	一〇三	九八	九一	八八	八五	八二	七八	七六	七三	七一	六八	六四	六二
一二二	一一八	一一一	一〇六	一〇一	九七	九二	八五	八二	七九	七六	七三	七一	六八	六七	六四	六〇	五八
一一四	一一〇	一〇四	九九	九四	九〇	八六	八〇	七七	七四	七一	六九	六六	六四	六二	五九	五六	五五
一四二	一三五	一三〇	一二六	一一八	一一四	一〇八	一〇三	九八	九一	八八	八五	八二	七八	七六	七三	七一	六八
一三三	一二七	一二二	一一八	一一一	一〇六	一〇一	九七	九二	八五	八二	七九	七六	七三	七一	六八	六七	六四
一二五	一一八	一一四	一一〇	一〇四	九九	九四	九〇	八六	八〇	七七	七四	七一	六九	六六	六四	六二	五九

以上でし米筭毎ニ	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九
七	二一〇	二〇三	一九七	一九〇	一八三	一七六	一七〇	一六二	一五六	一四九	一四二	一三五
六	一九六	一九〇	一八四	一七八	一七二	一六五	一五九	一五二	一四六	一三九	一三三	一二七
五	一八三	一七八	一七二	一六六	一六〇	一五四	一四八	一四二	一三六	一三〇	一二五	一一八
七	二二三	二一七	二一〇	二〇三	一九七	一九〇	一八三	一七六	一七〇	一六二	一五六	一四九
六	二〇九	二〇三	一九六	一九〇	一八四	一七八	一七二	一六五	一五九	一五二	一四六	一三九
五	一九五	一九〇	一八三	一七八	一七二	一六六	一六〇	一五四	一四八	一四二	一三六	一三〇

船舶吃水測定ノタメ出入ノ都度五拾參仙ノ税金ヲ納ムルモノトス

灣内ニ於テハ水先案内者乗船中一日毎ニ水先料四法二拾參仙ヲ仕拂フモノトス

灣ヨリ船溜所ニ至ル往路又ハ歸路ノ水先案内料并ニ碇泊所變更ノ水先案内料ハ左ノ如シ

無橋船舶ずる一ふ(Sloop)ちやるく(Talk)がりおつと(Galiote)形船舶ハ壹法七拾五仙

全上とあれつと(Galiote)形船舶は

貳法五拾仙

ばるく形帆船若クハ三檣帆船

汽船

參法

貳法五拾仙

此料率ハ灣ヨリ船溜所入口ノ繫船壁ニ至ル徑路又ハ歸路ノ水先料ニモ適用ス

一ツノ船溜所ヨリ他ノ船溜所ニ移ルタメスこ一河ヲ經過スル船舶ハ此料率ノ倍額ヲ仕拂
フモノトス

船溜所ノ上流又ハ下流ニ碇泊シタル船舶ニシテスこ一河繫船壁又ハ船溜所ノ入口へ碇泊
地ヲ變更スル時又ハ灣或ハ船溜所入口ヨリ市ノ附近ニアル私有船渠ニ至ル時ハ此料率ノ三
倍ヲ仕拂フモノトス

夜間ニ施行スル移動ニハ總テ通常ノ料率倍額ヲ課スルモノトス

○燈臺料及燈火料ノ廢止

水先料ノ外ニ白耳義國及ヒ和蘭陀國政府ノ所得ニ歸スヘキ燈臺料及ヒ燈火料トシテスこ
一河ヲ通過シ海ヨリ白耳義國ニ出入スル船舶ニハ總テ壹噸ニ付拾壹仙宛ノ稅ヲ課シ來リシ
カ一千八百九拾六年以後ヘ之ヲ廢止シタリ尤モ浮標稅ハ嘗テ課シタルコトナシ

○水上警察稅

此港ニ出入スル船舶ハ其船籍ノ何レノ國タルヲ問ハス左ノ稅率ニ依リ水上警察稅ヲ仕拂フ
モノトス

入港檢査料

六法

外ニ乘組員壹人ニ付

五拾仙

出港検査料

貳法

變更ナキ乗組表検査料

壹法

脱走船員又ハ召喚ニ應セサル乗組員ノ逮捕又ハ彼等ヲ船舶へ送還スル時拾貳法

但シ此金額ハ請求シタル船長若クハ領事ヨリ仕拂フモノトス

船舶ノ抑留ハ請求者ヨリ仕拂フモノニシテ其金額

拾貳法

乗組員解雇ノタメ警察員ノ出張ヲ請求シタル時仕拂フヘキ金額

八法

○火藥稅

船舶へ火藥稅トシテ入港ノ時和蘭陀國貨幣四ふろりん即チ八法四拾七仙ヲ仕拂フモノトス

前記ノ水先料警察稅等ハ總テ官吏ヲシテ徵集セシメ政府ノ收入トス

○一般ニ適用スヘキ航海稅

此稅金ハ安土府市ノ徵収スルモノナリ

航海稅ハ左ノ通りトス

航海船舶ニシテ船溜所ニ入ルモノハ一ケ年間ニ於ケル航海度數如何ヲ問ハス一回ニ付

實噸數ナルむおそむ壹噸ニ付五拾仙ヲ仕拂フモノトス

此稅金ヲ仕拂ヒタル船舶ハ二ケ月間自由ニ船溜所ニ繋溜スルコトヲ得ルモノニシテ此期

間ヲ過クル時ハ一ケ月壹噸ニ付六仙ヲ追徵セラル一ケ月未滿ノ日數ハ一ケ月ト計算ス

灣内又ハ河岸繋船壁ニ於テ荷役スル航海船舶及ヒ船溜所内ニ於テ荷役ヲ許サレタル定期線

航海船舶ハ實噸數ニ付左ノ割合ニヨリ航海稅ヲ仕拂フモノトス

最初ノ十回間ノ航海ハ

壹噸ニ付參拾仙

次ノ十回間ノ航海ハ

全 貳拾仙

最後ノ十回間ノ航海及ヒ其後共

全 拾四仙

此割引割合ヲ應用シ得ル航海船舶ハ最初ヨリ十二ヶ月間ニ此航海ヲナサルヘカラス
灣内ニ碇泊スルノミニテ荷役等ヲナササル船舶ハ稅ヲ課セラル、ヲナシ又ハ急スコレ河上
流ニ赴ク船舶ニシテ一時此所ニ碇泊スル船舶モ亦同シ

内國航船舶ニシテ北部船溜所ニ入ルモノハ汽船帆船等ノ別ナク左ノ稅率ニヨルモノトス

五拾噸以下ノ船舶ハ一ケ年間ニ於ケル航海ノ度數ニ係ラス壹噸ニ付 八仙

五拾噸以上ノ船舶ハ第一航海壹噸ニ付 貳拾五仙

全上第二航海全上 貳拾貳仙

全上第三航海全上 拾七仙

全上第四航海全上 拾貳仙

全上第五航海以上一航海毎ニ全上 五仙

右ノ稅金ヲ仕拂ヒタル船舶ハ二ヶ月間船溜所ニ碇泊スルヲ得ルモノニシテ此期間ヲ過ク
ル時ハ一ヶ月一噸ニ付五仙ヲ追徵スルモノトス一ヶ月未滿ノ日數ハ一ヶ月ト計算ス

○船舶搭載貨物積卸ノ事

船舶ニシテ荷役ノタメ船溜所繫船壁又ハ沿岸ニ繫溜スヘキ期日ハ海上証書ニ記載ノ船舶容
積ニ依リ之ヲ定ム而テ搭載貨物ノ檢査ヲ船長ヨリ稅關ニ申出シタルモ稅關ノ都合ニヨリ其

當日之ヲ檢査スル能ハサル場合及ヒ不可抗力ニテ等シク當日檢査ナシ能ハサルモノト市吏員團體ニ於テ認メタル場合ニハ表中以外翌日ニ亘ルモ妨ナキモノトス

登簿噸數	積入ノ爲メ許サレタル碇泊日數	
	帆船	汽船
100	六	四
200	七	五
300	七	五
400	八	六
500	八	六
600	九	七
700	九	七
800	一〇	八
900	一〇	八
1000	一一	九
1100	一一	九

登簿噸數	陸揚ノ爲メ許サレタル碇泊日數	
	帆船	汽船
100	三	二
200	四	三
300	四	三
400	五	四
500	五	四
600	六	五
700	六	五
800	七	六
900	七	六
1000	八	七
1100	八	七

論說及報告

五百二十九

二九〇〇	二八〇〇	二七〇〇	二六〇〇	二五〇〇	二四〇〇	二三〇〇	二二〇〇	二一〇〇	二〇〇〇	一九〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一一〇〇	一〇〇〇
三〇	三〇	二九	二九	二八	二八	二七	二七	二六	二六	二五	二五	二四	二四	二三	二三	二二	二二	二一	二一
三五	三五	三四	三四	三三	三三	三二	三二	三一	三一	三〇	三〇	二九	二九	二八	二八	二七	二七	二六	二六
一五	一五	一四	一四	一四	一四	一三	一三	一三	一三	一二	一二	一一	一一	一〇	一〇	一〇	一〇	〇九	〇九
一八	一八	一八	一八	一七	一七	一六	一六	一六	一六	一五	一五	一四	一四	一三	一三	一三	一二	一二	一二
二九〇〇	二八〇〇	二七〇〇	二六〇〇	二五〇〇	二四〇〇	二三〇〇	二二〇〇	二一〇〇	二〇〇〇	一九〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一一〇〇	一〇〇〇
一七	一七	一七	一六	一六	一六	一五	一五	一五	一四	一四	一四	一三	一三	一三	一二	一二	一一	一一	一〇
二二	二二	二二	二〇	二〇	二〇	一九	一九	一九	一八	一八	一八	一七	一七	一七	一五	一五	一五	一四	一四
三三	三三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二五	二四	二四	二三	二三	二二	二二	二一	二一	二〇	二〇	一九
二八	二七	二六	二五	二五	二四	二四	二三	二三	二二	二二	二一	二一	二〇	二〇	一九	一九	一八	一八	一八
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	九	九	九	九	八	八	八	八	七	七	七	七	六	六
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三一	三一	三一	三一	二〇	二〇	二〇	二〇	一九	一九	一九	一九	一八	一八
一九	一八	一七	一七	一六	一五	一五	一四	一四	一三	一三	一二	一二	一一	一一	一〇	一〇	一〇	〇九	〇八

三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
三三	三三	三三	三三	三三	三三
三八	三八	三七	三七	三六	三六
一五	一五	一五	一五	一五	一五
一九	一九	一九	一九	一九	一八

三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
一九	一九	一九	一八	一八	一八
二四	二四	二四	二三	二三	二三
三元	三元	三元	三元	三元	三元
二九	二九	二九	二九	二九	二九
一一	一一	一一	一一	一一	一一
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二二	二二	二二	二二	二二	二二

市ハ港用ノタメ必要ト認メタル場合ニハ碇泊ノ船舶ヲシテ既繫ノ位置ヲ立退カシメ又ハ其位置ヲ變更セシムルヲ得

船舶ニシテ右期間中ニ貨物ノ積卸ヲナサ、ル時ハ船長ハ壹噸ニ付拾仙ノ罰金ニ處セラル但シ最低額ハ貳拾五法トス而テ港務局長ハ何時ニテモ船舶ニ其碇泊處ヲ變更セシメ或ハ碇泊ヲ差シ止ムルヲ得ルモノトス船長ニ於テ港務局長ノ命令ヲ用ヒサル時ハ港務局長ハ船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ執行スルモノトス若シ市ノ認可ナクシテ三日間仕事ヲ爲サスシテ碇泊スルモノハ他船ノタメニ其位置ヲ讓ラシムルモノトス

○陸揚機械即チ起重機ノ事

市ハ繫船壁上ニ數箇ノ固定及ヒ運搬シ得ヘキ起重機ヲ設備シ以テ船舶ノ望ニ依リ之ヲ使用セシムルモノトス

之ヲ使用セント欲スル船舶ハ其使用センカタメニ用ユル場所ニ於テ之ヲ使用セサル他ノ船

船碇泊スル時ハ其船舶ヲシテ位置ヲ轉セシムルヲ得

起重機ハ港務局長ノ許ニ登記シタル順序ニヨリ之ヲ使用スルヲ得之ガ登記ヲナサントスル船舶ハ港内ニ碇泊セサルベカラズ

此等ノ諸器具諸機械ノ使用上ヨリ若シ人体ニ危害ヲ及ホスヲ生シタルモ市ハ其責ニ任セズ

起重機ノ運轉手ハ市ノ吏員ナリト云ヘル此者ノ一切ノ行爲動作ハ直接船舶トノ關係ニテ市ハ其責ニ任セス

起重機使用中破損等ノタメ使用シカタキ時使用者ハ之レニ生スル損害ヲ市ニ請求スルヲ得ス然レモ使用料ハ使用シタル時間ノ割合ニ應シ仕拂ヲナスモノトス

起重機ヲ用ユル貨物ノ量目ハ一定ノ重量ヲ超ユベカラス誤テ此量目ヲ超過スルキハ百基ニ付拾法ノ罰金ニ處ス

○起重機使用料

百貳拾噸ノ水壓固定起重機ノ使用料ハ左ノ式ニ依ル

貨物ノ噸數ヲPトシ起重機使用料(法)ノ位ニ示ス)ハP.V.P.トス

假令ハ貳拾五噸ノ貨物ニ對シテハ即チ $25 \times 25 = 25 \times 5 = 125$ 法ト云フカ如シ

固定手動起重機ノ使用料ハ前記使用料ノ三割引トス

但シ蠟石其他切石材ニ對シテハ前記使用料ノ五割引トス

水壓起重機ニシテ其運轉方ヲ市ニテ供給スル時ハ一日ノ使用料貳拾法半日ノ分拾法而テ四

半ノ分ハ六法トス又々其運轉方ヲ使用者ニ於テ弁スル時ハ一日拾五法半日七法五拾仙四半日ハ五法トス

○船舶ばらすとノ積卸

ばらすとノ積卸ハ一定ノ規則ニ依リ一個人又ハ市ノ認許シタル組合ニ於テ之ヲ取扱ハシム
 一 ばらすとハ砂貳千基ヲ以テ一個トシ市ノ船舶ニ依リ之ヲ供給セシム俱シ海上航海ノ船舶ニ對シテハ壹割五分増トス

船舶ノ位置 沖繫ノ船舶ニ對シテハ 船溜所内又ハ繫船壁ニ繫溜ノ船舶ニ對シテハ	積入料 貳法拾仙 貳法貳拾五仙	取除料 壹法四拾仙 壹法五拾五仙
---	-----------------------	------------------------

右ノ費用ノ内ニハ船内ニ於ケル運搬費ハ含有セス
 二 ばらすと船ヲ用ヒズシテ甲船ヨリ乙船ヘ積ミ移ス場合ニハ左ノ如シ

船舶ノ位置 沖繫ノ船舶ニ對シテハ 船溜所内又ハ繫船壁ニ繫溜ノ船舶ニ對シテハ	積入料 五拾五仙 六拾仙	取除料 貳拾八仙 參拾仙
---	--------------------	--------------------

積込取除共各船ノ負擔ニシテ仕拂フヘキ料金ハ市ヘ仕拂フヘキ税金ニ等シ
 右ノ場合ニ於テ若シばらすと船ヲ用ユル時ハ第一項ノ料金を仕拂フモノトス

三 船舶間ノ積ミ移シヲ一個人又ハ市ノ認許シタル組合ニ取扱ハシムルモ市ノばらす
 と船ヲ使用セサル時ハ左ノ如シ

船舶ノ位置	積入料	取除料
沖繫ノ船舶ニ對シテハ	壹法拾仙	五拾五仙
船溜所内又ハ繫船壁ニ繫溜ノ船舶ニ對シテハ	壹法貳拾仙	五拾仙

以上記載ノ料率ハ砂以外ノばらすとヲ用ユル場合モ亦同シク之ヲ適用ス

○修繕船渠

市ハ船舶ノ修繕ヲナサス單ニ船渠ヲ貸與スルノミトス
 市ハ船渠ヲ貸與中若シ其船渠及ヒ其附屬諸機械ノ使用上ヨリ船舶船員搭載貨物等ニ損害危
 害ヲ生スルコアルモ市ハ其責ニ任セス
 若シ船舶ニシテ十四日間以上船渠内ニアル時ハ其十四日以上ニ對シテハ一日毎ニ規定ノ入
 渠料ノ倍額ヲ仕拂フヘキヲ要ス但シ一日ハ船舶入渠シタル時ヨリ二拾四時間ヲ云フ若シ二
 拾四時以内ナル時ハ切リ上ケ一日トス
 夜業ハ市參事員ノ承認ナクシテ之ヲナスヲ許サス
 日曜日及ヒ大祭日ニ於テ事業ヲナサル時ハ船渠料ヲ徴收セス

船 渠 料

論說及報告

船 名	噸 數	出スル船船	船渠ニ入渠後二日 間滯留スル船船ハ	船渠ニ入渠後最初 ノ三日間ハ一日毎	四日ヨリ以後一 日毎ニ
八五噸未満	一二八噸迄	七〇法	五〇法	四五法	二五法
八六噸ヨリ	一一七全	一〇五全	七〇全	六〇全	三〇全
一二九全	一一四全	一四〇全	八五全	八〇全	三三全
一七二全	二一四全	一七五全	九五全	九〇全	三六全
二一五全	二五七全	一八〇全	一〇五全	一〇〇全	三九全
二五八全	三〇〇全	二二〇全	一二〇全	一一五全	四一全
三〇一全	三四二全	二四〇全	一三五全	一三〇全	四四全
三四三全	三八五全	二七〇全	一四五全	一四〇全	四七全
三八六全	四二八全	三〇〇全	一六〇全	一五〇全	五〇全
四二九全	五一四全	三六〇全	一九〇全	一七六全	五四全
五一五全	五九九全	四二〇全	二二〇全	二〇三全	五八全
六〇〇全	六八五全	四八〇全	二五〇全	二二九全	六二全
六八六全	七七一全	五四〇全	二八〇全	二五五全	六六全
七七二全	八五六全	六〇〇全	三一〇全	二八三全	七〇全
八五七全	九四二全	六六〇全	三四〇全	二九七全	七七全
九四三全	一、〇二七全	七二〇全	三七〇全	三一全	八四全

一、〇二八 全	一、一三三 全	七八〇 全	四〇〇 全	三二四 全	九一 全
一、一四 全	一、一九九 全	八四〇 全	四三〇 全	三三七 全	九八 全
一、二〇〇 全	一、二八四 全	九〇〇 全	四六〇 全	三五〇 全	一〇五 全
一、二八五 全	一、三七〇 全	九四〇 全	四八〇 全	三六七 全	一〇八 全
一、三七一 全	一、四五五 全	九八〇 全	五〇〇 全	三八四 全	一一一 全
一、四五六 全	一、五四一 全	一、〇二〇 全	五二〇 全	四〇一 全	一一四 全
一、五四二 全	一、六二七 全	一、〇六〇 全	五四〇 全	四一七 全	一一七 全
一、六二八 全	一、七二二 全	一、一〇〇 全	五六〇 全	四三三 全	一二〇 全
以上八拾五噸ヲ増加スル毎ニ		増 四〇 全	増 二五 全	増 二〇 全	増 五 全

ゑむせ、ごでつか(M.J. De Decker & Co)氏所有ノゑすこー河船渠會社ナルモノハ市ノ對岸即チゑすこー河ノ左岸ニ在テ船渠ヲ有シ同様ノ船渠料ニテ入渠セシム又タ造船所モ此船渠ノ附近ニアリ其他ゑすこー河沿岸ニハばるくと(Burgh)ニ於テゑむ、ゑー、まゆると(M.A. Schulte)氏所有ノ船渠くるいべつく(Cruyboke)ニハゑむだぶりう、ぶりいめん(M.W. Freeman)氏所有ノ船渠アリ加ルニはぼけん(Hoboken)ニハヒよんこつかれる(JohnCokerill)商社ノ鐵工所及ヒ造船所等アリテ修繕其他ニ充分ノ設備ヲ有ス

岸接繫船壁、上屋、倉庫等ノ使用法

ゑすこー河沿岸及ヒ船溜所沿ヒノ繫船壁上ニアル上屋ハ貨物積置キ及ヒ荷役ノ爲メ一般ノ

便利ヲ謀リ之ヲ設ケタルモノナリ

貨物陸上ノ翌日ヨリ五日間ハ無料ニテ貨物ヲ積置クコトヲ得

船舶ヘ積入ノ貨物ハ船内積入ニ着手前五日間ハ無料ニテ貨物ヲ積ミ置クコトヲ得而テ船舶ヘ貨物ヲ積ミ入ル、コト能ハサル場合ニハ尙一日間ノ猶豫ヲナシ得ヘシト云ヘル同一ノ貨物ハ再度此特典ヲ得ルコトヲ許サス

此以後ハ左ノ割合ニ依リ使用料ヲ仕拂フモノトス

最初ノ五日間ハ壹平方米突一日ニ付

貳法

次ノ十日間ハ壹平方米突一日ニ付

拾法

十六日目ヨリハ壹平方米突一日ニ付

貳拾法

但シ上屋ナキ積置キ場ノ使用料ハ前記ノ半額トス

鐵軌、鐵梁其他工業原料品ノ積置キ積入レニ付テモ前同様トス

面積ハ貨物ト貨物トノ間ノ空隙ヲモ込メテ之ヲ量リ壹米突以下ノ分數ハ算入セス

貨物ニ由リ豫メ容積ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 鐵軌壹米突 二 鐵板米突ノ七割五分 三 鐵線壹米突 四 鐵釘類七割五分

五 小箱ノ硝子板、硝子器、陶器壹米突貳割五分 六 指物用木材壹米突半 七 貳百

參拾りつとるヲ超過セサル液体物ハ二樽ノ高サ 八 せめんごハ三樽ノ高サ迄

九 穀物袋入穀物、珈琲及米ハ參米突 十 袋入砂糖同シク參米突 十一 羊毛綿花

麻等ハ俵製ノモノ壹米突ト七割五分トス 十二 凡テノ貨物ニシテ人背ヲ以テ運

搬シ得ルモノハ參米突トス

以上ノ如ク定ムルト云ヘルモハ必要ノ場合ニ於テハ積ミ置キアル貨物ヲ他ハ轉場セシムル
 可ヲ得ルナリ

○わんどるぼーろーやる (Entrepôt Royal) ナル保税倉庫

わんどるぼーろーやる即チ保税倉庫ノ面積ハ參萬壹千六百五拾平方米突我九千五百七拾四
 坪(ニシテ建坪ノ總面積ハ壹萬四百八拾五平方米突(我參千七百七拾余坪)ナリ而テ此建築物中
 ニハ數多ノ倉庫アリテ其面積ハ五千八百五拾平方米突(我貳千貳拾五坪)余ナリ

倉庫ニハ平家建アリ或ハ數階造アリ概シテ多クハ平家建ナリ然リト云ヘル大倉庫ト稱スル
 モノ、如キハ四階造ニシテ穀物揚ケ及ヒ穀倉ノ設備アルノミナラス穴庫ヲモ設ケアリ
 中央倉庫ノ前面ハぐらんばつやん (Grand Bassin) ノ方ニ向ヒ而テ其中央ニ獨立ノ一館アリ八本
 ノごりつく形柱石ノ裝飾柱ヲ有ス其頂部ニハ裝飾物ヲ支持スル構造ナリ

わがゑにうごこむまるす街ニ面シタル舊建物ニハ各増築ヲナシ而テ新ニ獨立シタル一館ヲ
 造リ舊建設物ト廊下ヲ以テ之ヲ連絡セリ此建造物ハ五階造ニシテ總テ商品荷物ノ置物ニ供
 ス或ル場合ニ於テハ階下ノ穴庫ヲモ同様ノ用ニ供スル可ヲモ得

此倉庫内二階以上ノ各階ニ積載シ得ヘキ容量ハ倉庫門前ニ揭示シアリ階下及ヒ穴庫内ニハ
 此制限ナシ而テ此制限ハ階上ニ由リ異ナルト云ヘル大畧壹平方米突ニ付貳百基ヨリ壹千基
 ノ間ナリトス

税關ノ管理ニ係ル貨物ノ倉庫料ハ月極ニシテ總テ税關ノ定ムル所ニ依リ其許可ナクシテ之

ヲ高低スルヲ得ス此倉庫ハ全然税關ノ管理スル所ニシテ其容積ヲ指定シ且ツ各内倉庫ノ
 鍵ヲモ税關ニテ保管ス

税關ハ倉敷料ヲ取り立テ之ヲ三ヶ月毎ニ市ニ納附シ徵収手數料トシテ總收入ノ百分ノ二ヲ
 税關ノ有ニ歸ス

倉庫三棟ハ互ニ内庭ヲ隔テ建造シアルヲ以テ此内庭及ヒ倉庫内ニハ貨車ヲ出入セシメ運搬
 ノ便ニ供セシム

此倉庫ハ停車場ト鐵道ノ連絡ヲ有スルカ故ニ貨車ハ内庭ニ入り格納位置ノ附近ニ於テ荷役
 ヲナシ又タ鐵道便ニヨリ發送セントスル時モ敢テ停車場ニ於テ再ヒ荷役ヲナスノ必要ナク
 直ニ發送スルコトヲ得ルナリ

保税庫ハ全ク市ノ管理スルトコロナルカ故ニ市ハ其利益ヲ以テ之ヲ施行ス然レトモ税關ハ
 其職務執行ニ必要ノ場合ニハ倉庫附屬ノ面積ノ内ヲ要求スル權利アルヲ以テ保税庫ハ税關
 支配ノ貨物ノ多少ニ依リ左右セラル、モノナリ

此外ニ貨物ノ取扱ヲ便利ニナスタメゴつく、わんごるばー會社ナルモノアリ該社ハ一千八百
 六拾八年ノ創立ニシテ水壓作用ノ機械ヲ有ス此機械ハ英國にうかつする市ノあーむすどろ
 んぐ會社ノ製造ニシテ常ニ良結果ナリ其構造ハ船溜所及ヒ安土府停車場ニ備附ケノモノト
 同一ノ式ナリ

五拾馬力ノ横置機關ハ二個ノ水壓唧笛ヲ運轉シ四拾七氣壓半余ノ水力ヲ各所ニ送附シ諸物
 揚機械ノ運轉ニ供ス之ニ要スル汽罐ハ二個ニシテ水管式ナリ

水壓起重機ノ數ハ拾箇ニシテ九百基ノ力ヲ有シ四階ノ倉庫屋外ニ於テ之ヲ使用シ得ルノ裝置ナリ而テ此起重機ハ貳米突ノ橫梁ヲ有シ上下筋ノ長サハ貳米突百みりナリ且ツ鎖ノ一端ハ直接筋柱ニ連結シ四箇ノ滑車ヲ經テ昇降スルヲ以テ鎖ノ行程ハ拾六米突八百みりナリ起重機ヲ以テ揚ケ卸シヲナス貨物ノ便ヲ計ルタメ階上ノ窓脇ニ略八百みり即チ貳尺六寸余ノ掛ケ出ノ椽ヲ設ケ之レニ一ト先ツ貨物ヲ卸シ而テ人背又ハ小運搬車ニテ入倉スルモノトス

倉庫内ニハ七個ノ水壓昇降機アリテ貳拾貳米突半即チ我七拾四尺余ノ高サニ千四百基ノ貨物ヲ昇降セシムルコトヲ得此昇降機用ノ圓塲唧子ノ行程ハ貳米突八百參拾みりニシテ其直徑ハ貳百四拾みりナリ

水壓卷揚ケ機ハ傾斜水壓圓塲形ニシテ起重機ノ如ク滑車及ヒ鎖ノ作用ニヨリ之ヲ運轉ス其卷キ揚ケ力ハ六百基ニシテ倉庫各所ニアル窓ヨリ之ヲ使用スルコトヲ得

以上ノ諸機械ハ市ヨリ之ヲ箇人ニ貸與シ而テ積卸ニ要スル費用ハ階段ノ高低ヲ問ハス左ノ割合ニヨル

貨物百基毎ニ五仙而テ穀物壹へくごりーた我五斗五升余毎ニ貳仙ヲ課ス但シ最低額ヲ仕拂フモノモ五拾仙以上トス

倉庫ヨリ積出ノ時モ此割合ニ同シ
市ハ一千八百八拾四年一月一日ヨリわんどるばーろーやるノ所有權ヲ得テ諸倉庫ヲ貸與スルニ至レリ而テ之レニ關スル諸規則及ヒ倉敷料ノ規定ハごづくわんどるばー會社ノモノト

大差ナシ

あんどるぼーびゆぶりつく (Entrepôt Public) ニ關シテハ特別ノ規定及ヒ倉敷料率ノ定メアリ
料率表中ニ指定セラレサル貨物ニシテ税關率分類ニモ加ハラサルモノニ對シテ左ノ割合ヲ
以テ料金ヲ徴収ス

白耳義國輸入ノ時定メラレタル重量ニ依リ百基ニ付

八仙

従價ノ分ニ對シテハ百法ニ付

八仙

石量ノ分ハ百りつとる即チ我五斗五升四合余ニ付

八仙

箇數ノ分ハ百箇ニ付

八仙

此他特別ノ規定アル商品又ハ倉庫借受人ノ望ニヨリ荷造ナク積置クキハ二倍ノ料金
ヲ仕拂フヘキモノトス

又タ借受人ハ一ケ年半ケ年若クハ三ケ月間ノ期間ヲ定メ借受クルヲ得但シ倉庫内ハ參拾
四平方米突穴庫ハ貳拾五平方米突以上ニアラサレバ貸與セズ
税開規定ノ貨物ニ對スル倉敷料ハ左ノ如シ

一階壹米突平方一ケ月間

七拾仙

二階全上

六拾仙

三階全上

五拾仙

四階及ヒ五階全上

四拾仙

○穀物倉庫

るふるぶる (Lebber) ナル船溜所ノ岸接繫船ニ沿フテ穀物倉庫トシテ一大建造物アリ此ノ内ニ
參拾貳萬五千へくとどる我十八萬百六拾參石余ノ穀物ヲ貯蓄スルコトヲ得而テ此建物ハ
一私立會社ノ經營スル處ニシテ地所ハ四拾年間市ヨリ借入レタルモノナリ又タ其附近ノ地
所ニシテ此建物擴張ノタメニ必要ナル部分ヲ一千八百九拾貳年ヨリ十ヶ年間市ヨリ借入ル
コトヲ得ルノ特權ヲ有ス

此建物内ニハ瓦斯機關ヲ以テ運轉スル完備ノ電燈裝置アリ又タ穀物ノ倉入倉出ニ必要ナル
昇降機其他一切ノ設備アリ就中岸接繫船壁地下隧道内ニアル自動帶ノ裝置ノ如キハ船ヨリ
積卸シタル穀物ヲ直チニ倉庫ニ運搬シ最モ便利ノ構造ナリ

○もんでういでと (Magasin Molevideo) ナル倉庫

市ハぐあの(鳥糞)及ヒ砂糖ノ倉入ノタメニうゑすと、かてんでいくナル岸接繫船壁附近ニ於テ
七千八百平方米突(我貳千貳百九拾九坪)ノ煉瓦建倉庫建築中ナリ

○はんがるぶるしあん(Hangar Prussien) あんしあんめーぞん(Ancienne Mais
on de Hesse) あんしあん(Ancien Arsenal) ナル
salle des Fêtes du Palais de l'Industrie) 及ヒあんしあん(Ancien Arsenal) ナル

建物

以上ノ諸、建物ハ市ノ所有ニシテ商業倉庫ノ用ニ供セリ
あんしあん、あるせなるナル倉庫ノ倉敷料ハ左ノ如シ

一階壹平方米突一ヶ月間

壹法

二階全上

六拾仙

三階全上

四拾仙

四階全上

貳拾仙

但シ一ヶ月未満ノ日數ハ一ヶ月ト算ス

砂糖ハ一ヶ月壹袋ニ付

六仙

市ハ貨物ノ運搬ヲナス單ニ倉庫ヲ貸與スル迄トス

尙此他ニ望ガズンセねろー(Compagnie de Magasins Généraux)會社アリテせんふゑりつくす(St. Paul) 区るばんす(Rubens)おーすとらりや(Australia)及ヒわふりか(Africa)ナル倉庫ヲ有シ貨主ノ望ニ依リ 貨物保管ノ營業ヲナスモノアリ

貨物運搬等ニ關スル雜件

○解舟積移ノ事

若シ一船ノ吃水深クシテ船溜所ニ入りカタキ時解舟へ貨物ノ一部ヲ積ミ移スコトアリ此費用ハ總テ荷主又ハ運漕營業者ノ負擔トス

○船側及ヒ岸接繫船壁上ニ於ケル貨物運搬ノ事

帆船及ヒ汽船ノ貨物積卸ニ關スル費用ハ其荷役ノ時間及ヒ貨物ノ容積ニ依リ之ヲ定ムルモノナリ其取扱方ハ先以テ船ヨリ便宜ノケ所ニ陸揚シ置キ然ル後チ之ヲ分配スルヲ常トセリ 定期船ノ如キ貨物揚卸ニ迅速ナルモノハ隨テ其費用割合ニ廉價ナリ

○船舶ヨリ貨車へ積ミ込ミ及ヒ貨車ヨリ船舶へ積込ノ事

空貨車ハ通過税ヲ要セズシテ貨物積載ノタメ繋船壁ニ至リ船舶ヨリ直接ニ貨物ノ積卸ヲナスモノナリ又タ船舶へ貨物搭載ノタメ午前八時及ヒ午後二時ノ兩度前ニ繋船壁ニ至リ船舶ニ搭載スル貨車ハ四時間以上停車スルヲ許サス此以上ハ一車ニ付一時間貳拾五仙ノ罰金ヲ徴セラルモノトス

○通過貨物ノ假倉納ノ事

通過貨物ニシテ瀛車ニテ到着シタル時ハ一時貨車積ノ儘おんごるば！びゆぶりつくノ倉庫ニ入レ此處ニ於テ荷卸シノ場所ヲ指定シ税關ノ管理ニ附ス

或ル瀛船會社ノ如キハ此種ノ貨物ノタメ特別ノ場所ヲ有スルモノアリ

又タ税關ハ場合ニヨリテハ此種ノ貨物ト云ヘル一時岸接繋船壁上ニ陸揚ヲ許スヲアリ

○貨物引キ取り手續ノ事

船側又ハ岸接繋船壁ヨリ貨物ヲ引キ取り貨車又ハ倉庫へ積ミ入ル、手續左ノ如シ

貨物ヲ岸接繋船壁上若クハ上屋内ニ積ミ置キ斤量又ハ容積ノ検査ヲ受ケ而テ之ヲ貨車

又ハ荷車へ積ミ移シ倉入スルモノトス

場合ニヨリ舁舟ニ積ミ移シ貨物ヲ引キ取ルヲモナシトセズ

右等ノ手續ハ貨物引キ取り人ノ手ニ於テ人夫ヲ雇ヒ入レ其取扱ヲナスト云ヘル普通ハ引取受負人ヲシテ取扱ハシムルモノトス此取扱人ハなゝよん(Nations)ト稱スル組合ニシテ其組織左ノ如シ

○なーまよん組合及ヒ其組織ノ事

なーまよんト稱スル人夫組合ハ合名會社ニシテせよ^{なーまよん} (Chefs de nation) 即チふれみ
 去語ニテなちばせん (Natiebaten) ト稱スル定數ノ株主ヨリ組織スルモノナリ

此根源ハ非常ニ古キモノニシテ十六世紀以前ニ成立シアリタルモノナリ其證據ニハ一千六
 百年代ノ始メニ於テ此組合ニ關シ發布セラレタル法律ニハ其創立ノ古キ事ヲ記載シアリタ
 レバナリ現今ニ至ル迄其組合規則等ノ改良セラレタルモノ甚タ少ナク數百年ノ間依然舊態
 ヲ變セス唯單ニ現行ノ法律ト對立セシメンカタメニ僅少ノ修正ヲ施シタルノミトス
 安士府ニ於テハなーまよんノ數略五拾組アリテ一組ノ組員ハ貳拾名乃至參拾名ナリ其内ノ

主タル組ヲ擧クレハういーんがーる^{なち} (Wingardatie) 及ヒぬーる^{なち} (Noordatie) 之ナ
 リ此組ノ如キハ其組員五拾名乃至六拾名ヲ以テ組織ス昔時此等ノ組員孰モ皆自身ニ手ヲ下
 シ働キタルモ今日ハ一般ニ各組合ノ使役スル職工人夫ヲ指揮スルニ止マリ或ハ帳簿ヲ記載
 シ重量ヲ改メ或ハ貨物監督ヲナス位ニ止マル

此組合員トナラント欲スルモノハ死去又ハ退隱ノタメ不用トナリタル株ヲ買入ル、モノト
 ス然リト云ヘ凡通例ハ株主ヨリ其相續人へ繼續スルヲ以テ賣買ハ誠ニ希ナリ時ニ或ハ營業
 ノ都合上増資スルノ必要ヲ認ムル片ハ新株ヲ設ケ組合ノ利益ノタメ之ヲ他ニ賣却スルコト
 リ斯ノ如キ場合ニハ其株ノ價額不定ナリト云ヘ凡或モノハ貳萬法略我八千圓乃至貳萬五千
 法畧我壹萬圓ヲ值スルモ又タ或ルモノハ僅々數百法ノ價ニ過キザルモノアリ

此なーまよんニ二種類アリ一ツハ普通貨物ノ積卸、車輛ノ手押運搬等ヲ取扱ヒ一ツハ特種ノ

労働ニ従事スル者即チ木材ノ運搬穀物ノ調量石炭ノ積卸シ及ヒ調量其他袋入石炭等ヲ運搬スルヲ常トセリ後者ハ所謂労働者ノ一部ニ過スト云ヘル前者ハ其取扱高中々大ナルヲ以テ此種ノな―しよんノ内ニハ馬四拾頭荷車百輛被覆車六百輛ヲ有スルモアリ或ハ三拾六頭ノ馬八拾五輛ノ荷車五百輛ノ被覆車ヲ有スルモノアリ其他諸器具建造物等ヲ合スルキハな―しよん全部ノ財産ハ五拾萬法乃至壹百萬法ノ資本ヲ有スト云フヲ得ヘシ

組合長ヲゾーゑん(Doyen)又ハデーけん(Deken)ト稱シ副組合長ヲすゝゑん(Sou-Doyen)又ハおんでるでーけん(Under-Deken)ト稱シ各一人宛ヲ置キ組合員ノ互撰ノ上多數ノ投票ヲ得タル者之カ任ニ當ル而テ其任期ハ一ケ年トシ再選スル事ヲ得

組合長ハ組合ノ百般ヲ總理シ且ツ諸般ノ仕事ヲ分配シ組合會議ノ時ハ會長トナルナリ但シ名譽職ノ姿ニテ無報酬ナリ

組合副長ハ組合事務ノ一般會計取引所ノ出入商店ト直接ノ取引ヲナス

此他ニ株主中ヨリ五人ノ委員ヲ選舉シ日常ノ業務ヲ執リ毎月ノ收支決算ヲ監査ス但シ其任期ハ一ケ年トスト云ヘル再選ヲ妨ケス

或ルな―しよんニハ尙助役若干名ヲ置キ繫船壁ノ監督保稅庫内貨物運搬ノ監督其他馬匹買入及ヒ厩ニ關スルヲ等ヲ司ラシム

各組員ハ毎朝な―しよん會合所ニ赴キ仕事ノ分擔ヲ受ケ然ル後チ職工人夫ヲ率ヒ指定ノケ所ニ至リ執務ス但シ組合員ノ内仕事ノ分擔ニ預ラサルモノアルモ利益分配ヲ受ルモノトス又タ組合員ハ毎夕同會合所ニ歸リ其日ノ仕事ノ結末ヲナシ筆記シテ之ヲ報告ス

毎月末ニ於テ決算ヲナシ各組合員ヘ利益ノ分配ヲナシ残余アル時ハ之ヲ積立金トス
組合員ノ内病氣ノタメ仕事ヲナスコト能ハサルモノアル時ト云ヘル六ヶ月以内ハ此分配ニ預
ルコトヲ得此以後ハ自己ノ持株ヲ賣却セサルベカラズ

此種ノ組合ノ絶ヘズ繁榮ナルハ主トシテ其秩序ト規律ノ正シキコトニ基因スル次第ナリ
組合員ニシテ仕事上ニ於ケル怠慢過失、遲延退出、爭論、醉狂等ハ嚴重ニ處罰スルモノトス
若シタ刻ニ於テ組合長ノ許可ナクシテ會合所ヲ去リ又ハ組合長ニ抗論等スルモノアル時ハ
之ヲ五法ノ罰金ニ處ス

組合員ニシテ他ノ組合員ヲ裁判所ニ告訴シ拘引ノ處分ヲ受ケシムル時ハ其拘留中一日ニ付
貳百法ノ罰金ニ處ス又タ法廷ニ証人トシテ召喚ヲ成サシムルキモ亦貳百法ノ罰金ニ處ス其
他之レニ準ス

組合員ハ營業ノ秘密又ハ利益金ノ多少等ニ關シテハ嚴重ニ秘密ヲ守ルベキモノトス
諸證書規約書類ヲ他人ニ示ス事ヲ禁ス而テ之ヲ犯ス者ニハ相當ノ罰金ニ處ス

組合員ハ其取扱貨物ノ損害ニ付取扱上ノ責任ヲ有ス

貨物取扱ニ關スル費用ハ一定ノ率ニ依リ之ヲ定メラルモノトス而テ港内ニ於ケル諸般設備
ノ改良セラルルニ從ヒ漸次自然ニ此特許的組合ニ仕拂フ高價ナル諸經費ヲ省略スルコトヲ得
ヘキナリ

海運並ニ商業ニ關スル統計

○ 出入船舶ノ統計

安土府港船舶出入ノ統計ヲ見ルニ一千八百六拾三年以來入港船舶ノ噸數增加ハ著シキモノニシテ茲すこ一河通航權買入レノ時ヨリ噸ニ増加セルモノナリ又タ一千八百七拾年及一千八百七拾壹年ノ兩年ニ跨ル普佛戰爭ノ時期ニ於テハ益其増加ヲ見ルナリ

一千八百四拾年ヨリ一千八百六拾年ニ至ル貳拾年間ニ於テ入港船舶ノ噸數二倍ノ増加ヲ見タルモ僅ニ五拾萬噸ニ達スルニ過キザリシガ一千八百六拾七年ヨリ壹百萬噸以上トナリ夫ヨリ四ケ年ノ後チ即チ一千八百七拾壹年ニ於テハ壹百萬五拾萬噸トナリ又タ貳ケ年ヲ經テ一千八百七拾三年ニ至テハ貳百萬噸トナレリ而テ漸次増進シテ一千八百七拾六年ニ及テ貳百萬五拾萬噸一千八百八拾年ニハ參百萬噸一千八百九拾七年ニテハ六百參拾萬噸以上トナリスノ如クニシテ一千八百六拾年以後三拾七年目ニ於ケル一千八百九十七年ニハ拾貳倍乃至拾五倍スルニ至レリ港務局長ノ調製ニ係ル一千八百七拾年以來九十七年ニ至ル安土府港ヘ入港ノ船舶表ニ依ルキハ近時ニ至リ帆船減シテ汽船ノ増加頗ル大ナルヲ見ル一千八百七拾四年迄ノ入港數貳千艘以上ナリシ帆船モ貳拾三ケ年ノ後ナル一千八百九拾七年ニ於テハ僅ニ其四分ノ一以內即チ四百五拾九艘ニ過キサレナリ

之レニ反シ汽船ノ入港數ハ一千八百七拾年ニ於テハ僅ニ壹千七百四拾五艘ナリシモ一千八百九拾七年ニ於テハ和蘭陀國及ヒ白耳義國ノ兩國籍ノ汽船五百四拾七艘ヲ加ヘスシテ四千六百四拾七艘ノ大ニ至レリ

(因ニ記ス 初メテ安土府ヘ入港シタル汽船ハ安土府及ヒろどるだむ (Rotterdam) 間ヲ航

海シタルふりんす、グあん、おらん、ト (Prins Van Oranje) 號ニシテ即チ一千八百十七年ナリ
 而テ鐵製汽船ノ入港ハ一千八百三拾八年又々暗車形汽船ノ入港ハ一千八百四拾年ナ
 リ

此結果此期間ニ於ケル入港船舶ノ數ニ於テハ大ナル異動ナキモ其噸數ニ於テハ五倍ノ増加
 ヲ見ルニ至レリ即チ一千八百七拾年ニ於テ百三拾八萬六千八百八拾三白耳義噸ニシテ一艘
 平均三百三拾六噸ナリシガ一千八百九拾七年ニ於テハ六百三拾壹萬五千九百貳拾むあそむ
 噸トナリ一艘平均壹千百拾六噸ノ多キニ至レリ

帆船ニ於テモ亦汽船同様平均噸數ノ増加ヲ見ルニ至レリ
 斯ノ如キ航海業ノ變遷ハ實ニ著シキコトニシテ大洋航海ノ船舶寸法益増大スルノ傾向ナリ
 ト認メサルヲ得ス

故ニ安土府港ノ如キ開港場ニ於ケル新事業ヲ計畫スルニ當ツテハ此發達ニ從ヒ須ラク近時
 航海ノ進歩ニ伴フヘキ船舶ノ長幅吃水等ヲ考察スヘキハ最モ緊要欠クヘカラサルモノトス
 加之將來船舶ニ應用スヘキ諸種ノ改良ヲモ忘ルヘカラス

一千八百七拾年以後安土府港へ入港シタル船舶ノ艘數及ヒ其噸數ノ一覽表

年次	帆 船		汽 船		合 計		白耳義國、 蘭國船等
	船數 噸數 <small>(但シ白耳義噸)</small>	<small>壹艘平均噸數</small> 全上	船數 噸數 <small>(但シ白耳義噸)</small>	<small>壹艘平均噸數</small> 全上	船數 噸數 <small>(但シ白耳義噸)</small>	<small>壹艘平均噸數</small> 全上	

一、八九六	四七三	二八、九六九	四六三	五、〇〇八	五、七六八	七、七九	一、二四六	五、四八一	五、九五七	七、四八一	一、〇八七	五〇〇	一〇二、六三七
一、八九七	四五九	二〇、八五七	四六〇	五、一九四	六、一〇五	〇、六三三	一、一七五	五、六五三	六、三二五	九、九三〇	一、一六	五四七	一〇〇、七三〇

一千八百九拾七年中ニ安土府港へ入港シタル船舶區分表

噸		數		帆船數	汽船數	合計
五〇噸	未滿	一〇〇噸迄	一〇〇全	八四	—	八四
五一噸	以上	一〇〇噸迄	一五〇全	—	—	—
一〇一	全	一〇〇全	一一〇	—	六	一一六
一五一	全	二〇〇全	七二	—	一三	八五
二〇一	全	二五〇全	一八	—	八	二六
二五一	全	三〇〇全	一六	—	一八	三四
三〇一	全	三五〇全	二五	—	二一九	二四四
四〇一	全	五〇〇全	一五	—	三五八	三七三
五〇一	全	六〇〇全	一三	—	四六七	四八〇
六〇一	全	七〇〇全	六	—	三三七	三四三
七〇一	全	八〇〇全	六	—	四七六	四八二
八〇一	全	九〇〇全	八	—	五七一	五七九

論說及報告

二、六〇一	二、五〇一	二、四〇一	二、三〇一	二、二〇一	二、一〇一	二、〇〇一	一、九〇一	一、八〇一	一、七〇一	一、六〇一	一、五〇一	一、四〇一	一、三〇一	一、二〇一	一、一〇一	一、〇〇一	九〇一
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二、七〇〇	二、六〇〇	二、五〇〇	二、四〇〇	二、三〇〇	二、二〇〇	二、一〇〇	二、〇〇〇	一、九〇〇	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

二七	五九	三八	八一	〇六	一八	八六	〇九	二八	九九	八七	九五	九〇	九六	四五	九三	〇五	三八
二七	五九	四一	八一	一一二	一一九	九一	一一〇	一三二	一〇七	九五	九六	一一〇	二〇三	一五六	一〇〇	一一二	一四五
		三		六	一	五	一	四	八	八	一	〇	七	一	七	七	七

二、七〇一	二、八〇一	二、九〇一	三、〇〇一	三、一〇一	三、二〇一	三、三〇一	三、四〇一	三、五〇一	三、六〇一	三、七〇一	三、八〇一	三、九〇一	四、〇〇一	四、一〇一	四、二〇一	四、三〇一	四、四〇一
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二、八〇〇全	二、九〇〇全	三、〇〇〇全	三、一〇〇全	三、二〇〇全	三、三〇〇全	三、四〇〇全	三、五〇〇全	三、六〇〇全	三、七〇〇全	三、八〇〇全	三、九〇〇全	四、〇〇〇全	四、一〇〇全	四、二〇〇全	四、三〇〇全	四、四〇〇全	四、五〇〇全
二六	二八	二六	一九	二二	二二	二一	一八	二五	八	二二	一五	二〇	一九	一四	三	二	二
二六	二八	二六	一九	二二	二二	二一	一八	二五	八	二二	一五	二〇	一九	一四	三	二	二

合 計	四、五〇一 全	四、六〇〇 全			五
	四、六〇一 全	四、七〇〇 全			八
	四、七〇一 全	四、八〇〇 全			一
	四、八〇一 全	四、九〇〇 全			二
	五、〇〇一 全	五、一〇〇 全			二
	五、一〇一 全	五、二〇〇 全			一
	五、五〇一 全	五、六〇〇 全			一、一
	六、二〇一 全	六、三〇〇 全			一
	六、三〇一 全	六、四〇〇 全			一
	六、五〇一 全	六、六〇〇 全			二
	七、二〇一 全	七、三〇〇 全			五
	七、五〇一 全	七、六〇〇 全			一
七、六〇一 全	七、七〇〇 全			一	

○商業上ノ關係ノ事

左ニ示ス表ハ一千八百九拾七年ニ於ケル外國貿易ノ關係ヲ知ルニ足ルベシ

一千八百九十七年中安土府港へ入港シタル船舶國別表

國名	帆船		汽船		合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
獨乙	三	三三、〇九二	七四	一、二四五、七〇〇	八七	一、二八六、七九二
亞米利加	—	—	一八	三九、九三三	一八	三九、九三三
英吉利	二九四	一五、三二〇	二、五四五	三、二八八、五五五	二、八三九	三、四〇三、八八五
ゐるせんちん	—	—	—	—	—	—
澳太利	一	二、〇〇〇	二〇	三三、四〇一	二一	三三、四〇一
白耳義	—	—	三六六	四九六、〇三二	三六六	四九六、〇三二
支那	—	—	—	—	—	—
典抹那	—	—	—	—	—	—
西班牙	二五	五、〇九七	一六八	一五二、七〇〇	一九三	一五六、七八七
佛蘭西	—	—	—	—	—	—
佛蘭西	六	五六〇四	九九	八八、四七三	一〇五	九四、〇七七
希臘	—	—	—	—	—	—
和蘭	一〇	六、五五三	一五八	一七五、〇四六	一六八	一八一、五九九
伊太利	八	六、七三一	二二	二〇、〇〇〇	三〇	二六、七三三
日本	—	—	二五	九一、八八二	二五	九一、八八二
諾威	五六	二六、七二五	一六三	一三七、〇二五	二二一	一六三、七五〇

白耳義國安土府港

五百五十六

一千八百九拾七年中ニ安土府港へ入港シタル船舶發航國名表

發 航 地	帆 船		汽 船		合 計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
英吉利	二三	二九,〇二一	一、七四一	一五九,七四六	一,九六三	一,六八,八四七
黑海沿岸ノ露西亞	一	三三	三	一〇,四三	三	一〇,七四五
諾威	一九	六,六五三	九一	五三,〇六二	一一〇	五九,七一五
瑞典	三三	二,一〇〇	一八四	一三三,三〇七	二一六	一三三,四〇七
瑞典及ヒ英佛海峽	—	—	九	五,四七五	九	五,四七五
露西亞(ばるちつく海沿岸)	二	五,五九九	一七七	一六四,一八一	一八八	一六九,七〇〇
全上及典抹	—	—	三	二,九九七	三	二,九九七
獨乙(ばるちつく海沿岸)	一	一四〇	六六	四〇,八三九	六七	四〇,九九九
葡 萄 牙	—	—	一〇	四,七〇一	一〇	四,七〇一
露 西 亞	一四	八,一八一	二六	二九,四六六	四〇	三七,六六七
る ー 史 に や	—	—	二	四,一三〇	二	四,一三〇
瑞 典	一〇	三,三三四	一六一	一〇一,一四一	一七二	一〇四,五七四
瑞 典	四五九	二二〇,八五七	四,六四七	六,〇〇四,六九三	五,一〇六	六,二五,五〇

典株	三	三五七	一九	一五、四九	三	一六、〇〇六
わいるらんど	一	一三五	一	一、三七四	二	一、五〇九
獨乙(北海沿岸)	六	九、四九二	四六五	八〇八、七七八	四七一	八八、三三九
和蘭陀	一四	七〇二八	八八	九九、五三七	一〇二	一〇六、五八五
佛蘭西(かれー海峡)	二	二、八四三	一九	二四、五〇	二二	二七、三五二
全上(英國海峡)	—	—	二八	一九、八五九	二八	一九、八五九
全上(大西洋)	—	—	八二	四九、七〇五	八三	四九、七〇五
全上及ヒ英かれー海峡	—	—	一	七六七	一	七六七
西班牙(大西洋)	五	六二四	一九二	一八三、五七四	一九六	一八四、一九九
全上及ヒ佛蘭西(大西洋)	—	—	六	四、四二	六	四、四二
葡萄牙	一	六七	五七	三八、四七	五八	三八、五八
全上及ヒ西班牙(大西洋)	—	—	三三	二、八五六	三三	二、八五六
西班牙(地中海)	—	—	五五	六七、六七五	五五	六七、六七五
全上及ヒ大西洋沿岸西班牙	—	—	二	一、六六一	二	一、六六一
西班牙(地中海、大西洋)及ヒ葡萄牙	—	—	四	三、四〇九	四	三、四〇九
西班牙(地中海)及ヒ葡萄牙	—	—	二	八、四九六	二	八、四九六
西班牙(地中海)伊太利及ちゆにす	—	—	一	七二七	一	七二七
西班牙(地中海)及ヒあるせりや	—	—	二	二、〇〇〇	二	二、〇〇〇

論説及報告

佛蘭西(地中海沿岸)	三三	三二、三三、三五	三三	三三、三三、三五
全上葡萄牙佛蘭(英國海峽)	三三	二、七〇	三三	二、七〇
佛蘭西、西班牙、地中海、葡萄牙及ヒ英國海峽ニ於ケル佛蘭西	三三	一七、四七、四	三三	一七、四七、四
地中海ニ於ケル佛蘭西及ヒ西班牙	三三	三、五三三	三三	三、五三三
全上及ヒ伊太利	二二	一、八五九	二二	一、八五九
地中海沿岸ノ佛蘭西、西班牙及ヒ英國海峽ニ於ケル佛蘭西	二二	九、九四三	二二	九、九四三
地中海、大西洋及ヒ海峽ニ於ケル佛	五	四、〇六〇	五	四、〇六〇
地中海沿岸ノ佛、伊太利及西班牙	三	二、六四六	三	二、六四六
地中海沿岸ノ佛及ヒ伊太利	一九	一八、〇三二	一九	一八、〇三二
地中海沿岸ノ佛、西班牙及あるせりや	一	二、四〇〇	一	二、四〇〇
伊太利	四三	五三、〇八八	四三	五三、〇八八
伊太利及ヒ葡萄牙	一	一、二〇八	一	一、二〇八
伊太利、地中海ノ西班牙及ヒあるせりや	一	一、八八五	一	一、八八五
伊太利及ちゆにす	三	二、二八	三	二、二八
全上ちゆにす及ヒあるせりや	四	二、八六八	四	二、八六八
全上及ヒあるせりや	二二	一七、八五三	二二	一七、八五三
埃太利及伊太利	二六	一九、三七二	二六	一九、三七二
全上及ヒ地中海ニ於ケル西班牙	一	一、二六五	一	一、二六五

希臘	三	三六〇九七	三	三六〇九七
全上及ヒ伊太利	一	一、七七五	一	一、七七五
全上及ヒ土耳其(歐亞兩洲)	一	一、三三七	一	一、三三七
歐洲の土耳其	二五	三六、六九五	二五	三六、六九五
歐亞兩洲ノ土耳其	七	九四〇三	七	九、四〇三
全上及ヒばるがりや	一	二、〇〇一	一	二、〇〇一
歐洲土耳其ばるがりや及ヒるーまにや	一	七三	一	七三
黒海に於ける露西亞	一〇九	一九七、五三六	一〇九	一九七、五三六
全上及ヒ亞細亞土耳其	七	九、四八九	七	九、四八九
全上歐亞兩土耳其及ヒ希臘	四	五、〇三九	四	五、〇三九
露西亞歐洲土耳其及ヒるーまにや	一	一、三六四	一	一、三六四
露西亞及ヒ亞細亞土耳其	一	一、一三〇	一	一、一三〇
黒海沿岸ノ露西亞及ヒばるがりや	一	一、七五六	一	一、七五六
ばるがりや	二	一六、七九四	二	一六、七九四
全上及ヒ歐洲土耳其	四	六、七九九	四	六、七九九
るーまにや	一八三	三三〇、八六〇	一八三	三三〇、八六〇
るーまにや及ヒばるがりや	二	三、〇九九	二	三、〇九九
るーまにや及ヒ歐洲土耳其	一	一、〇三三	一	一、〇三三

論説及報告

る一丈にや及ヒ亞細亞土耳其	一	九九二	一	九九二
る一丈にや歐亞兩洲土耳其及ヒ埃及	一	一、六四五	一	一、六四五
亞細亞土耳其	三	三四、二七七	三	三四、二七七
歐亞土耳其又ヒ希臘	七	九、七三九	七	九、七三九
亞細亞土耳其希臘及ヒ伊太利	一	一、五三六	一	一、五三六
歐亞土耳其埃及及ヒ希臘	一	一、三二九	一	一、三二九
歐亞土耳其及ヒ埃及	二	二、四〇〇	二	二、四〇〇
亞細亞土耳其及ヒあるせりや	一	一、六八一	一	一、六八一
埃及	三	四、三五三	三	四、三五三
埃及、地中海沿岸ノ佛及ヒ西班牙	一	六五七	一	六五七
ちゆにす	二	二、〇九六	二	二、〇九六
あるせりや	二	一三、四八五	二	一三、四八五
全上及ヒ希臘	一	一、四六五	一	一、四六五
全上及ヒ地中海ニ於ケル西班牙	六	七、六八〇	六	七、六八〇
全上、全上及大西洋沿岸西班牙	二	三、四八〇	二	三、四八〇
あるせりや及ヒ大西洋地中海ノ西班牙	一	六三〇	一	六三〇
もろこ及ヒ葡萄牙	二	二、〇一八	二	二、〇一八
せねがむびや	四	四、三三三	四	四、三三三

こんごう	二	三、三五二	三	三、六八一	三	三、六八一
印度	二	一、八五三	三	七、七三三	四	九、五八五
支那	一	一、八五三	三	五、一八九	二	五、一八九
支那日本及ヒ印度	六	二、一九九	六	二、一九九	六	二、一九九
支那及ヒ日本	二	五、一八九	二	五、一八九	二	五、一八九
交趾支那	一	一、八五三	三	七、七三三	四	九、五八五
暹羅	一	一、八五三	三	二、三四三	一	二、三四三
日本	一	三、八〇六	一	三、八〇六	一	三、八〇六
加奈陀	二	八七五	二	二、九九五	三	三、八〇六
大西洋沿岸ノ北米合衆國	七	六、五〇三	二五	六、二、七九九	二七	六、二、七九九
めきしこ灣ニ於ケル全上	三三	二、二五七	三八	七、七、四九九	五〇	八、九、六〇六
めきしこ	六	一、九八三	一	一、九八三	六	一、九八三
全上及ヒめきしこ灣ニ於ケル北米	一	一、五三六	二	二〇、九四二	二	二〇、九四二
にがらぐわ	一	一、五三六	一	一、五三六	一	一、五三六
ぶらじる	九	一、八六〇	三六	七、二、七三七	四七	七、四、五九七
全上、うるぐゑ及ヒゆるせんちん	四	一、二、三四〇	四	一、二、三四〇	四	一、二、三四〇
うるぐゑ及ヒあるせんちん共和國	四	一、二、三四〇	四	一、二、三四〇	四	一、二、三四〇
あるせんちん共和國	二〇	一、五、三〇五	六	一、六、三九二	九	一、七、六九七

論説及報告

白耳義國安土府港

五百六十二

一千八百九拾七年中ニ安土府港ヨリ各地ヘ向ケ出港シタル船舶ノ著港國名表

到 達 地

船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
貨物搭載船舶		ばらすと搭載船舶		合 計	

智利	一七	三三、六九三	一	二、三三八	一八	二五、八三二
秘露	三三	一九、三三八	—	—	三三	一九、三三八
大平洋沿岸北米合衆國	一〇	一九、六八六	五	二、一八六	一五	三、一七二
はいち	五	二、一七四	—	—	五	二、一七四
じやまいか	一	二七四	—	—	一	二七四
じやば	一	一、四一八	—	—	一	一、四一八
濠太利亞	二六	二二、三六二	三八	二五、三九五	五四	一四七、六五七
もるく島	二	九八三	—	—	二	九八三
ゑすこー河上流地方	二二	五、六五五	三三	一三、〇五一	五四	一八、六七六
さゆば	—	—	五	九、九六五	五	九、九六五
うるぐゑ	二六	五、五二二	—	—	二六	五、五二二
避難船	—	—	一	八八三	一	八八三
合 計	四五九	二二〇、八五七	四、六四七	六、〇〇四、六三三	五、一〇六	六、二五、五九〇

英吉利	一、八六〇	一、一四五、八五六	八三	一、四七三、三三	二、六九	二、五三、〇六八
露西亞	—	—	—	一、三〇〇	—	一、三〇〇
諾威	七六	四〇、二七四	三七	二一、七〇	一三	六、九七六
瑞典	一三三	七八、五九九	一七	三三、四〇	一五	一〇〇、九三
ばるちつく海沿岸ノ露西亞	一三五	一四、四七九	一〇	七、八六九	一四五	二三、四八
全上ノ獨乙	一四	七三、五四八	—	三三	二五	七、六八一
典抹	六二	三三、一六五	—	—	六	三三、一六五
全上及ばるちつく海ノ露西亞	二	一、七〇四	—	—	二	一、七〇四
北海沿岸ノ獨乙	二五五	四〇八、四二四	二二	一七、九七七	二六七	四六、三四一
和蘭陀	一七	三三、八三七	八	六、二四九	二五	四〇、〇八六
佛蘭西(ばーどかれ)	六	一三、七〇五	五	五、八三	一一	一九、五三八
全上及ヒ大西洋沿岸ノ佛	一	七六四	—	—	一	七六四
英國海峡沿ヒノ佛蘭西	三三	七、九六五	三	三、五七七	二五	一一、四六
全上及ヒ葡萄牙	一三	六、八八一	—	—	一三	六、八八一
全上及ヒ地中海沿ヒノ佛及ヒ西班牙	三	二四、八二〇	—	—	三	二四、八二〇
全上及ヒ地中海沿岸ノ佛及ヒ西班牙	一	七七一	—	—	一	七七一
英國海峡及ヒ大西洋沿ヒノ佛蘭	一	七六七	—	—	一	七六七
大西洋沿岸ノ佛蘭西	一一二	七、〇九六	四	二、七三三	一一	七、〇九六

全ぶ及ヒ大西洋沿ヒノ西班牙	四	三、四一〇			四	三、四一〇
葡萄牙	四一	二〇、八二八			四二	二〇、八二八
全上及ヒ地中海沿ヒノ西班牙	二四	三三、九八三			二四	三三、九八三
全上全上及全上ノ佛蘭西	三三	一〇、〇三七			三三	一〇、〇三七
大西洋沿岸ノ西班牙	六七	五七、九七一	三〇	三六、六〇三	九七	九六、五七三
大西洋及ヒ地中海沿岸ノ西班牙	六	四、八九八			六	四、八九八
大西洋沿岸ノ西班牙及ヒ葡萄牙	二	一、二二六			二	一、二二六
地中海沿岸ノ西班牙	一	五五三			一	五五三
全上及ヒ伊太利	七	一〇、七三三			七	一〇、七三三
地中海沿ヒノ佛蘭西	一	二二五			一	二二五
伊太利	一八	二七、六四一			一八	二七、六四一
全上及ヒ地中海沿ヒノ佛蘭	二六	二四、七九三			二六	二四、七九三
全上及ヒちゆにす	三	一、九七七			三	一、九七七
全上及ヒ埃太利	一〇	一六、四二〇			一〇	一六、四二〇
黒海沿ヒだにゆーぶ河沿ヒノるばん港	二元	四九、六七五	三	五、五八四	三三	五五、二五九
希臘	一	五八七			一	五八七
全上及ヒ歐洲土耳其	一	一、八二〇			一	一、八二〇
全上全上及ヒばるがりや及ヒるーまにや	一五	一八、二二三			一五	一八、二二三

希臘、歐洲土耳其及ヒる一々にや	七	九、〇七〇			七	九、〇七〇
全上全上全上及ヒ露西亞	二	二、七六一			二	二、七六一
希臘歐洲土耳其ばるがりや及ヒ露西亞	七	八、二九二			七	八、二九二
希臘歐洲土耳其及ヒ露西亞	三	四、一二二			三	四、一二二
希臘及ヒる一々にや	一	一、三四九			一	一、三四九
希臘及歐亞兩洲土耳其	三	四、四九五			三	四、四九五
全上全上ばるがりや及ヒ露西亞	四	五、五〇九			四	五、五〇九
希臘、亞細亞土耳其及ヒばるがりや	二	二、七六一			二	二、七六一
歐洲土耳其	三	三、八一〇			三	三、八一〇
全上及ヒる一々にや	一	一、三五〇			一	一、三五〇
歐亞兩洲土耳其及ヒ露西亞	七	九、四八二			七	九、四八二
歐洲土耳其及ヒ露西亞	六	八、二六七			六	八、二六七
亞細亞土耳其	一	一、二八一			一	一、二八一
全上及ヒ露西亞	四	六、五六三			四	六、五六三
黑海沿岸ノ露西亞	一七	二七、二六六	一四	三三、四六六	三一	五〇、七三三
ばるがりや	一	一、三四			一	一、三四
全上及ヒ黑海ニ於ケル露西亞	一	一、五二四			一	一、五二四
る一々にや	三	三、六二〇			三	三、六二〇

論說及報告

埃及	一七	二七、四〇〇	一七	二七、四〇〇
全上及黑海ニ於ケル露西亞	四	六、三三四	四	六、三三四
埃及及歐亞土耳其及ヒ露西亞	一〇	一三、二八〇	一〇	一三、二八〇
埃及及歐洲土耳其及ヒ露西亞	二	二、六四〇	二	二、六四〇
埃及及ヒ亞細亞土耳其	一三	一七、六六八	一三	一七、六六八
埃及及ヒ歐洲兩洲土耳其	八	一〇、三三九	八	一〇、三三九
埃及及ヒしりあ	一	一、四九九	一	一、四九九
埃及及歐亞土耳其及ヒる一々にや	二	二、二二七	二	二、二二七
全上ばるがりや及ヒ露西亞	一	一、八九三	一	一、八九三
埃及及ヒ歐洲土耳其	八	一一、四三三	八	一一、四三三
埃及及ヒる一々にや	一	一、〇三三	一	一、〇三三
全上及ヒ露西亞	二	二、二〇五	二	二、二〇五
ちゆにす	二	二、八〇六	二	二、八〇六
全上希臘・歐亞土耳其	五	七、六二六	五	七、六二六
全上、全上、全上及ヒ露西亞	七	九、〇三三	七	九、〇三三
ちゆにす、希臘、亞細亞土耳其及ヒ埃及	二	二、七七五	二	二、七七五
ちゆにす及歐亞土耳其	一	一、四〇五	一	一、四〇五
ちゆにす、あるぜり及ヒ地中海沿岸ノ西班牙	二	一、三七四	二	一、三七四

あるせり及ヒちゆにす	六	四、三八三					六	四、三八三
全上、全上及ヒ伊太利	一	七四四					一	七四四
あるせり、ちゆにす、歐亞兩洲土耳其及ヒ露西亞	一	一、二三三					一	一、二三三
あるせり、希臘、歐亞土耳其及ヒ露西亞	三	四、一〇一					三	四、一〇一
じぶらるた及ヒもろこ	一五	二、二四九					一五	二、二四九
かなり島	一	一〇一					一	一〇一
もろこ	一	二九六					一	二九六
もろこ及ヒ西方亞非利加	二二	二、八八一					二二	二、八八一
こんごう及ヒ西方亞非利加	二五	五、〇〇三					二五	五、〇〇三
けいぶ地方	三二	六、〇二三					三二	六、〇二三
東方亞非利加海岸	五	八、〇七一					五	八、〇七一
印度	四九	一、七、三三四					四九	一、七、三三四
全上及ヒ交趾支那	四	八、八三五					四	八、八三五
印度支那及ヒ日本	三	二、七三二					三	二、七三二
印度及ヒ日本	一五	五、六八三					一五	五、六八三
支那	五五	一、七、三三二					五五	一、七、三三二
あむる河地方	五	一、四、三六〇					五	一、四、三六〇
日本	五	八、三八八					五	八、三八八

論説及報告

加奈陀	二五	六五、七五	一	四六四	二六	六六、九九
大西洋沿岸北米合衆國	一六二	五四、八八四	三七	七九、三四五	一九九	六四、三九
めさしこ灣沿岸合衆國	一一	二二、三三	三	三、四八六	一四	二四、八一八
めさしこ	一	一、二四三			一	一、二四三
全上及ヒ同灣沿岸合衆國	三	二五、七四〇			三	二五、七四〇
こすたりか	一	一、三六六			一	一、三六六
ぶらじる	六六	一一、一五三			六六	一一、一五三
ぶらじる、うるぐふ、あるせんちん共和國	一〇	三三、三五五			一〇	三三、三五五
うるぐふ及ヒあるせんちん共和國	八六	一八三、〇九五	二	六、〇六四	八六	一八三、〇九五
あるせんちん共和國	二	一、二〇九			四	七、二七三
智利	七	七、〇九七			七	七、〇九七
智利秘露及ヒ中央亞米利加	六〇	三二七、〇七七			六〇	三二七、〇七七
大平洋沿岸ぐあてまら	一	三八八			一	三八八
かりふおるにや灣めさしこ	三	四、八一五			三	四、八一五
大平洋沿岸北米合衆國	一七	三三、九九六			一七	三三、九九六
はいち、及ヒめさしこ	八	一六、五四〇			八	一六、五四〇
はいち、さうば及めさしこ	一	一、五二三			一	一、五二三
きうば、ぼるそりり及ヒめさしこ、灣沿岸ノ合衆國	七	三三、四八七			七	三三、四八七

ばるどりか及ヒきうば	10	二、六八	—	—	10	二、六八
西印度	二五	二五、七六二	—	—	二五	二五、七六二
濠太利亞	二六	10七、三五	—	—	二六	10七、三五
ゑすこ河上流地方	三	三九	三	二、七四	一六	三、〇九三
合 計	四、〇四三	四、五八四	一、〇三三	一、五九六、六三三	五、〇七五	六、一五五、〇九七

定期航海線ニ關スル事

ゑすこー河沿岸々接繋船壁ニ横附スルコトハ定期航海船ノ特權ナリトス又タ吃水或ハ積荷ノ性質ニヨリ横附スヘキ理由アル船舶ニハ特ニ之ヲ許スコトアリ

河岸繋船壁ニ繋溜シ得ヘキ場所ナキ時ハ或ル定期航海船ニ限リ船溜所沿岸ノ繋船壁中一定ノヶ所ニ繋溜スルコトアリ然レモ一千九百一年ニ於テ竣工スヘキ長貳千米突ノ沿岸々接繋船壁落成ノ上ハ斯ノ如キコトハナカルヘシ

定期航海汽船會社々名等ハ左ノ如シ

- ゑすこー河沿岸繋船壁ニ繋溜スルモノ
 - 一 Great Eastern Railway Company. Harwich.
 - 二 Wilson and Co. Hull.
 - 三 Bailey & Leatham. Hull.
 - 四 Tyne Steam Ship Company. Newcastle-on-Tyne.

- 五 Cork Steam Ship Company. Manchester
- 六 Great Central Railway. Grimsby.
- 七 Goole Steam Ship Company. Goole.
- 八 Lignes sur Londres.
- 九 General Steam Ship Company. London.
- 十 George Gibsen & Co. Leith.
- 十一 Cork Steam Ship Company. Liverpool, Greenock & Glasgow.
- 十二 Peninsular and Oriental Steam Ship Company.
- 十三 Union Steam Ship Company.
- 十四 Compagnie maritime belge du Congo.
- 十五 Royal Mail Steam Packet Co. Brazil, Uruguay & Argentine Republic.
- 十六 Norddeutscher Lloyd. China.
- 十七 Norddeutscher Lloyd. Australia.
- 十八 Norddeutscher Lloyd. Brazil, Uruguay & Argentine Republic.
- 十九 Deutsche Dampfschiffahrts Gesellschaft. Kosmos, Chili & Perou.
- 二十 Hamburg Pacific Dampfschiffs Linie. Chili & Perou.
- 二十一 Telegraf. Rotterdam.
- 二十二 Hansa St.-Lawrence Line. Quebec & Montreal (國旗) Boston & Halifax. (國旗)

- 一一三 Hansa Linie de Bremen, Kurrachee & Bombay.
- 一一四 Deutsch Australische Dampfschiffs Gesellschaft. Australia.
- 一一五 Rickmers Line. India, China & Japan.
- 一一六 日本郵船株式會社
- 一一七 Puritan Line. Boston & Baltimore.
- 一一八 Hansa Linie de Bremen. Madras & Calcutta
- 一一九 Lamport & Holt Line. Brazil, Uruguay & Argentine Republic.
- 一二〇 Red Star Line. New-York.
- 一二一 Red Star Line. Philadelphia.
- 一二二 Phaenix Line. New York.
- 船溜所内ニ繋留スルモノ
- 一二三 Foonyade Actie Bolag Gotha. Gothenbourg
- 一二四 Bristol Steam Navigation Company. Plymouth & Bristol.
- 一二五 Palgrave Murphy Company. Dublin & Belfast.
- 一二六 Ostlandsche Lloyd. Christiana.
- 一二七 Kirsten Linie. Hambourg.
- 一二八 H. J. Perlbach & Co. Hambourg.
- 一二九 Det Forenade Dampskib Selskap, Christian Grubel & J.G.Reinold. Baltic.

- 四〇 Dampschiffahrts Gesellschaft Neptuni. Portugal.
- 四一 Ligne sur Bristol & Gloucester.
- 四二 Ad. Deppe. Bordeaux.
- 四三 Société Théis. Spain. (Atlantic)
- 四四 Ligne sur la Mer Noire.
- 四五 Société Théis. Spain (Mediterranean)
- 四六 L. Westcotts & C^o. Mer Noire
- 四七 Société navale de l'ouest. Havre.
- 四八 Det Forenade Dampskib Selskap. Mer Noire.
- 四九 Hansa Linie. Uruguay & Plata.
- 五〇 Deutsche Levant Linie. Levant.
- 五一 Stockholm Augfartygs Rederei Blagot. Finska Augfartygs Aktie Bol. Suede et Finlande.
- 五二 River Plate Line. La Plata.
- 五三 Messageries Maritimes de France. Marseille.
- 五四 Johnson Line. Danube.
- 五五 Société John Cockerill. Spain.
- 五六 Société John Cockerill. Méditerranean.
- 五七 Knott's Prince Line. Egypt, East India, La Plata.

○安土府港ニ於ケル白耳義國ノ船舶

一千八百九拾七年十二月三十一日ニ於テ安土府港ハ白耳義國々旗ノ下ニ五拾參艘ヲ有シ内
壹艘ハ帆船ナリ而テ其總噸數ハ八萬四千三百八噸ナリ(むあそむ噸)

○安土府港内停車場ニ於テ出入ノ貨物噸數統計

北方ニ於ケル臨海工事ノ設備ハ白耳義國官設鐵道并ニぐらん、さんどらる、べると (Grand-Centra-Beige) 鐵道ニ連絡ス現今ハ此ぐらん、さんどらる、べるとニ於ケル鐵道モ政府ノ管理ニ屬ス

船溜所沿岸溜船壁ニ於ケル鐵道ノ經營ハがーる、れにい、だんぐゑるす、ば、さん (Gares reunies d'An-vers-Bassin) ナル通稱ヲ有スル獨力ノ停車場ニ於テ之ヲ司ルナリ

左ニ一千八百七拾年以來汽車ニ依ル出入貨物ノ噸數ヲ掲ク

安土府船溜所ニ連絡スル停車場ニ於ケル出入貨物噸數及ヒ車輛數

年次	出入貨物噸數		貨物搭載車輛數	
	出	入	出	入
一八七〇	六二六、四七〇	三五一、六〇四	一一〇、三三二	一四六、〇三三
一八七五	九〇二、一九二	七四六、六五六	二三四、〇六一	二二二、七三〇
一八八〇	一、三八、二六二	一、〇八〇、九三六	三〇三、五五四	三〇三、七三〇
一八八五	一、三〇四、七四四	一、三三三、五六六	四〇九、八八五	四〇七、九五七
一八九〇	一、五七、四五五	一、五七八、一五六	四九八、五八六	四九八、二五九
合計	九六八、〇七四	二、六六八、二九〇	一、〇一八、二九〇	一、〇一八、二九〇

白耳義國安土府港

五百七十四

わんぐゑるす、しうご (Gares d'Anvers-Sud) ナル停車場ニ於ケル出入貨物噸數及ヒ車輛數

年次	出入貨物噸數			貨物搭載車輛數		
	出 貨	入 貨	合 計	出 車	入 車	合 計
一八九〇	三三三、九三三	六六、三五五	九四〇、二六	二二〇、五三三	一九八、六六九	二四〇、三八二
一八九一	三三三、〇八〇	六四三、三三三	九六五、三九二	二一五、九七七	二一五、五四四	三三二、四七二
一八九二	三〇八、八八一	六六、三三四	九七、三三五	二四、三五五	一一四、五五八	二二八、九一三
一八九三	三三八、五七二	八八、六四四	一、二五七、一八六	一一三、六五六	一一三、六六八	二六五、三三四
一八九四	—	—	一、三三八、三五六	一四三、二一六	一四三、三三二	二九〇、三四七
一八九五	三九九、二二七	九七、九四七	一、三三七、〇六四	一四三、七三六	一四六、二八三	二九二、〇〇九
一八九六	四五六、二六九	一、〇〇、一四九	一、四六六、三八	一五四、〇六六	一五四、二〇六	三〇八、二七二
一八九七	五四〇、四二二	一、三三、三四	一、六五三、七三五	一六二、七九九	一六二、五五八	三三五、三四七

白耳義國中央鐵道ト稱スルぐらんばんとらるゑるじ (Chemin de fer Grand Central Belge) ナル鐵道ノ速達即チ急行便并ニ通常ノ貨物便ニ依ル貨物ノ統計ハ左ノ如シ

出入貨物噸數表

年次	出貨噸數	入貨噸數	合計噸數
一八七五	三二〇、三八九	二六一、〇七七	五七一、四六六
一八八〇	三二一、九四六	三九七、三四五	七〇九、二九一
一八八五	二七七、九七七	四〇八、六五八	六八六、六三五
一八九〇	三三五、三二九	四四五、六九五	七八一、〇二四
一八九五	二九九、八一六	五五五、七二三	八五五、五三九
一八九六	—	—	九〇九、五四一

一千八百九拾七年以後ニ於テハぐらん、さんどらる、べる、ヒナル鐵道ハ政府ノ有トナル
 此表中一千八百七拾五年及ヒ一千八百八拾年ノ數量ハぶち、グいてすト稱スル貨物列車ニ
 依ル處ノ數量ヲモ含有ス

今此表ニ依ル時ハわん、ぐゑる、す、ば、さんヲ連絡スル鐵道運搬ハ漸次増加シ現今ニ於テハ一千
 八百七拾年ニ於ケル噸數ノ四倍ニシテ即チ一千八百七拾年ヨリ一千八百九拾五年ニ至ルニ
 拾五ケ年間ニ四倍シタルヲ見ル而テ此増加ハ安土府港其モノ、増進ト相伴フモノナリ

○内國航海之事

安土府港ハ大洋航海船舶ノ外ゑす、こ、河及ヒ其支流、其他カむ、び、ん (Camphine) 等ノ運河ヨリ

來ル船舶ノ出入モ亦尠カラス
 左記ノ表ハ一千八百七拾年以後ニ於テ安土府港ノ繫船壁及ヒ船溜所ニ入船シタル船舶ノ數
 及ヒ其噸數ヲ示スモノナリ

一千八百七拾年以來安土府へ入港シタル内國航船舶比較表

年次	船數	噸數	平均噸數
一八七〇	二四、九二〇	一、〇三〇、七八五	四一
一八七五	三一、三八九	一、四五一、四九〇	四八
一八八〇	三四、七五一	一、六八八、二八八	四八
一八八五	二八、七一一	二、三三六、三七六	八一
一八九〇	二七、六五五	二、七七四、五八六	一〇〇
一八九五	二八、四七二	三、五三六、五二八	一二四
一八九六	三一、三三九	四、一〇二、六五四	一三二
一八九七	三一、三四〇	四、二四一、三四六	一三五

此表中ノ壹噸ハ壹千基ニシテ噸數ハ船舶滿載ノ時ニ於ケル貨物ノ最多量ヲ示ス
 平均搭載貨物ノ噸數ハ入港ノ時ハ總噸數ノ八分ノ七出港ノ時ハ五分ノ四ニ當ル

一千八百九拾七年中ニ於テ安土府へ入港ノ内航船舶表(壹千基ヲ以テ壹噸トス)

發航地	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
内國	一、九三三	三、一六五	七、九四三	三、四五一	三七二	四、三五四	二、八四七	三七四	〇、〇〇〇	二、〇〇〇	四、六二九	三、一六五
全上汽、曳	三、二九九	八、六三三	一、六四三	〇、〇三三	五、五四九	九、六二二	三、三三三	二、九一七	四、二〇九	四、六二九	三、二九九	八、六三三
佛蘭西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全上汽、曳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
獨乙	三、三三〇	—	六〇二	〇、五九〇	二、二九	六、六八	—	—	—	—	—	—
全上汽、曳	八	九三五	五	五三三	二、二四七	—	—	—	—	—	—	—
和蘭	三、四七三	二、七六	二、八二四	一、七九	四、六七	二、二八	—	—	—	—	—	—
全上汽、曳	一、七	五、六九	一、五八五	五、四八九	三、九八五	—	—	—	—	—	—	—
合計	五、二七九	一、〇八六	九、三九二	三、四九三	五、七三三	七、六六六	六、〇〇二	九、六六五	七、〇〇一	一、〇四二	四、〇四三	四、一、三四

此表中(汽曳)ヲ附スルモノハ汽船又ハ曳船ニヨルモノヲ示ス
 一千八百九拾七年中六千六百四拾艘此噸數七拾八萬八千貳百五拾五噸ハ二個ノ水門ヲ經
 過シテ船溜所ニ入りかむびんノ運河ヘ向ケ出テタルモノト知ルヘシ

一千八百九拾七年中ニ於テ安土府ヨリ出港ノ内航船舶表(壹千基ヲ以テ壹噸トス)

論説及報告

五百七十七

到達地	船數		噸數		船數		噸數		船數		噸數		船數		噸數	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
内國	三、二六三	六〇、六四七	七、三三三	九、〇五七	六、三九六	四九、〇五四	八、八八九	八三三	八、九五六	二、六五七	三三	八二、三三〇	三、七八一	七六七	九、九五五	
全上(汽曳)	三、二四五	四二、〇五三	一、五四八	五八、九三三	二、九三三	六九、三三三	三、三三三	二二	九六	三六、六〇〇	八四	一九、〇〇四	六、九九二	二七六	一、二四	
佛蘭西					一	六										
全上(汽曳)	一五	四、三〇八			二、五九	七五、〇六七										
獨乙	二四	三、二二七			八九	二一、五九五										
全上(汽曳)	二七〇	二五、三八	二九五	四三	一、〇五九	六六四、二一九	二四七、六六六	二四	六、六四五				一、六七二	九七、二〇〇		
和蘭陀	二六六	二五、七五	一、三四三	三〇、七六	六四五	五九、三九七	三	二七六	六五	五、九〇二			二、三三三	一一、五〇七		
全上(汽曳)	三九九	二〇、六六六	三〇三	六五、〇八九	五八一	二七、二四	九三、五四六	一八	四、六二八				一、三〇九	三〇三、一四三		
合計	五、四九五	九二、二〇七	七、三三三	四八、五七二	二〇、三三三	二二、八五七	〇〇七	四七三	〇九六	二、六八七	二〇	二、五五三	一〇、三四五	一、七九九		

此表中(汽、曳)ヲ附シタルモノハ前表ト同様汽船又ハ曳船ニ依ルモノヲ示ス
 一千八百九拾七年中四千三百三拾三艘此噸數五拾萬八千七拾三噸ハ二個ノ水門ヲ經過シテ
 出デタルモノナリ但シカむびん運河ヨリ來リ安土府ノ上下流ハ赴キタルモノナリ
 安土府港へ出入スル船舶ハ其發航地ニヨリ區分ス
 安土府港ト和蘭陀及ヒ獨乙ノ間ニハ定期内航船アリ

らいん河ヲ通行スル船舶ニハ帆船アリ解舟アリ又タ此種ノ航行ニ適應セル特種ノ汽船アリ而テ此等ノ船舶ハ長サ百貳拾米突ニシテ吃水ハ貳米突百みりヲ超ヘサルモノトス又タ普通ハ一週ノ定期ナリ

らいん河沿岸ノ寄港地中主タルモノハ左ノ如シ

ゑめりつち(Emmerich)うらせる(Wesel)るるる(Ruhrort)せゆせるるる(Disselford)ころーぢ
 ぬ(Cologne)こぶらじぬす(Coblence)せらやんす(Mayence)うせるむす(Worms)せんはら(Manhe-
 三)等之レナリ

あむすてるだむ(Amsterdam)及ヒろつどるだむ(Rotterdam)ハ一週間ニ少クモ一回ノ出船アリ殊ニろつどるだむハ一週ニ五回ノ定期汽船便アリ又タほあるでゆく(Bois-le-Duc)ハ五日目毎ニ出船アリ

あんだるすトたみーす(Lanise)間及ヒはむ(Hanne)トぶらせるす(Bruxelles)間ニハ毎日定期汽船便アリ

びよるてん(Beurten)ト稱スル帆船ハ少クモ一週ニ二回安土府ヨリ下流をいる(Doel)りろ(Jillo)かるー(Calloo)みつてるぼるぐ(Middelbourg)間ヲ往復シ上流をいるぐ(Burgh)へるらへつぬ(Cruy-beke)すていんぬるぶ(Sceurdorp)るるるぬぬ(Rupelmonde)はるねむ(Bornhem)びぬあるす(Puers)らんあまんぬ(Saint-Amand)はるするーぬ(Baestrode)てるるぬぬ(Ternonde)せーるぬがん(Zele et Gand)及ヒるつけぶらるつどるぶうむ(Eyckevliet et Boom)間ヲモ往復ス又タまりーぬす(Malines)るぶあん(Louvain)ういれぶらるつく(Willebroeck)せらせるす(Bruxelles)せむ(Hanne)らけれん(Lokeren)せ

るぐ、おすてんか (Bruges et Ostende) ろろすよ (Alost) のーん (Ninove) れすーん (Lissines) 及ヒちゆ
るんは (Turnhout) ト安土府トノ間ニハ毎週一回ノ往復アリ

北方へ航行スル船舶ハ參百噸以下ニシテ其吃水ハ壹米突八百ミリトス。まやーるろわ (Charle-
s) 運河ノ船舶ハ其噸數八拾噸内外ニシテ吃水ハ前同様壹米突八百ミリ迄トス。尙此外建築材
料運搬ノタメ安土府附近ヲ航スル貳拾噸乃至六拾噸ノ小船舶モ尠ナカラス。又タ砂若クハば
らすと運搬用ノ五噸乃至拾五噸ノ小舟モ夥多アリ

○移住民ノ事

安土府港ヨリ移住民ヲ初メテ輸出シタルハ一千八百四拾三年三月十六日ニシテ之レ即チ移
民輸送ノ始マリナリ。其後同港ヨリ移住民ヲ輸送シタルト甚タ多カリキ之レ地勢上獨乙瑞西等
ヨリ出ルノ順路ナリシ故ナリ。然ルニ今日ニアツテハりばぶーる、はむばるぐ、ぶれめん、はーふ
る等ヨリ出ル者多數トナレリ。又タ伊太利ノ移住民ハ世のあ若クハまゐるせーゆヨリ乗船スル
ヲ常トセリ之レ其一原因ト云フヘシ

一時盛ナリシ移民ノ數ヲ減シ漸次衰退ヲ來セシ所以ハ其當時安土府ニ於ケル設備不完全ナ
リシガタメ獨乙及ヒ瑞西地方ヨリ出ル移住民ハ外國移民乗船地へ行クガタメ單ニ安土府ヲ
經過シタルニ過ギズ然レモ爾來汽車賃ノ割引定期出港ノ汽船ノ増加、船賃ノ低廉其他種々ノ
設備ヲナシ之カ恢復ヲ謀リタル結果一旦他港ニ占領セラレタル優勢ヲ挽回スルニ至レリ。故
ニ今日ニ於テハ安土府港へ移民乗船ニ夥多ノ便益ヲ與へ爲メニ外國港ト充分競争スルヲ得
ルニ至レリ

今左ニ一千八百九拾年ヨリ一千八百九拾七年ニ至ル間ニ於テ安土府港ヨリ出發シタル移住
民ノ數ト其目的地及ヒ歸港民ノ數ヲ示シタル表ヲ掲ントス

一千八百九拾年ヨリ一千八百九拾七年ニ至ル間ニ安土府港ヨリ出發若シクハ歸港シタル移民數

到達地	年次							
	一八〇年	一八一年	一八二年	一八三年	一八四年	一八五年	一八六年	一八七年
紐育	二七、五〇九	三六、一〇八	三〇、九八一	二三、五〇九	八、八三三	二、六〇二	三、四六八	一〇、五五
費府	四、八四二	七、一五三	二〇、八三八	八、二〇八	三、二九	五、〇〇八	八、三七九	二、九一七
ぶらじる(りおでせねろ)	二、二六六	三、六四	三七八	二五四	一四四	三〇一	四七四	四九一
濠太利亞	一、八〇四	一、五〇三	八五〇	七三	五三	四九九	四五三	七四七
にう、おりあんす	一六〇	一三九	五二	二三	四二	九		
がるがゑすとん								五六
加奈陀 <small>(くまべつき及ヒもんせりある)</small>	五六	二四三	四三	五、三六	一、一九〇	四九〇	一八三	八五
亞非利加 <small>(けいぶたうん及ヒでらこあべい)</small>	三〇	一四	二		一七	六二	七五	三三
智利	一六		二	五	一三	三七	三四五	九三
こんごう	二二			一〇				
ぼるとせーど			一					
がゑら、くるうず			四					
亞細亞 <small>(古倫母及ヒ錫蘭)</small>						三〇		三四

論説及報告

はばな			五	二					
小計	三六、六五三	四、七六八	四、五三三	三六、〇六七	一三、九二一	一八、九九七	二三、四〇七	一四、九六〇	
接續汽船ニ乗リ赴キタル者	二、〇一一	二、六三一	三、一一八	四、三〇三	二六二	一、六九三	九七七	八三三	
安土府ヨリ乗船シタル移住民ノ總數	三六、六六四	五、四一九	四六、六五〇	四三、三七〇	一六、五三	二〇、六九〇	二四、三三四	一五、七九三	
安土府へ歸港シタル移住民ノ數	九七三二	二、四四三	一一、六三五	二二、九六五	一三、三〇二	七、六九五	九、六六四	七、六九〇	

改良ニ關スル考案

○ばつさんおぼあ (Bassin au Bois) 即チ木材用船溜所ニ關スル事

木材運送船用船溜所繫船壁附近ノ木材置場ヲ取除カンカタメ木材運送用船溜所附屬ノ上屋増築ノ問題アリ之レカタメかてんでいき (Katendjik) 及ヒれふゑぶる (Lefebvre) ナル両船溜所ノ東方繫船壁トゑつけれん (Eckeren) 間ノ土地ヲ木材置場ノタメニ收用スルニ至レリ此場所ハ鐵道及ヒ普通道路トモ交通甚タ便ナリ

木材ハ目下汽船積ノ方多キヲ以テ上屋ノ改築ト共ニ市ハ船溜所ノ周圍ニ在ル帆船々首ヨリ木材ヲ引キ出シ陸揚スルニ設ケラレタル石疊ノ傾斜面廢止ノ考案中ナリト云フ

○鑛石量定用ノ權衡附起重機据附ノ事

鑛石ノ重量ヲ量ルタメ從來ノ手數ヲ省カントスル目的ヲ以テ起重機二臺ニ試驗的ニ權衡裝置ヲ設ケタリ其一ツハ水力權衡器他ノ一ツハ普通權衡器ニシテ愈好結果ナリト認ムレハ總起重機ニ應用スル計畫ナリ尙鑛石ヲ貨車及ヒ舁船等へ移積スルノ便ヲ計リテ貳噸乃至三噸

位ノ浮揚起重機ヲ設ケントノ計畫アリ此種ノ起重機ハ通常ノモノニ比シ約二倍ノ代價ナレ
 凡至大ノ便益ヲ與フルハ疑ヲ容レス故ニ多分之ヲ應用スルニ至ラン

○修繕船渠料改正ノ事

此船渠料ノ定メ方ニ付不都合ノ點アリ僅ニ貳噸ノ相違アル船舶ニシテ其入渠料ノ差甚シキ
 ヲ以テ之ヲ改正センカタメ左ノ案ヲ提出セリ

壹千貳百五拾噸以下ノ船舶ハ $P = (0.65 + \frac{1}{15}N)T$

壹千貳百五拾噸以上ノ船舶ハ $P = (0.14 + 0.14N)T - 57N + 630$

右ノ内Nハ滯渠日數Tハむろそむ式船舶噸數而テPハ仕拂フヘキ船渠料ニシテ其金位ハ
 法ト知ルベシ但シ十四日以上滯渠ノモノハ其料此二倍額トス

此新率ハ一千八百九拾八年七月迄ハ未タ採用ニ至ラサリシナリ

○拔萃

○蒸氣タービンヲ備ヘタル最初ノ商船 ノ建造セラル、コトハ曾テ譯載セシコトアリ

シガ茲ニ其要領ヲ擧ケン該汽船ハくらいご旅客船ニシテ船名ヲさんぐゑどわーどト云ヒ長
 サ二百五十呎幅三十呎深十呎六吋最上甲板迄ノ深十七呎九吋ノ鋼製船ナリ烟筒二本橋一本
 ヲ備フ推進機ハばーそん式蒸氣タービン三基ヨリ成リ各一本ノ螺旋軸ヲ具フ中央ノ螺旋軸
 ニハ螺旋一個ヲ兩端ノ螺旋軸ニハ螺旋各二個ヲ取付ケタリ汽罐ニ於ケル汽壓百五十封度ノ